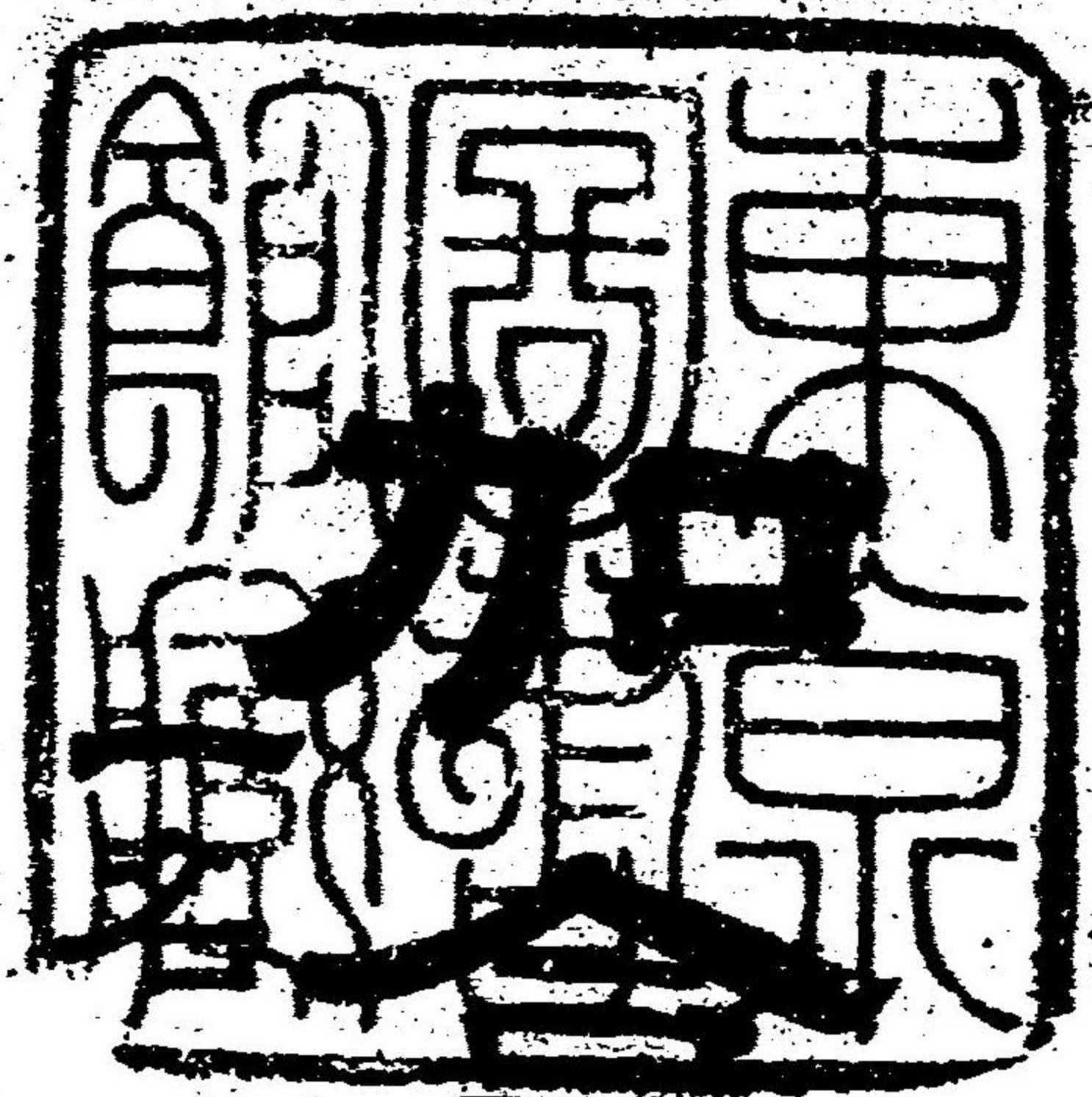


18925/1897

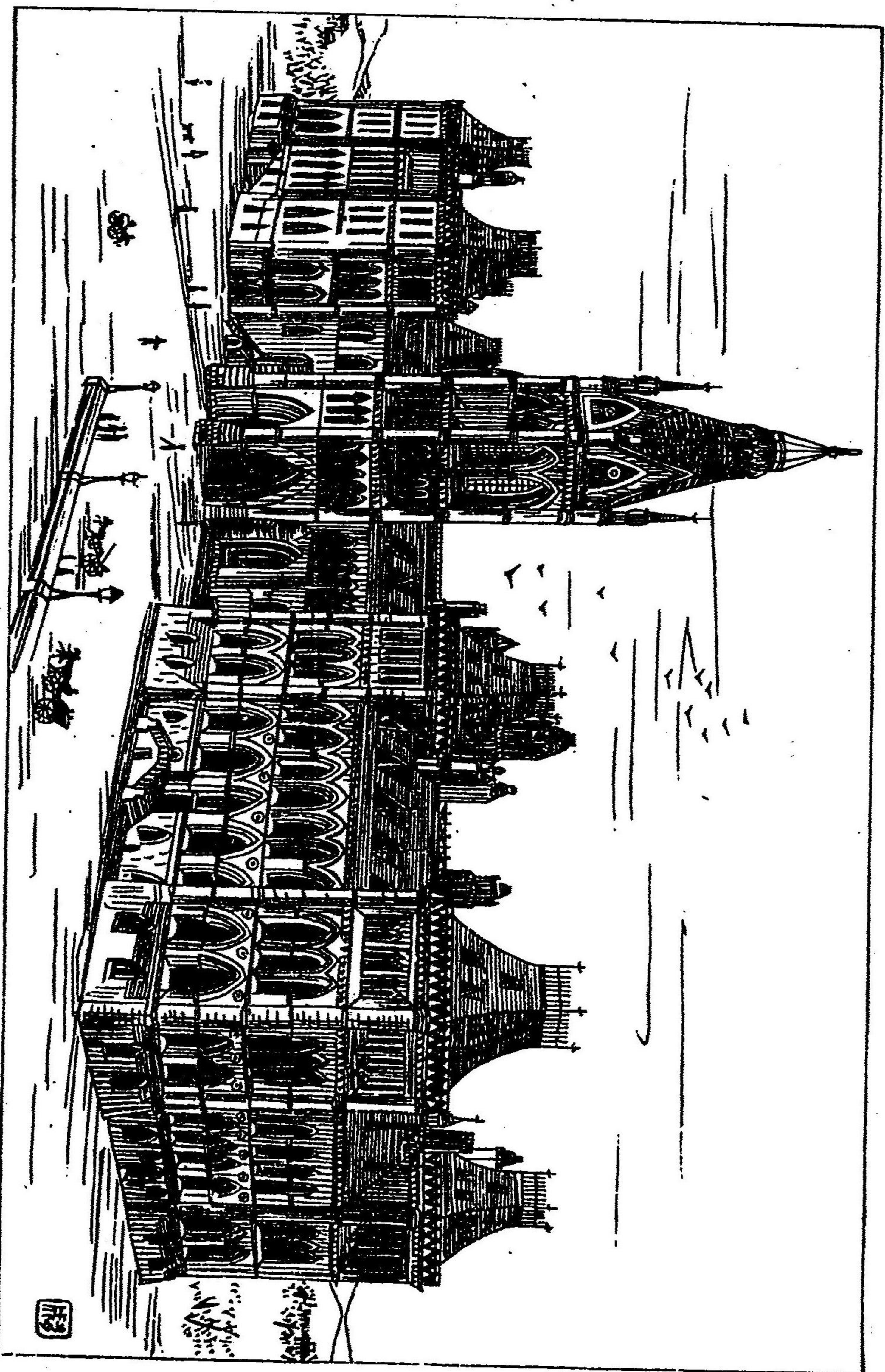
農學士 山下敬太郎著



加美陀富源
貿易及移住案内

東京 丸善商社





緒言

我國ヲシテ東洋ノ英國タラシメ亞細亞ノ金庫タラシ
 ヲシト欲セバ盛シニ海外移住ヲ計リ内ハ工業製造ヲ
 興起シ外ハ交通貿易ヲ擴張スルヨリ急且功ナルハ莫
 シ難何ニ論者カ噴々法律ノ改正ヲ唱ヘ暇々政事ノ得
 失ヲ談スルモ無生産的ノ議論ハ富國強兵上ニ毫モ益
 ニスル所ナキナリ予ヤ海外貿易及殖民ノ志望ヲ懷ク久
 シ往年黒田内閣カ加拿大ニ領事館ヲ設置セラル、ニ
 當リ時機失散スカラズト思惟シ奮然蹶起シテ杉村領
 事ト共ニ彼地ニ渡航シ親シク各地ヲ巡歴シテ貿易及

殖民ニ關スル事項ヲ調査セルコト二年餘頃日編次シ
 テ之ヲ一小冊トナシ題シテ加拿陀ノ富源一ニ又貿易
 及移住案内ト名ク固ヨリ漫遊記若クハ風土記ノ類ニ
 非サレハ務テ事實ヲ記スルヲ旨トセリ而シテ余カ此
 書ヲ編次セル所以ハ彼地ニ渡航セントスル人ノ爲メ
 ニ聊便セントスルニアレハ文辭ノ繁縟意味ノ重複ノ
 如キハ敢テ願ミル所ニアラサルナリ讀者諸君ニシテ
 微意ノ存スル所ヲ諒察セラルレハ幸甚

著者識

加拿陀富源

目次

第一章	來歴	一
第一項	地形及地勢	五
第二章	地誌	七
第一項	位置境界及區劃	全
第二項	面積及人口	十二
第三項	氣候	十五
第三章	内地旅行	十七
第一項	晚香波線路	二十
第二項	トロント及チカゴ線路	四十七
第三項	セントジョン及ハリファクス線路	五十一

第四項	シエベック線路	五十四丁
第四章	政林及政治ノ組織附財政	五十六丁
第五章	交通	六十四丁
第一項	運河	六十六丁
第二項	郵便	六十九丁
第三項	電信	七十八丁
第四項	鐵道	八十三丁
第六章	産業	八十九丁
第一項	農業	全丁
第二項	山林	九十八丁
第三項	鑛業	百〇二丁
第四項	水産	百〇六丁

第五項 製造

第七章	商業	百二十九丁
第一項	日加貿易ノ必要	全丁
第二項	輸出入ノ手續	百四十丁
第三項	日加貿易ノ手續	百六十三丁
第四項	加拿陀ニ於ケル外國貿易	百七十七丁
第五項	加拿陀ニ輸出スル日本重要品	百九十九丁
第六項	日加貿易ノ擴張	二百十五丁
第七項	英領哥倫比亞貿易景况	二百十七丁
第八項	税關規則	二百三十丁
第九項	加拿陀税目	二百四十八丁
第十項	通貨及銀行	二百五十三丁

第八章 英領哥倫比亞州諸市街ノ商業……………二百五十七丁

第一項 ヱイクトワヤ……………全丁

第二項 ニエウエストミンスタ……………二百五十九丁

第三項 ナ、イモ……………二百六十丁

第四項 晚香波……………二百六十一丁

第五項 商業ノ習慣……………二百七十一丁

 (1) 手數料……………二百七十二丁

 (2) 商品倉敷料……………二百七十五丁

 (3) 商業規則……………二百七十六丁

 (4) 商品保險料……………二百七十七丁

 (5) 埠頭稅……………二百七十八丁

第六項 信用スヘキ銀行並爲換取組……………二百七十八丁

第七項 合衆國及加拿陀貨幣相場ノ差……………二百八十二丁

第八項 船舶入港手數料……………二百八十一丁

第九項 哥倫比亞州營業規則……………二百八十六丁

第十項 晚香波市ノ營業稅……………二百九十二丁

第十一項 行商ノ心得……………二百九十三丁

第九章 移住民策……………二百九十五丁

第一項 新市街ノ發達……………全丁

第二項 在米移住民ノ種類……………三百丁

 (1) 歐洲ノ移住民……………全丁

 (2) 支那ノ移住民……………三百〇二丁

 (3) 日本ノ移住民……………三百〇八丁

第三項 北米太平洋沿岸移民論……………三百十三丁

(1) 移住ノ急務.....	三百十三丁
(2) 移住民會社設立ノ.....	三百十九丁
(3) 北米太平洋沿岸ハ日本人ノ移住ニ適ス.....	三百二十五丁
(4) 北米出稼人及移住人ノ資格.....	三百二十九丁
(5) 職業及賃金.....	三百三十三丁
(6) 生計ノ費用及物價.....	三百三十六丁
第十章 官有地拂下借地及歸化法.....	三百四十六丁
第一項 豫賣登錄法.....	三百四十八丁
第二項 森林借區法.....	三百五十二丁
第三項 鑛山借區法.....	全丁
第四項 牧場借區法.....	三百五十二丁
第五項 合衆國土地拂下法.....	三百五十三丁

第六項 地價及土地賣買.....

第七項 歸化法.....

附 錄

加拿陀移住ニ付杉村領事ノ意見書.....	三百六十三丁
日本人ノ移住ヲ望ム傾向并其理由.....	三百六十七丁
日本人ノ移住ヲ計ル.....	三百六十八丁
西部加拿陀移住見込ノ地方并其事業.....	三百七十一丁
太平洋海底電線架設ノ計畫.....	三百七十四丁
開龍世界大博覽會下加拿陀州ノ大觀察.....	三百七十八丁
始メテ米國ニ渡行セントスル人ノ手引.....	三百八十二丁
(1) 桑港線暹羅香波線トノ比較.....	三百八十三丁
(2) 船賃及切符.....	三百八十六丁

(3) 船舶及乘船注意..... 三百八十八丁

(4) 晚香波税關..... 三百九十二丁

(5) 着船及ヒ上陸後ノ注意..... 三百九十四丁

(6) 晚香波ヨリ諸地方ニ通スル汽船鐵道..... 三百九十七丁

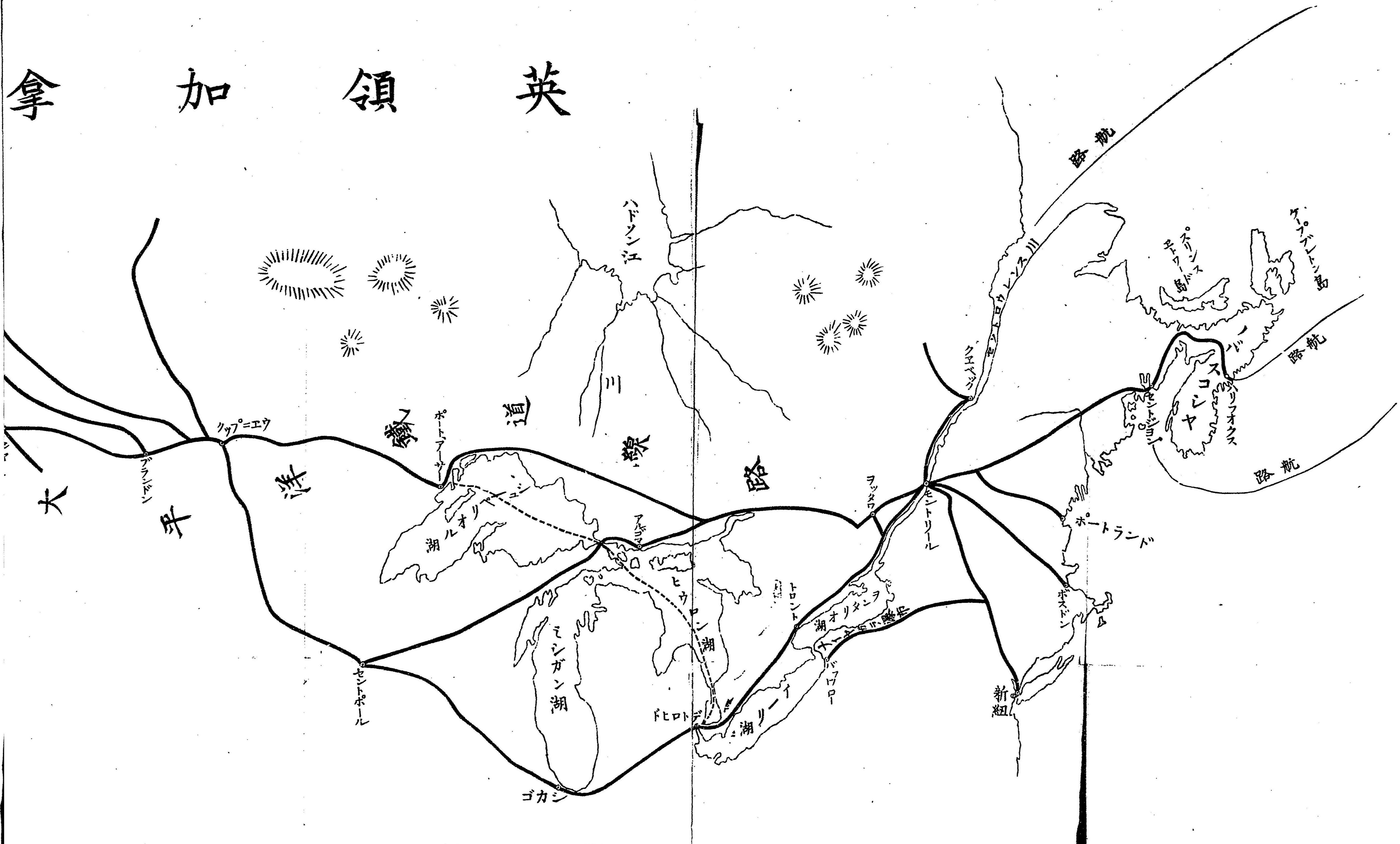
出稼者注意ノコト..... 四百 丁

閣龍世界大博覽會渡航者心得..... 四百五丁

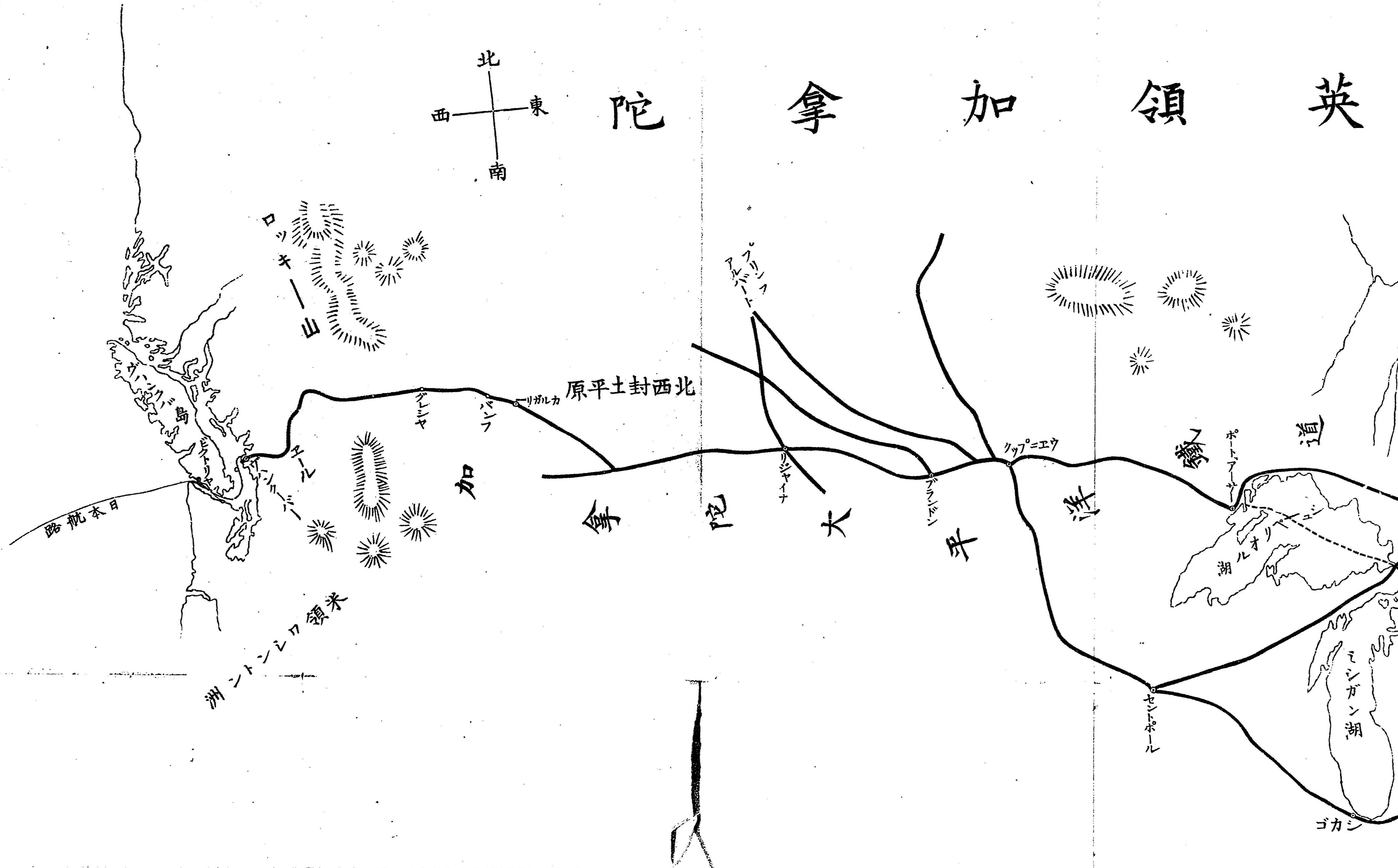
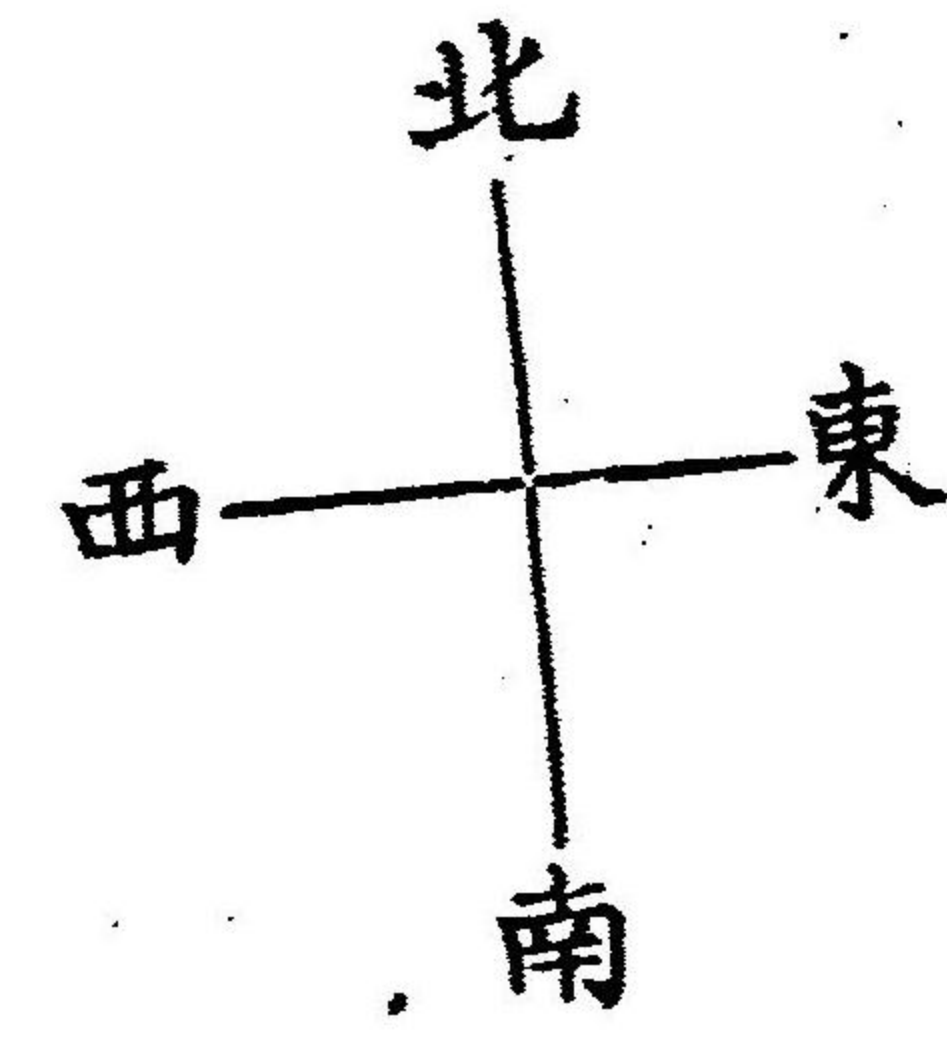
加拿陀富源目次終

西北

英領加拿大



英領加拿大陀拿

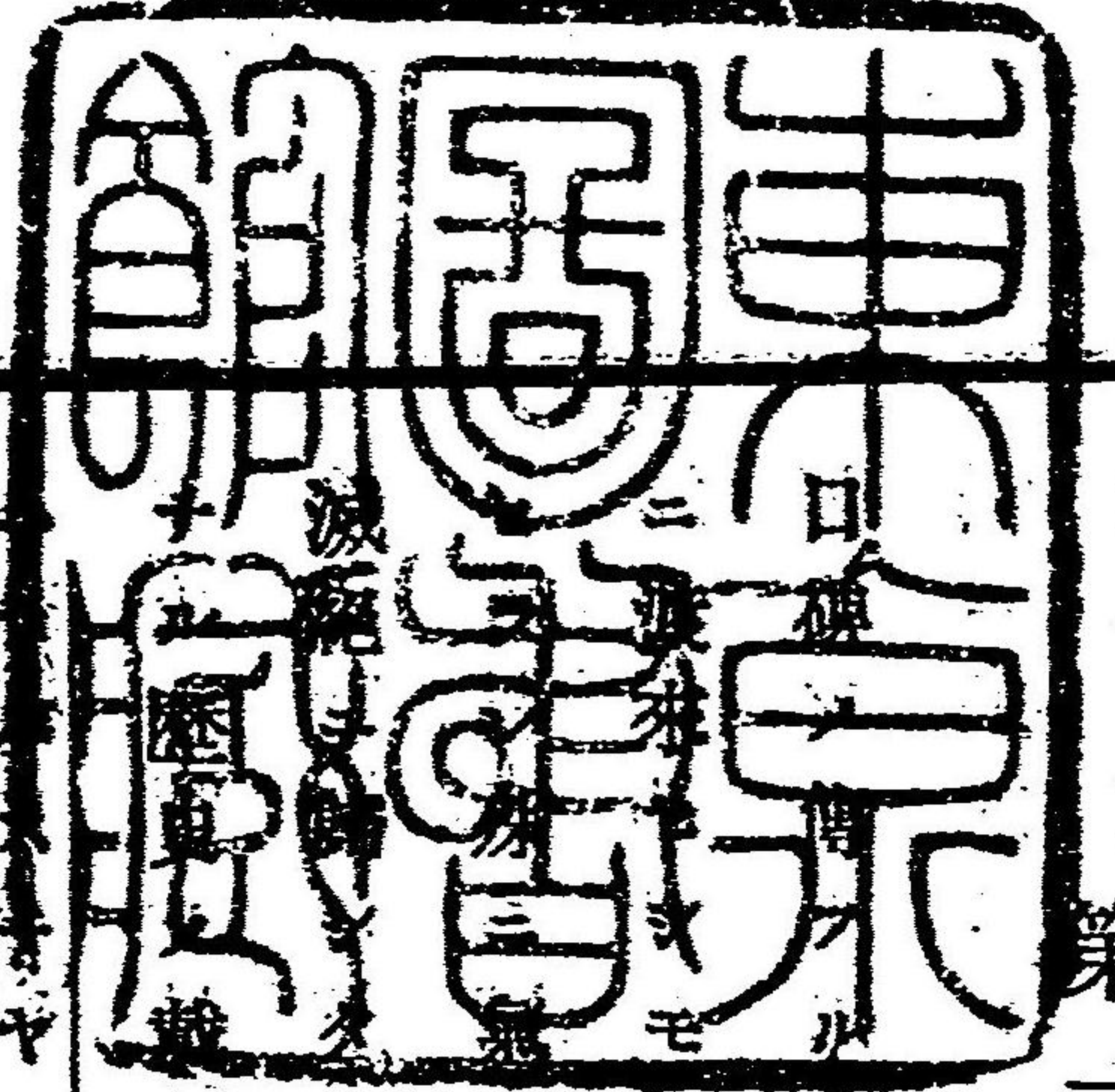


加拿陀富源

農學士 山下敬太郎 著

第一章 來歴

口 據レハ十世紀ノ中頃ニ於テ歐洲諸國ヨリ北米大陸
 二 渡ルモノ少ナカラザリシガ或ハ餓死シ或ハ猛獸ノ爲メニ咬殺
 三 候ノ不適當ナルヨリシテ人々其生ヲ遂タル能ハス莫クニ
 四 然レモ此等ノ事蹟ハ得テ考徵スルノ便ナシ今正確
 五 ナル所ニ據ンハ歐洲ヨリ始メテ加拿陀ニ渡來セシモノ
 六 以テラフランドノ海岸ニ着シ二日ヲ經テニユーラウツワンド嶋ヲ發見
 七 セリ而シテ彼ノ西大陸發見者ヲ以テ有名ナルコロンバス氏ハ其翌々



第一章 來歴

一

千四百九十八年西印度諸嶋ニ着シタルナリ、又亞米利加テウ洲名ヲ後世ニ胎シタルアメリゴベスプエロ氏ハ千四百九十九年始メテ此地ニ來着シタルノミ、故ニ加拿陀發見ノ名譽ハ之ヲコバート氏ニ歸スヘク、氏ハ實ニ最初ノ渡來者ナリト謂ハザルヲ得ス。

抑々歐洲ノ航海者カ西半球ヲ發見スルニ至リタル原因ハ當時歐亞間ノ貿易日ニ盛大ニ赴クカ爲メ其交通ノ便利ヲ計ラントシタル偶然ノ結果ニ外ナラズ、其意以爲テ地球ハ圓牀ナレハ西ニ直航スレハ東ニ還ラノコト必セリ、乃チ亞細亞ハ歐洲ノ東部ニ位ス、故ニ歐洲ヨリ海上西ニ進航スレハ必ス其地ニ達スル能ハサルノ理ナシト、斯クテ西方ノ直航ヲ試ミルモノ年ヲ遂フテ増加シ其豪膽ニシテ智力ニ富ミタル航海者ハ、亞細亞ニ達スルニ非スシテ歐洲ノ西ト亞細亞ノ東トノ中間ニ在ル亞米利加ナル一大新陸ヲ發見スルニ至リタルナリ、サレハ一タヒ

新大陸ヲ發見シ此大陸ヲ超ユルニ非ス、ハ最初熱望シタル亞細亞ノ東部ニ出ツル航路ヲ得ル能ハザルヲ覺リタリト雖、數多ノ航海者ハ更ニ一大希望ヲ起シ新大陸ノ兩端ヲ通過シテ亞細亞ノ東部ニ達セシコトヲ謀レリ、此計畫中最モ衆人ノ注目ヲ惹キタルハ亞米利加ノ北端ヲ廻リテ亞細亞ニ出テントスルノ航路ニシテ、多年探求ノ爲メ幾多ノ航海者ヲ犠牲ニ供シ、遂ニ北海ハ万古不融ノ堅氷ニ鎖サレ全ク素志ヲ貫ク能ハザルヲ知リタリト雖、是ガ爲メニ却テ北方ノ探求ヲ進メ土地發見ノ大功ヲ成サシメタルコト少ナカラス、今ノ加拿陀ハ全ク此等大志ヲ抱ケル探求者ノ爲メニ十分ニ發見セラレタルナリ、殊ニ千六百年代ノ初メヘンリー、ハドソン氏カ、紐芬蘭中ニ投シ上陸シテ其地味氣候ヲ相シ、後來一大富源ノ殖民地タルベキコトヲ知リタルヨリシテ、加拿陀移住民ノ盛大ヲ來タシ、千六百六十九年英王チャールス

二世ノ特許ヲ受ケテ設立シタルハドソン灣商會ハ北米ノ地理探求上
 ニ一新紀元ヲ與ヘタリ當時北氷洋中ノ諸島ハ亞細亞通航路探求ヲ目
 的トセル航海探求者ノ爲メニ頗ル發見セル所アリシカド内地ニ至リ
 テハ空漠万里ノ曠野ニシテ進ミテ西方ニ内地ノ遠征旅行ヲ企テタル
 モノ稀ナリ然ルニ一タヒハドソン灣商會ノ設立アリテ加拿陀ノ産出
 ニ富メル獸皮ヲ唯一ノ商品トシテ輸出シ始メシヨリ野獸ヲ獵獲スル
 カ爲メニハドソン灣ヨリ次第ニ西シテ途ニ數千里ノ草海ヲ通過シロ
 ツキト山嶺ノ下ニ達セリ是ヨリ内地並ニ諸島ノ探求愈々開ク一トシ
 テ明瞭ナラザルモノナク之ト共ニ殖民ノ人口益々其數ヲ増セリ
 加拿陀ハ元來英佛兩國ノ重ナル殖民地ニシテ兩國國民ノ侵略ヨリ時ト
 シテハ激裂ノ争鬪ニ及ヒシコトアリ然ルニ遂ニ佛國人ノ勝ヲ制スル
 所トナリテ全洲ヲ擧ケテ久シク其本國ノ領地ニ屬セシメシガ千七百

ナシウ井ニベツク湖ヨリロツキト山嶺ノ東麓ニ達スル間ニマニトバ
 州アリ北西地方アリ而メロツキト山嶺ノ西ヨリ大平洋沿岸ノ一帯ヲ
 英領コロンビヤ州トナス近時東洋ノ交通日ニ開クルニ當リ長足ノ進
 歩ヲナシテ將ニ東方諸州ヲ凌駕スルノ繁榮ニ達セントスルノ勢アリ

第一項 地形及地勢

加拿陀ハ廣大ノ面積ヲ有シ數千里ヲ隔テ、太平洋西ノ兩大洋ニ挾マ
 リ北ハ北氷洋中ニ達スルヲ以テ氣候ノ異同甚ク隨テ動植物ノ種類
 モ亦一様ナラズ是ガ爲メ到處大ニ其觀象ヲ異ニセリ抑モ東部ノ諸州
 ノバスコシヤシエベツクニ於テハ森林鬱蒼トシテ千年ノ古色ヲ存
 セリ進テ中部ニ入レハマニトバ州ノ如キ又ハ北西地方ノ如キハ渺茫
 タル草海ニシテ殆ソド際涯ナク一丘一樹ノ存スルヲ見ス、全面唯草ヲ

以テ被ハレタル曠野數千哩ニ亙レリ、近來鉄道ノ便ヲ得ルト雖モ尙ニ晝夜ヲ費スニ非スンバ之ヲ經過スルヲ得ス、實ニ世界ノ偉觀タリ、是ヨリ太平洋ニ向ヒロツキ、山嶺ニ近接スレバ岩壁屏風ノ如ク峙立シ、岩上ニ日本松ノ青々ト繁茂セルハ本邦人ヲシテ轉故國ノ思ヒアラシムロツキ、山ハ有名ノ大山脈ナリ、此山脈ハ北方アラスカヨリ起リ太平洋ニ沿ヒテ加拿陀ノ西部ヲ貫キ合衆國ニ入ル、其中ノ最高山チベリカ、山トナス高サ一万余六千尺ナリ、加拿陀太平洋鉄道ハ此山嶺ヲ通過シ谷ニ架シ嶺ヲ廻リ蜿蜒トシテ登ルコト五千三百尺ノ高度ニ達ス、此山嶺ヲ越ユレバ英領コロンビヤ州ニシテ瀟目ノ風景嶺東ト一變シ氣候溫暖地味肥沃太平洋ノ沿岸數百里ニ亙レル原野ナリ、ハドソン海ノ西北ニ跨レル未開ノ地數千哩間ハ、氣候酷寒ニシテ猛獸出沒スルニ由リ世人ハ概テ瘠土ニシテ耕作ノ用ニ適セザルベシト想

六十三年二月十日巴里ノ大會議ニ於テ一變シテ英國ノ版圖ニ歸シ、加拿陀殖民地ト稱スルニ至レリ、加拿陀ナル名稱ハ何レヨリ由來セシカ未一定ノ說アラザンモ、恐ク土人ノ語、カンナザリ「ヨリ轉訛シタル者ナラン、カンナザリトハ部落若クハ小屋ノ集夥ト云フノ義ナリ、本土最初ノ移住民カリーチヤ氏或時土人ニ向ヒ此土地ヲ何ト稱スルヤト問ヒシニ、土人十分ニ其意ヲ解セス漫然カンナザリト答ヘタルヨリ、氏ハ此訛稱ヲ後世ニ流シタルモノナルベシト云フ

第二章 地誌

第一項 位置境界及區劃

加拿陀ハ合衆國ノ北ニ隣レル地方ノ總稱ナリ、緯度四十二度乃至四十

五度ヨリ起リテ北端ニ盡クルマテ皆之ニ屬ス、故ニ面積ノ廣キコト世
 界ニ著ルシク北米大陸ノ六分ニ居ル
 北ハ北氷洋ニ接シ、東ハ大西洋ニ面シ南方合衆國ニ境セル處ニハ多ク
 ノ湖水アリテ天然ノ分界ヲ成セリ、而シテ西ノ一帯ハ太平洋ニ臨ム
 加拿陀政治上ノ區劃ハ合衆國ニ接シタル一帯ノ地ヲ七州ニ分ツニ止
 マリ、ハドソン灣以北及北氷洋ニ接スル諸島ハ未州ヲナスニ至ラス其
 單ニ北西地方ト稱スル所ハ近來移住民日ニ月ニ増加シ將ニ一大農國
 ニ化セントス州名ヲ附スルハ蓋シ近々ニアラン思フニ將來加拿陀ノ
 最要部トナラン、其大西洋ニ突出セル半島ヲノバスコシヤ州トナシ、其
 北ニ隣リテアリノス、エドワード島州アリ、ノバスコシヤ州ヨリ西ノ方
 セント、ロレンス河ニ至ル間ヲニユブランスウイック州トナシ、之ニ
 連リテオニベツク州アリ、シユロペリオリ湖ノ沿岸ヲテラントナリ、オ洲ト

像セシカ、近頃政廳ノ報告ニ據ンハ地味膏腴ニシテ耕作ノ用ニ適スル
 ノミナラス幾多ノ天然産物ニ富ムト云ヘリ眞ニ豫想外ニ出テタリト
 謂フベシ抑モ政廳ニテハ千八百八十八年ノ議會ニ於テ該地方探檢ノ
 經費ヲ可決シタルヲ以テ數多ノ技師ヲ派出シ其實際ヲ調査シ且ツ土
 地ノ測量ヲ爲サシメタルニ、其檢定シタル面積百二十六方方哩ノ内八
 十六方方哩ハ移住耕地ニ適シ、四十方方哩ハ建築材ニ供シ得ベキ樹木
 繁茂セリト、又鑛物ニハ銀、鉄、石墨、赭石、陶器用ノ粘土、石綿、石膏、石炭等
 アリ、石油ノ湧出スル地面モ甚タ多シ、其他加拿陀ノ特産物タル獸皮ハ現
 ニ此地方ヨリ年々産出スルヲ少ナカラス、ハドソン灣商會ハ千八百八
 十七年中ニ於テ四百貳十萬個ノ獸皮ヲ買收シタリト云ヘリ、又此地方
 ニ散在セル湖水中ニハ魚類頗ル繁殖シ一産物トナルベキ目的アリ、而
 シテ其氣候タルヤ酷寒ニシテ世人ハ人血ヲ凍結セシムル如クニ思惟

シタンドモ決シテ然ルニ非ス、人民ノ生殖ニ敢テ妨ケアルコトナシ、事情
 既ニ斯ノ如クナレバ巨大ノ資本ヲ擁シ且ツ進取ノ氣力ニ富メル白哲
 人種ハ、必スヤ偉大ノ事業ヲ企テ、幾年ノ後ニハ刮目スベキ新開地ト
 ナサント疑フ容レザルナリ

加拿陀内地ハ一面ノ平原曠野タルニモ拘ハラズ能ク數多ノ移住者ヲ
 招ク所以ノモノハ、水利ノ便宜シキニ因ラズンバアラズ、若シ之ヲシテ
 水利ノ便ナカラシムレハ交通ノ不便ハ勿論、灌溉排泄ノ利ニ乏シクシ
 テ今日ト雖田猶無人境タルコトヲ免レサル可シ、東部ニハ無數ノ大小
 灣アリ就中廣大ナルハハドソン灣ニシテ長サ千哩、巾二百哩、其面積三
 十五万方哩アリ、此灣ノ南岸ヨリ大西洋ニ瀕シタル地方ハ水利最モ宜
 シク加拿陀最初ノ殖民地ナリ、又太平洋沿岸ニテモ當初内地交通不便
 ナリシ頃ハ殖民ノ盛ナルヲ見ザリシガ、大鐵道ノ敷設アリテヨリ元來

海運ノ便自在ナルヲ以テ日ニ繁榮ニ向ヘリ、内地ニハ無數ノ湖水到處
 ニ散在シ茫乎トシテ際涯ヲ見ザルノ大湖ニ乏シカラズ、各湖水ノ總面
 積ヲ合算スレバ世界ノ湖水ヲ合一シタル面積ノ上ニ出ツルナリ而シ
 テ其有名ナルモノハスーペリオ湖、ヒュウロン湖、イリー湖、オンタリオ
 湖及ヒミチガン湖ノ五湖ニシテミチガン湖ハ合衆國ニ屬スト雖モヒ
 ユロン湖ニ接シ大ニ加拿陀ノ水利ヲ助クルモノナリ、此五湖ハ孰レモ
 加拿陀合衆國間ノ交通ヲ便ニスルヲ以テ其所有ノ地方ハ東部沿岸ノ
 諸州ニ次キ能ク開ケタル殖民地ナリトス

河流ノ便ナルモノハ東部ニ有名ナルセント、ローレンス河アリ、急流ナ
 リト雖モ世界無比ノ完全ナル運河ヲ造レリ、即チペルアイルス瀬戸ヨ
 リスーペリオ湖ニ至ル二千三百八十四哩間ニ數十ノ運河アリテ、英國
 及ヒ大陸諸國ヨリ往來スル船舶ノ數年々數百艘ニ上レリ、是レ東部加

拿陀ノ速ニ繁榮セシ所以ナリ、其他諸大河ノ縱横ニ流レテ内地ノ湖水ニ注クモノ甚ク多ク孰レモ其幅廣クシテ船舶ノ往來ニ便ナリ而シテ各湖水ヲ連絡スルカ故ニ交通ノ便ハ實ニ自在ナリトス、殊ニ西北部ニ在ルマツケンゾー河ノ如キハ二千四百哩余ノ長流ニシテ、蜿蜒トシテ曠原ヲ廻リ北海ニ注ク、千七百八十九年マツケンゾー氏此河流ヲ下リテヨリ頓ニ西北地方ノ地理ヲ明ニシ移住民ノ數ヲ進メタリト云フ以テ其利ノ便ナルヲトスルニ足レリ

第二項 面積及人口

土地ノ面積ハ三百四十七万三千九十二方哩、即チ四千五百三十五万八千四百一十一「エーカー」ニシテ英國諸殖民地ノ四割ヲ占ム、此他湖水ノ面積三百六十万方哩ニ下ラザレハ之ヲ合スルホハ實ニ世界ノ大殖民地

ナリ、爰ニ今ヨリ十三年以前即チ千八百八十一年ニ於ケル開拓地面ノ統計ヲ擧グレハ

耕作地千百一十一万二千二百八十四「エーカー」

牧畜地六百三十八万五千五百六十二「エーカー」

園藝地四十一万一千三百三十五「エーカー」

ナリト雖、爾後開拓ハ益其歩ヲ進ムルカ故ニ今日ニテリテハ之ニ倍スル増加ナルヤ疑ヒナシ

人口モ亦其増加ノ度急ニシテ千八百年ニハ二十四万人ニ過ギザリシガ、千八百二十五年ニハ五十八万一千九百二十八トナリ、千八百五十一年ニハ百八十四万二千二百六十五人トナリ、千八百七十一年ニハ三百六十三万五千二十四人トナレリ、今爰ニ千八百八十一年ニ於ケル各州ノ面積並ニ人口ヲ表示スベシ

州名	面積	人口		合計	一方哩ニ付人口ノ割合
		男	女		
プリンス、エドワード島	二、一三三	五、七二九	五、四一六	一〇、八八九	五
ノバ、スコシヤ	二〇、九〇七	二二〇、五三八	三三〇、三三四	四四〇、五七二	三三
ニュー、ブランズウィック	二七、一七四	一六四、一一九	一五七、一一四	三二一、二三三	一一
クエベック	一八八、六八八	六七八、二〇九	六八〇、九一八	一、三五九、〇二七	七
オンタリオ	一八一、八〇〇	九七六、四六一	九四六、七六七	一、九三三、二三八	一九
マニトバ	六〇、五二〇	三七一、〇七	二八、七四七	六五、九五四	〇五
英領コロロンビヤ	三四一、三五〇	二九、五〇三	一九、九五六	四九、四五九	〇一四
北西地方及北洋諸島	二、六四七、七三〇	二八、一一三	二八、三三三	五六、四四六	〇〇二
合計	三、七〇七、三三三	二、一八七、七九九	二、一三六、〇三一	四、三二三、八一〇	一、二三四

加拿陀ニテハ十年毎ニ一度ノ人口調査ヲ爲スニ止マルヲ以テ右ノ調査以來未報告ヲ得スト雖モ然レモ殖民ノ迅速ナル度ヨリ推セハ現今ハ五百万人ニ下ラザル可シ

第三項 氣候

加拿陀ハ廣袤數千哩ニ跨リ隨テ氣候ニモ大差異アルコト猶我九州ト北海道トニ於ケルガゴトシ、太平洋沿岸ハ日本ヨリ流ル、黒潮ノ暖氣ヲ受ケ、頗ル温暖ニシテ四時恰モ我カ東京若クハ仙台ニ於ケルガ如シ、殊ニ四時ノ變化甚シカラスシテ英領コロロンビヤ州中或地方ニテハ年同一ノ衣類ヲ纏ヘルモノ多シ、東北ニロツキ、山嶺ノ聳ユルアリテ大平洋ヨリ蒸發スル水分ヲ遮リ絶エス凝結セシムルカ故ニ雨量甚タ多シ、然レモ晚香波港近傍ニテハ積雪モ四五寸ニ止マリ其融解スルコト速カナルヲ見レハ以テ其温暖ナルヲ知ル可シ、ロツキ、山脈ヲ踰ヘテ東ニ出レハ有名ナル大草海ニシテ水面ヲ距ル、遠キガ故ニ降雨至テ稀ナリ、寒威強クシテ年來住居シ慣レタルモノニ非ス、ハ耐フル、

シ、彼ノウイニバツク市街ノ如キハ寒暑鹹時トシテ零度以下五十度ニ降ルコトアリ、是ヨリ東方トロントノバスコチヤ近傍ニ至レハ稍々暖氣ヲ増シ我カ青森若クハ函館ニ髣髴タリ、斯ク寒氣強シト雖モ空氣ハ極メテ乾燥ナレハ疾病ヲ醸スノ憂ナク、人身ノ健康上ヨリ云ヘハ寒氣ノ強キハ恐ル、ニ足ラザルナリ

左ノ表ハ千八百八十五年ノ調査ニ係リ、全國百零五ヶ所ノ測候所ヨリ集メ其平均ヲ算出シタルモノナリ

州名	雨量	雪量	寒暖最高平均	寒暖最低平均
チンタリオ	二六、三五	六五、六	四、八七	三二、二
クエベック	三三、二	一六、八	三、九七	三、〇七
ノバ、スコシヤ	四七、二六	九三、六	四、五〇	四、〇八
ニュー、フランスウイック	三八、三	一〇、九	四、一〇	三、九八
マニトوبا	四三、一	二二、二	三、七五	三、二四

第三章 内地旅行

近世ノ新開地ニ在ラズ交通ノ便先ツ開クヲ殖民ノ繁榮之ニ從テ常下ス、故ニ加拿陀ノ如キハ最近ノ殖民地ニシテ而モ世界無比ノ大生産國タル英吉利ノ版圖ニ屬スルハ機械ニシテ金力ニ富タル英人ハ巨額ノ資本ヲ投シテ交通ノ便ヲ開キ速ニ殖民ヲ實テ擧ゲテ徐ニ資本ノ報酬ヲ收メシト計ルモ多ク鐵道先ツ通ルヲ殖民之ニ從テ以テ對處ニ繁榮ノ市街ヲ成セテ故ニ内地ヲ旅行シテ著名ノ都市ニ到ラシト大ニ便ニシテ鐵道ノ便備ハテザルナレ

加拿陀ノ鐵道ハ東部ニ偏在セリ、モントリオール市街ヲ以テ中心トナシ、是より東西南北ニ分派ス、其最長ナルモノヲ加拿陀太平洋鐵道トナシ、西方ヅクハ、セントポール港ニ達ス、延長二千九百六哩ニシテ實ニ世界ノ大鐵道ナリ、而シテモントリオールヨリセントポール及ヒハリアンズオックス間ノ線路ハ延長七百五十八哩アリ、又モントリオールヨリクエベックマデ三千零五十哩、并ニモントリオールヨリトロント市マテ三百四十四哩ヲ以テ加拿陀鐵道ノ四大幹線トナス、其他ハ孰レモ此幹線ヨリ分派シテ架設セルモノナリ

加拿陀鐵道ニ據リ合衆國ノ諸市府ニ赴クニハモントリオールヨリ紐育ボストン、ポリアンドノ諸市ニ直達ノ線路アリ、是レヨリ更ニヒラデルヒヤ、ワシントン等ノ東部諸都府ニ到ルヘク、又千八百九十二年即チ我明治二十六年ニ開設セントスル世界大博覽會ヲ以テ有名ナルシカゴ

府ニ往クニハ二條ノ鐵道ト一ノ湖上汽船航路アリ、鐵道ハ加拿陀ノ東部ヨリスレハ、モントリオールヲ發シ、トロント市ヲ經テ直達スヘク、又中部ヨリスレハ、ウイニペックヨリ分テセントポールヲ過キ之ニ達スルナリ、其汽船ヨリスレハ、アイザック港ニテ加拿陀太平洋鐵道ヲ下車シ、スーペリア湖ノ汽船ニ乗シテミチガン湖ヨリ進ム

今爰ニ加拿陀内地ニ於ケル四大幹線トモントリオールヨリシカゴ府ニ達スル鐵道トノ通過スル諸市街及ヒ名所偉觀等ヲ記載シ、以テ此鐵道ニ據リテ旅行スルモノニ注意ヲ與ヘ、併セテ讀者ノ參考ニ供セント欲ス

次ノ記事ノ中、隘頭ニ記載セルハ、基本地ヨリノ哩數及ヒ發車時間トス、而シテ▲ノ符號ヲ冠スルハ、其停車場ニ於テ食事ヲナスカ爲メニ二三十分間ノ休息ヲ爲シ得ルヲ示セルナリ、因ニ此ノ鐵道ノ時

間ハ二十四時間ヲ通シテ稱呼シ午前午後ヲ分テス又東西數千哩ヲ疾行スルトキハ到處時間ノ差異ヲ生スルヲ以テ豫メ定ムル時間ノ變更アリ旅客ハ能ク注意セザレハ測ラサル迷惑ヲ來スベキル可シ

第一項 晚香波線路

晚香波發車
哩程時分

市街及ヒ記事

○二三(五)晚香波(記事ハ別ニ掲ク)

○二三(四)三(ミ)ツシヨ(有名ナル羅馬教ノ土人學校アリ晚香波ヨリ此地ニ到ルノ間ニ鬱著タル森林ニ富ミ、鐵道ヲ敷設スルガ爲メニ伐採シタル樹木ノ跡跡極メテ偉大ナルハ、人ヲシテ千古ノ大樹林ヨリ餘リテ憶想セシム、是ヨリ有名ナル六ノカノ山

眺望スルヲ得、ベーカー山ハロツキ、山嶺中第二ノ高峰ニシテ直立一万余尺、其形我富士山ニ彷彿トシテ高ク雲際ニ聳ユルヲ見レハ、本邦ノ旅客ヲシテ加藤肥州ヲ望嶽ノ美談ヲ追想シ、覺ニス頓テ脱シテ拜スルノ念ヲ起サシムヘシ、旅客ノワシント州ニ赴カントスルモノハ此處ヲ通過セル支線ニ據ルベシ

○二三(五)九(ハリソ)ベーカー山下ニアリ、高山眼前ニ峙立スルカ故ニ眺望佳ナラスト雖、此地ニハ温泉アリテ夏期ハ浴客常ニ來集セリ、極メテ閑靜ニシテ雅潔ナル、ホテルアルニ由リ旅客ノ投宿スルモノ少ナカラス

○二三(七)三八(エ)現在ノ人口六百ニ過キサル小市街ナレド、ワシザ
I 河流瀛船航路ノ起點ニ當リ舟楫ノ便タルニ由リ最モ早ク

開ク英領閣龍比亞州中最古ノ市街ナリ今ヨリ五十年前ハ
 土人トノ貿易場ニシテハドシノ灣商會ハ貿易ノ主權ヲ有シ
 盛ニ營業シタルハ當地ハ三四千ノ人口ニ達シ近隣ニ比類ナ
 キ繁榮ヲ保テタリシガ鐵道ノ開通ト共ニ其商業ハ他ノ地方
 ニ奪ハレ、人口次第ニ減少シテ土地衰微家屋荒廢シ人ヲシテ
 桑滄ノ感自ラ止ム能ハサラシム而シテ今日ニ在テハ唯鐵道
 ニ沿ビ民家ノ寥々トシテ散在スル晨星ノ如キヲ見ルノミ、此
 等ハ概テ支那人ノ砂金採集ニ従事セル者ナリ、此地ヨリシテ
 有名ナルロックス山嶺ニ登リ初ム
 一九二六ノイヌスノド海面ヲ抜タコト四百五十五呎夕飯時曠ス
 ▲夕停車場ナリ地ハ已ニ海抜十山中登在リテ起伏セル山勢
 接シ眼前ニサシサリ河ノ白帆上下山浦水景景色甚佳

テシテ近傍ニ於テ起シタル感情モ今ヤ胸中ヲ去リテ全
 ク世塵ヲ脱却セルノ思アリ、旅客ノ爲メニハ實ニ樂シク境界
 ナリト謂フベシ、是ヨリシテ或ハ斷崖絶壁ノ下ヲ過キ或ハ深
 谷幽澗ノ間ヲ通シ蜿蜒下シテ長蛇ノ如クナル鐵道ノ架設
 層層ノ風光ヲ添ヘ、天然ノ景勝ト人造ノ偉觀トハ互ニ其巧致
 ヲ争フモノアリ
 一九二六ノイヌスノド海面ヲ抜タコト七百呎南方ニ芳々花々
 大牧場ヲ見ル此地ノ近傍ニハ鑛山ヲ探掘ニ従事スル者多シ、
 此地ヨリキヤリテ金山ニ通スル路アリ、又下ルニ下五哩ニシ
 テニユント金山アリ、千八百五十七年ヲ發見シ關係リ閣龍比
 亞州中最初ニ發見シタル金山ナリ、一帯千里ニ及ビ、本邦
 三ノ會社(キヤムル、サノス)海面ヲ抜タコト千五百呎吹山ノ山間

シタル其最高ナル者ニ命スルニ自己ノ名ヲ以テセリ此地
 ハ晝飯ヲ喫スル處ナル故ニ下車シテ少シ休息ヲ取リテ入
 ルニ旅客ハ山色ノ奇絶ナルヲカタルニ美麗ナルト三勝ヲシ
 少ナクトモ二宿ヲ爲サレルハナシ此停車場ヨリ始メテ雪覆
 小屋ノ多キヲ見ルニ雪覆小屋ハ六ノ下ト呼ビ兩側
 ノ高山ヨリ吹降下ス雪塊ノ鐵道ヲ遮キルヲ防ク爲メ木材
 ナリ以テ稜形ノ小屋ヲ構ヘ兩側トモ板ヲ以テ掩ヒタルモノナ
 リ其長サ一哩ニ亘ルモアシ又二三町ニ止マルモアサテ陸
 續下シテ臚列大流車此内ニ入レバ忽チ闇黒トナリ殆ト洞
 中ヲ行ク方如シ唯小屋ト小屋トノ間或ハ板隙ヨリ光線少射
 入スルアルニモ

第三卷 内地旅行

ニ至ルノ間テ此線路ノ太平洋區トナシ是ヨリ中央區ニ入ル
 ナリサレハ此地ニテ時間ヲ變更シ中央區ノ標準ヲ取リテ一
 時間ヲ進マシム旅客ハ車中需要ノ物品ヲ購フヘシ此地ハ
 ルカトクス山麓ニアリテ人口四五百ニ滿テサル小市街ナリ
 ト雖田嶺山地ニ爲メニ必要ナル市場ニシテ良好ナルホテル
 アリ

▲タルホテルアリ鐵道會社ノ設置ニ係リステマヤ山亭ト名
 タル前ニステフヤ山ヲ望ミ右ニツクサリ山嶺ヲ擁シ左
 ツクスラール山ヲ控シ旅舍ヨリ無限ノ深谷ヲ瞰下シ又湖水
 ノ澄明ナルモノヲ見ル湖底ニヤハ魚ヲ産ス旅客等ヲ投シテ
 一日ノ遊樂ヲ買フ價アルベシ

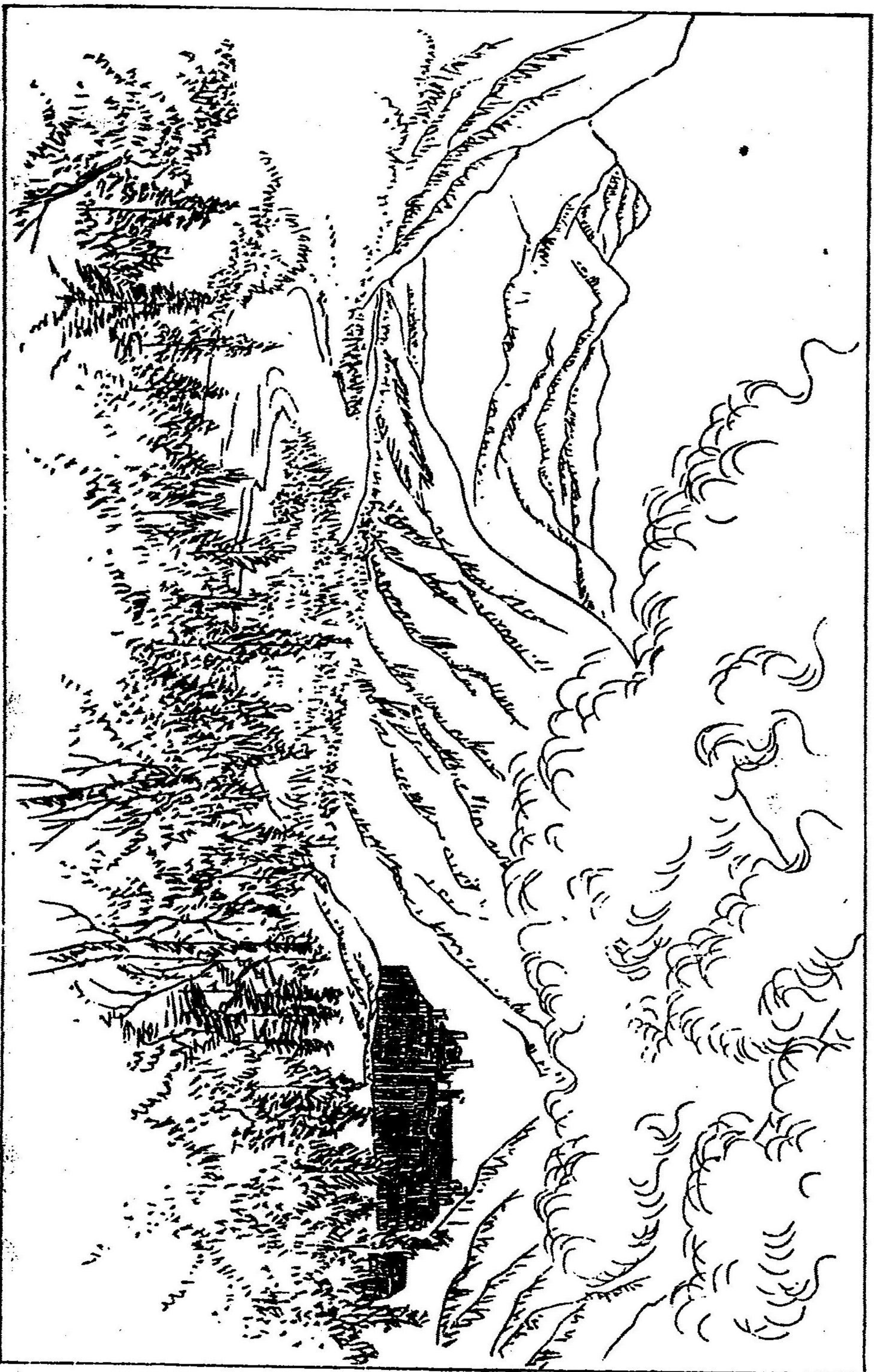
五二九
 ニ二五九(ステラフェン) 海面ヲ抜クコト五千二百九十六呎ロツキト山
 ノ頂上ニテテガテ此線路最高ノ土地ナリ前面ニ峙テモツタス
 テラフェン山下呼テ其相併立セルコト宛モ屏風ノ如ク全山巖
 石ヲ以テ成テニ草ヲ生スルナク山嶺ノ長スルテク兀山屹ト
 シテ雲際ニ聳エ谷ヲ抜クコト正ニ八千呎ニ達スステラフェン
 トハ加拿陀太平洋鐵道會社ノ前社長ナリ其名譽ヲ表彰セシ
 ガタニ其名ヲ取テ山ニ名ツク又停車場ノ名トナセルナリ
 是ヨリ列車急ニナルコト矢ノ如ク或ハ嶺ヲ繞テ谷ニ臨ミ湖
 ニ沿ヒ脚ヲ越シ河ハ千呎ノ下ニ流レテ樓ノ如ク山ハ方吹テ
 上ニ秀テ屹然タリ景色愈々變シテ愈々奇ナリ

五三〇
 ニ三〇五(ペンタ) 海面ヲ抜クコト四千五百呎有名ノ温泉ナリ又カ
 ルアラ殊ニトツキト山大公園ハ州立ニ係リ長サ二十六哩市

十哩世界無比ノ大公園ナリ、園内ボク谷ヲ包ミ、スズノヤ大湖、
 ティドノ二清流通過シテ、ヒル湖又此内ニアリ、山水ノ風景
 千姿万態實ニロツキ、仙境中ノ仙境ナリ、停車場ヲ距ルコト
 一哩ニシテ、バソフ村落アリ、此處ニ鉄道會社ノホテルアリ、
 近世ノ便宜品者修品一トシテ備ハラザルハ、オシ、歐米各國
 リ來遊スルノ文人墨客常ニ絶エズ、殊ニ夏季ニ當リテハ富者
 ノ暑ヲ此地ニ避クルモノ甚ク多ク、旅舍常ニ人ヲ以テ充テサ
 ル、
 五六年以前迄ハ此地地方ハ絶エテ人跡ク在ラザル所ナリ、
 一ツト鐵道開通シ、殊ニ州民カ州内ノ殷富ヲ謀ラザルカ、
 此大公園ヲ設ケ、且、人民次第ニ集リ村落ヲ成セ、至リ、
 余嘗テ此地ニ泊シテ、ヒル湖ヲ遊ビ、千湖ノ西隅ニ下ル

屋アリ、恰モ仙人ノ寓舎ニ似タリ、就テ湖ノ歴史ヲ質サント欲
 シ、家ニ入レハ、夫妻并ニ小兒ノ三人アリ、類ニ鳥類ノ劍製ニ
 從事シテ、餘念ナカリキ、余種々ノ談話ヲ爲シタル後ニ問テ曰
 ク、何ノ樂ミアリテ、カ此地ニ住スル、蘿風松月亦以テ友ト爲ス
 ニ足ルカト、彼答テ曰ク、我一家茲ニ住スル、既ニ五年、日夕獵ヲ
 以テ業トナシ、其獲ル所ハ之ヲ劍製シテ都市ニ送致シ、劍詰、
 包、豕肉ノ類ヲ得テ、口ヲ糊スルコト、五年一日ノ如シ、我輩故郷
 ナク、又朋友ナカク、家族ト共ニ住セル地ハ、則チ故郷ニシ
 テ、妻子ハ、則チ我カ無ニ、良友ナリト、余又問テ曰ク、群居ヲ好
 ムハ人情ノ常ナリ、寂莫タル此山間、亦猶甘シテ、終天ニ地ト爲
 スカト、彼曰ク、然リ、我豈世ト反キテ、仙居ヲ好カモノナランヤ、
 我ノ居テ、此處ニ移ス、以爲テ、此風光ノ明媚ナル世界復之

ニ比スルモモノチ州ノ發達ト共ニ久シクシテ世界ノ
 大遊園トナリ豪富者ノ來遊種ヲ接シテ一大繁榮ヲ來スル
 ト爾來我ノ先見ハ前中シテ日ニ月ニ繁榮ニ向テリ幸ニ我
 百六十噺ノ土地ヲ以テ子孫ニ遺スルニ余ハ此語ヲ聞テ
 復問ヒテ發モス只管彼ノ先見ト其忍耐ニ當テル下ニ感シテ
 揖禮ヲ盡シテ歸シテ
 近傍ニシテササイト(無烟炭)ノ石炭山ヲ訪
 出ス所ヲ右換品質善良ニシテ火方普通ノ烟炭ニ倍シ灰量
 至テ少キニ桑港ニ輸出スル數量甚ク多ク最良ノ許ヲ海
 一噸千四五弗ノ價ヲ有セリ
 又シテ停車場ヲ發シテ少シクササイト停車場ニ至ル途
 間ハ風景絶佳終日眺ムル可ク知テササイトノ婉婉屈曲ヲ



ル線路山ヲ繞リテ一景ヲ後ニスレハ一景ヲ前ニシ殆ソト送
迎ニ違テラス人ヲシテ仙境ニ至ルノ思ヒアラシム英國有名
ノ詩人マクドナルド嬢嘗テ句アリ曰ク

繞れる線路を廻りつゝ

惜き景氣を後にして

廻れは出つる果てなき景

我を取巻く頂きに

積れる雪に太陽の

光映して皓々と

人目眩はす計りなり

是れぞ世界の仙境か

あるは魔術のわざなるか

いで此畏を脱れんと
繞れば又も銀山の
取巻けるこそ果しなき

是ヨリ次第ニ低下シ汽車ノ急駛スルコト宛モ矢ノ如シ山中
處々ニ曠原アリテ無類ノ牧場ヲ設ケ綿羊ノ群ヲ爲セルモノ
幾千万ナラズ知ラズ殊ニモーレー停車場ノ側ニ在ル牧馬場
ノ如キハ頗ル廣大ニシテ一見ズルノ價値アルモノナリ、

六四二
三三五(カルガリー) 海面ヲ抜クコト三千三百八十八呎、ロッキイ山
▲朝麓ノ一小市街ナリ近來移住者日ニ増シ人口已ニ三千四百餘
ニ達セリ近隣諸嶺山々ニ市場ニシテハドソノ灣會社ハ出張
所ヲ此地ニ置ケ又器械鋸木場アリテ其鋸ヲタル木材六之
ヲボウ河ニ投シテ流下テ便利殊ニ宜シ

八三三

一〇、三五(メウシフ、ハット) 海面ヲ抜クコト二千五百五十呎、マウンテン
▲晝朝ボリズノ分營アリ近傍ノ諸山ニハ頁石炭坑ニ富ミ近來採掘
スル所頗ル多シ加之鐵道ノ支線ハデスアリツシニ通シ又サ
スカチワシ河ハ遙ニ南方ヨリ流來リテウヰ井ニベツク湖ニ至
ルマテ上下八百哩ノ航行ヲ通ス斯ク交通ノ便宜シキヲ以テ
土地速ニ開ケ今ハ人口一千ヲ超エ寺院其他公共ノ建物多シ

九七一

一七、二〇(スイフト、カーレント) 海面ヲ抜クコト二千四百呎、一面ノ原
▲夕野ニシテ諸處ニ大牧場多クスイフト河其前ヲ流シ人民ハ河
ニ沿ヒテ蕃殖セリ

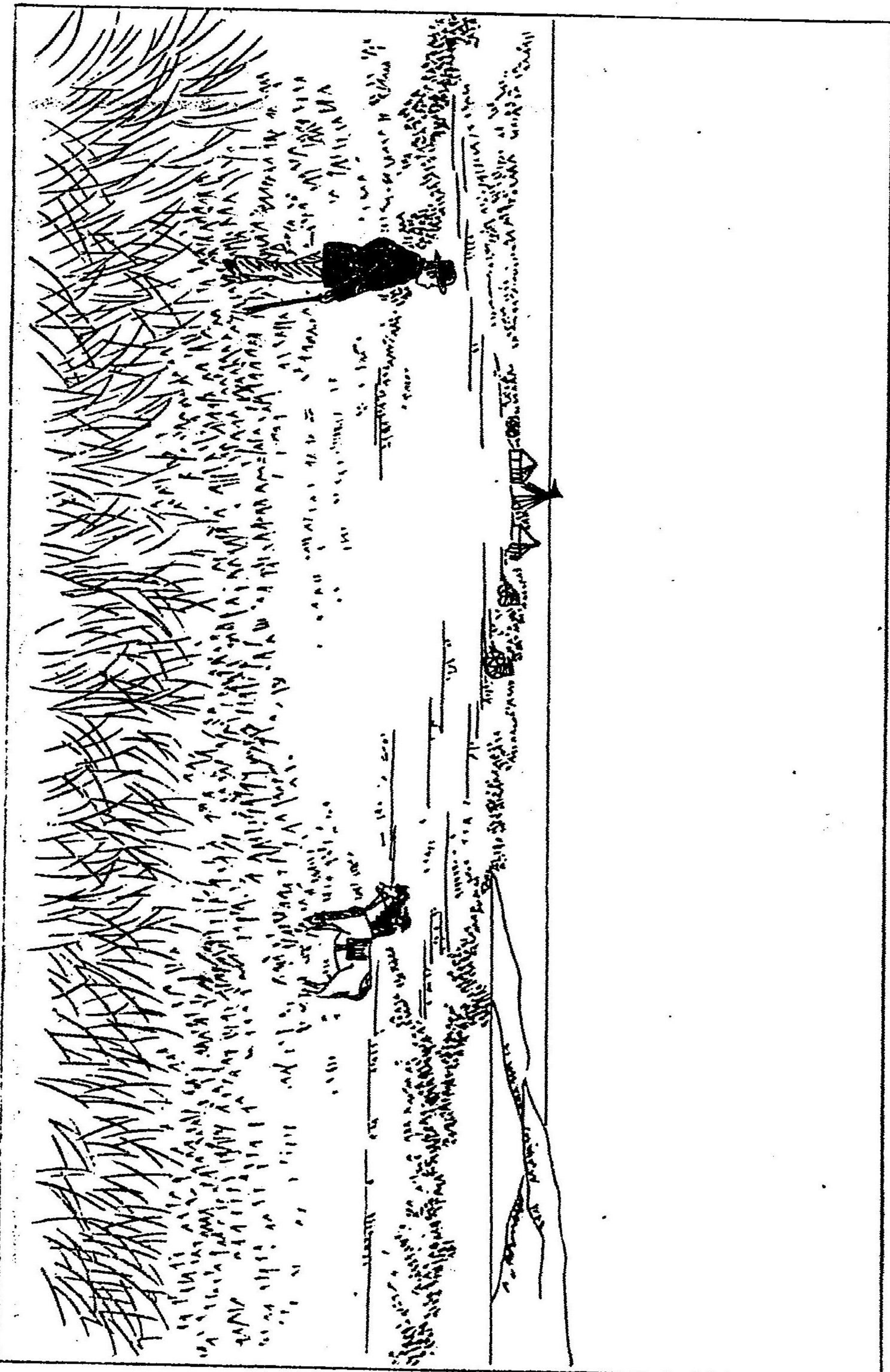
一〇八四

二二、五五(ムースワヤウ) 海面ヲ抜クコト千七百二十五呎、今ハ人口八
千ニ餘リ繁華ナル一市場ナレドモ四五年前迄ハ水牛ノ群ヲ
爲セシ地ニシテ鐵道開通ノ爲メニ今ハ孰レモ人家ニ遠キ沼

澤ニ退去セリ、然レトモ尙麋鹿狼猫ノ曠野ニ横行スルヲ目撃シ又野鳥ノ群ヲ爲スヲ見ル一面ノ原野中ニハ往々鹹湖ノ散在スルアリ、水已ニ盡キテ唯鹽土ノ白粉ニ類スルヲ見ルノミ、又大ナル沼澤ニハ鷺鷥鴨鵞ノ游泳セルモノ多シ、此停車場ニ止マルトハ土人群集シ、各自ニ水牛ノ角ヲ持シ強請シテ旅客ニ購ハシム以テ土産トナスニ宜シク、室内ノ裝飾又ハ帽子掛ニ供用スベシ

一三三

一三四(リヤイナ) 海面ヲ抜クコト千八百七十五呎、人口三千餘アリテ北西地方ノ首府ナリ、州廳其他諸官設ノ建物多クシテ須要ノ市街ナリトズ、此地ハ諸方ニ達スルノ支線ニ富ミ物質ノ集合處ナリ、農業能ク發達シテ諸種ノ農産物アリ、余ノ加拿陀内地ヲ跋涉スルヤ此地ニ泊シ、偶農産物品評會ノ開設ニ遇



ヒ殖民課長ノ招キニ由テ臨場セシカ其陳列セル所ノ各種ノ穀物蔬菜ハ何レモ優等ノ品質ニシテ就中小麥ノ光澤アリテ粒ノ堅大且ツ重量アル一モ間然スル所ナシ又土人ノ手工品ヲモ陳列シタリ土人ハ元來水草ヲ逐テ轉從スル無智ノ蠻民ト信セシニ其手工品ノ緻密ナルモノ多キヲ見レハ輒近大ニ開明ノ域ニ進ミシ者タルヤ疑ヒナシ此地方ハ土人ノ居處ニシテ處々ニ白布ヲ以テ天幕ヲ構ヘ一方ニ口アリテ之ヨリ出入ス或ハ窟居ノ者モ亦少ナカラス窟ヲ穿テ草ヲ以テ之ヲ覆ヒ土上ニ隙踞スルノ狀ハ實ニ蒙昧ノ蠻民タルヲ免レンス唯天幕内ニ住スルモノハ猶々高尙ニシテ中ニハ少シク英語ヲ解シ得ルモノアリ此等ハ能ク白^者人種ニ馴服ス其骨格總テ雄偉ニシテ長高ク肩ヨリ毛布ヲ纏ヒ面部ハ黃色ニ塗抹シ頭ニ

羽毛ヲ挿ミテ停車場内ニ緩歩スルモノアリ、旅客ノ側ニ近接スレハ孰レモ怖レテ歩ヲ讓ラサルハナシ、此地ノ内部ニ住スルモノハ一層野蠻ニシテ白哲人種ニ馴服セス之ヲ見レハ逃ク避クル者多シト云フ

此地ニ「マウンテン・ポリスト」稱スル兵士ノ屯營アリ、恰モ魯西亞ノ「ゴサツク」兵ノ如キモノニシテ其數千餘人慄悍ニシテ能ク馬術ニ長ス以テ亞米利加土人ノ謀叛ニ備ヘタルモノナリ余一日州知事ノ紹介ヲ得テ屯營ヲ一覽セシカ、内部組織ノ整頓セルコト驚クニ堪ヘタリ、食糧ノ製造所ハ勿論軍馬ニ要スル鐵蹄ノ工場等ヨリ廣大ナル練兵場アリ、病院アリ、天文臺アリ、殊ニ雨天ノ時ニ用アル室内練兵場ノ如キハ巨大ノ構造ト謂ハサルヲ得ス、又兵士ノ爲メニハ俱樂部ノ設クアリテ飲食

遊戲ノ具悉ク備ハリ、祭日ニハ相集テ演劇ヲ爲ス、斯ク兵營内ノ動作自由ニシテ且ツ歡樂ヲ盡スニ足ルノミナラス日、水兩曜日ニハ僧侶ノ説教アリテ内心ヲ治メ道德ヲ養ハシム故ニ兵士ハ自ラ好シテ此小天地ニ躊躇シ、敢テ厭忌ノ念ヲスルナシ

一三四九

九三三(フランドル) 海面ヲ抜クコト千百五十呎、土地平坦ニシテ沃野ニ富ミ、鐵道兩側ノ如キハ無限ノ大農圃ナリ、穀物ノ産出多キヲ以テ人口日ニ増シ、建市以來僅ニ六年ヲ出ラスト雖モ已ニ五千入ヲ超エ市街亦能ク整備シ、穀物ノ販賣甚々盛ナリ、此停車ニ於テ時間ノ變更アリ一時間ヲ進マシム

(ポルテイヤ、フレイリ) 海面ヲ抜クコト八百呎、フランドルト同シク穀物ノ市場ナリ、製粉場其他ノ製造場アリテ農業

最モ能ク開ク人口四千ヲ有ス、此地ヨリマニトバ及北西地方
ノ鐵道分岐シテ北西ニ走ルコト百八十哩、フリンズアルバー
トニ至リ更ニラピッド市及シエル河ニ支線ヲ通ス

一四八二

一六〇〇(ウイニベツク) 海面ヲ抜クコト七百呎、マニトバ州ノ首府ニ

▲夕シテ人口三万ヲ有シ、居然加拿陀中央ノ一大都會ヲ成セリ、鐵
道四方ニ通シ其東西ニ貫クモノヲ加拿陀太平洋鐵道トシ、是
ヨリ南ニ入りボイル市ヨリ合衆國ノシカゴ府ニ達スルモノ
アリ、又西南ニ通シテデロレーンニ至ルモノアリ、此他ニ北及
西北ニ通スルモノニ線路アルノミナラス、近時ノ計畫ニ係ル
ハドソン灣鐵道ハ此地ヨリ工事ニ着手セリ、加之レツド及ア
シニボソンノ二河ハ數百哩間ニ航行ノ便ヲ與ヘ常ニ汽船ノ往
來スルヲ見ル、斯ク四通八達ノ要衝ナルカ故ニ市街十分ニ發

一七六〇

▲朝テ鐵道ノ上下ニ懸ル

達シテ商業甚タ盛大ナリ實ニロツキー山東農産物ノ大市場
ニシテ此地ヨリ歐洲各國ニ分配ス、ハドソン灣商會ノ如キハ
廣大ナル支店ヲ設置セルコト年已ニ久シ、以上ノ形勢ナルヲ
以テ獨リ加拿陀全州ノミナラス將來ハ北亞米利加洲中ノ中
央都府トナル可シト稱セラル、モノ蓋シ其故ナキニアラス、
唯惜ムヘキハ氣候ノ寒冷ナルニアリテ加拿陀諸市街中最寒
ノ地ナリ是ヲ以テ嚴寒ニハ寒暖計零度以下五十度ヲ下ルコ
ト間々アリ故ニ家屋ノ構造極メテ堅固ニシテ一室ニ二大爐
ヲ備フルモノアリ、窓硝子ハ總テ二重ニ張り、庭合圍圍猶火爐
ヲ設ク、以テ其寒冷ノ如何ヲ知ルニ知ルヘシ

七、〇〇(イックサス) 河川及湖水ノ風景頗ル佳ナリ、殊ニ二條ノ瀑布アリ

一九〇八(フオルトウ井リヤム) 人口一千五百ヲ有スル一市街ナリ、獸皮ハ此地ノ一大物産ナリシヲ以テ百年以前ヨリハドソノ灣商會ハ支店ヲ開キテ其貿易ニ從事シタリシカ、今ハ一變シテ穀物ノ大市場トナレリ、故ニ當時用ヒシ製革場ハ今ハ變シテ炭ノ貯藏所トナリ又世界ニ無比ナル穀物積込架臺トナレリ、カミニスチクイア河ハ水深クシテ此地ノ商業ヲ裨益スルコト鮮ナカラス、石炭穀物材木等ヲ運搬ス

一九一三(ボート、アイサー) スーペリオ湖ノ西端サンダー灣ニアル一良港ナリ、無數ノ汽船及帆船日々出入ス、殊ニ太平洋鐵道會社ニ屬スル汽船ハ是ヨリテイエソ、サウソドマテノ航行アルヲ晝以テトロント及紐育ニ赴カント欲スル者ハ其船ニ搭載スルヲ宜シトス又シカゴ府ニ至ラント欲スルモノハ湖上ノ美景

ヲ賞シツ、達スルノ便アリ、此地ヨリ東方區域ニ進入スレハ時間ハ總テ東方ノ標準ヲ用ヒ一時ヲ進マシム

二〇一八(スチレイバ) 此地方ニハ隧道ノ架設多クシテ一洞ヲ出ツ▲タレハ又一洞來リ、其間ニハ左側ニスウペリオ湖ノ洋々タルヲ眺ム、其山水ノ明媚ナルハ二晝夜間マニトバノ草海ニ漂ヒ殆ント無聊ニ堪フル能ハサル旅客ヲ慰メ、再ヒロツキ一山中ニ入ルノ勇ヲ鼓セシム

二二九二(セ、五〇チヤブリユウ) 人口五百餘キ、ガマ湖側ノ一小市ナントモ木▲朝材及獸皮ノ市場タリ

二四二八(カ、三、カ、イ、チヤ) 人口三百ヲ有スル一驛ニシテ鐵道木材及機械類▲晝ヲ貯藏スル處ナリ

二五〇二(ス、三〇、ノ、イ、ス、ベ、イ) 人口千二三百ヲ有スル市街ニシテニヒシノグ

▲夕湖岸ニアリ、湖ハ我琵琶湖ニ似テ長サ四十哩、巾十哩、湖中ニ小島アリテ風景佳美ナリ、小汽船アリ各岸ニ相往來ス

二七五八

二、三、〇(チャールストン、ブレリス) 人口四千ヲ有スル市街ナリ、此地ヨリ支線南ニ延ヒスミス瀑布ニテモントリール及トロント間ノ鐵道ニ合シ、進メテセントローレンス河ノ上ナルプロツクビルニテ紐育線ニ連接スルモノアリ

二七七八

四、〇(ラッタワ) 人口四万餘加拿陀ノ首府ニシテ政廳ノアル處ナリ、ラッタワ及リサユウニ河ノ會合スル傍ニ在ル丘山ニ建築シタル閑靜ナル市街ニシテ、富豪家ノ別荘居宅ハ巍烈トシテ山上ニ聳エ市中ヲ眼下ニ眺望スヘシ、殊ニ總知事ノ居宅ハ輪煥ノ美ヲ盡クセリ、又上下兩院ハ高丘ニ在ルコト猶ニコライ教會堂我東京駿河臺ニアルコトク四方ヨリ其偉觀ヲ仰觀ル

可ク、一目シテ其議院タルヲ認メ得ルナリ、此地製造ノ業亦盛ニシテラッタワ河ニ懸ルチヤウヂイヤ瀑布ノ水方ヲ利用セルモノ少ナカラズ、鐵道ノ支線ハ南ニ延ヒラセント、ロトレンス河ノ上ナルブレンスコットニ通シ、又加拿陀太平洋鐵道ハ此地ヨリチヤムブレイン湖ニ達セリ、漸ク交通ノ便備ハリ加フルニ市街殷賑ナルヲ以テ加拿陀ノ狀況ヲ詳悉セント欲スルモノハ宜シク足ヲ留ムヘキノ地ナリ

六、〇(カルメツト) 人口二千有餘、市街ノ近傍ニハ有名ナルカンドニヤノ鑛泉アリ、四時浴客四方ヨリ群集シテ頗ル繁榮ヲ極ハシ、亦一泊スヘキ價值アリ

八、〇(モントリール) 人口三十萬ト稱ス、加拿陀中ニ在テ最大ノ市街ナリ、セントローレンス及ラッタワ二河ヨリ成レル一島上

二、八四七

二、九〇六

六 昔ハ土人ノ巢窟ナリシヲ二百五十年前佛人之ヲ開キ
 晝 テヨリ久シク獸皮ノ貿易場タリシガ今ヤ各種商品ノ集散地
 夜 トナレリ此地ハ地勢上運輸交通ノ便自在ニシテ東歐洲各國
 ヲリ航スル所ノ船舶ハ盡クセントロレンス運河ヲ經テ來
 着シ西五大湖水ヨリ運漕スルノ貨物亦皆此ニ集ル而シテ陸
 上ニテハ加拿陀太平洋鐵道其他ノ各大線路皆集合スルノミ
 ナラス合衆國有名ノ諸市街紐育ホストンボートランドシカ
 ゴノ如キハ皆此地ヨリ直接ニ通スルナリ
 之ヲ要スルニモントロレンスハ加拿陀ノ關門ニシテ猶紐育
 合衆國ニ於ケルガゴトシ内外交通ノ船舶鐵道皆此ニ集レハ
 商賣盛大ニシテ外國人常ニ蟬集ス殊ニ水利ノ便宜シキヲ以
 テ大工場多ク加拿陀工業ノ中心ト謂フヲ得ベシ

程ヨリモ
 リト
 時分

第二項 トロント及チカゴ線路

市街記事

(晚香波ヨリモントロレンス至ル一連線二千九百六哩日ヲ
 經ル五晝夜ト十有八時間)

ハロモントロレンス 記事前ニ出ツ

▲晝スル便アリテ諸製造業頗ル盛ナリ就中有名ナルハ煉化石製
 造所ニシテ堅牢ナル良品ヲ産ス瀑アリスミスト呼ビチカゴ
 列河ニ懸レリ
 (三五八ハリス) 人口四千餘ノ小市街ナリト雖モ諸製造工場多ク時
 ニ蒸車製造ヲ以テ顯ハル其周圍ノ地方ニテハ建築石及磷酸

礦物ノ探掘盛ナリ

四五六(ヘイターボロー) 人口一万余市街ハチタナビー河ニ臨ム其河ニ懸ル百五十呎ノ瀑布アリ其水力ヲ利用スルヲ以テ廣大ナル諸種ノ製造場アリ近傍ノ村落ハ山水ノ景佳麗ニシテ處々ニ瀑布懸レリ湖水アリ河川アリ釣魚ノ遊ヲ試ミルニ宜シク又六線ノ鐵道集合シテ交通ニ便ナルカ故ニ山水ノ勝ヲ探クル雅容常ニ絶エズ

三四

七四五(トロント) 人口十五万餘モントリオールニ次キテ加拿陀最大ノ朝ノ市街ナリ市民多クク英人ニシテ純粹イ英國風ヲ存ス寺院ノ數多クシテ加拿陀宗教ノ中心ト稱スヘシ觀時本邦人十餘名住居シ多クハ労働ヲ業トス中ニ我雜貨ヲ販クアリ此市ハチンタリホ湖ニ濱シ合衆國ニ接近セリ彼ノ有名ナル

ナイヤガラ瀑ノ偉觀ヲ探ラント欲スルモノハ湖上汽船ノ便ヲ假リテチンタリホ湖ヲ渡ルヘシ毎日二度ノ出船アリ僅ニ數時間ヲ要スルニ過キズナイヤガラ瀑ハ世界第一ニシテ其幅三哩數條ニ分岐シテ落ツ本流ヲカナダシアフオールト稱シ高サ百六七十尺滔々トシテ斷崖千仞ヲ瀉下スルノ狀ハ時ニ大地ヲ破碎セントスルカト疑ハル卒然之ヲ眺ムレハ唯飛沫ノ漠々タルノミニシテ其眞軀ヲ認ムル能ハス實ニ宇宙ノ一大奇觀ナリ瀑ニ接近シテ市街アリ幽閑清潔ニシテ風景ニ富ミ美麗ナルホテルハ各勝景ヲ眺臨スヘシ是ヲ以テ四方ノ遊客常ニ群集スト雖無頼ノ徒モ亦多ク集ル而シテ此地方ハ加拿陀ト合衆國トノ界ナルヲ以テ合衆國ニテ罪ヲ犯シタルモノハ直ニ加拿陀ニ脱走シ加拿陀ニテ罪ヲ犯シタルモノ

ハ直ニ合衆國ニ脱走シテ以テ法網ヲ逃ル、モノアルカ故ニ
 風俗隨テ善良ナラス
 此地ハ鐵道ノ集合點ニシテ合衆國ノ諸市街ニ連スルモノ多
 シ、今其中ニ就テシカゴ府ニ至ルノ線路ヲ次ニ記サントス
 九、ミルトン（人口一千三百餘、此地ヨリ諸方ニ通スルノ支線ア
 リ、近傍ニ接續セル有名ノ諸市街ハ
ローヤルシチー 人口一萬一千餘
ガルト 人口八千餘
エーヤ 人口五千餘
ウードストツク 人口五千餘
インガソール 人口四千餘
 等ニシテ孰レモ鐵道通シ各種ノ製造盛ニシテ市街殷富ナリ

三六七

四五六
五六八

一、セントトーマス（人口一萬餘工業盛ナリ）
 四、デトロイト（此市ハ合衆國領内ニシテ鐵道諸方ニ通シ、商業
 活潑ナリ税關吏常ニ出張シテ加拿陀ヨリ合衆國ニ輸入スル
 貨物ヲ監視ス）
 （シカゴ）合衆國內ニ在リ紐育ニ次ク大都府ナリ
 （モントリールヨリトロントマテ三百四十四哩又シカゴマテ
 八百五十四哩）

第三項 セントジョン及ハリフォ
クス線路

程ヨリモ
 リン
 哩ト
 ○ 時發
 分車
 ハ三〇（モントリール）記事前ニ出ツ

一〇四(一五八)ロツクフオレスト) メンフレマーゴウ湖ノ濱ニアリ湖中ニ
 無數ノ島嶼アリテ我松島ニ依稀タリ夏期ノ遊客最モ多シ
 一〇八(一三三)マニヤブルック) 人口一万餘製造業ノ盛ナル地ニシテマゴウ
 河及セントフランシス河ノ利用アリ此地ヨリクエベツク線
 路起リテクエベツク市ニ達ス
 一〇八(一三三)セクリンピール) ベリスヘッド湖ノ濱ニアリテ水ニハ漁魚ノ
 樂ミアリ山ニハ獵獸ノ遊ヒアリテ多ク人ノ集ル處ナリ殊ニ
 清麗ナル「ホテル」ハ旅客ノ足ヲ延クニ足ル
 一一三(一五二)フレデリクシヨン) 人口一万餘ニユイ、ブランドスウィツク州
 ▲晝ノ首府ナリ
 一一八(一五〇)セントジョン) 大西洋岸ノアマゾイ灣口ニアリ市街ハ夙ニ
 開タシカ千八百七十七年六月イ大火災ニ九哩間ヲ焼失シテ

二三千万弗ノ損害ヲ受ケタリ然レモ是カ爲メ衰テ額來サス
 爾後遂ニ回復シテ今ハ人口四万ニ越エ船舶ノ出入夥シクシ
 テ商業盛大ナリセントジョン河其前ヲ流レテ水利頗ル宜シ
 五七〇(一五三)モンクシヨン) 人口八千餘諸製造業盛ニシテ中ニモ砂糖製
 ▲朝造及紡績ノ業特ニ著ルシ
 六二〇(一七〇)サツクピール) 大牧場アリ又大學校及メソヂスト教ノ學校
 ▲共ニ著名ナリ
 六九六(一八五)ツルロウ) 人口六千餘湖ニ臨ミ山ヲ負ヒ漁魚獵獸ノ遊樂ア
 リ
 七五八(一九〇)ハリフォクス) 人口四万餘ノバスコシヤ州ノ首府ナリ合衆
 國及西印度諸島ヨリ遠ク大西洋ヲ隔テ、歐洲ニ對スル商業
 ノ要港ナリ船舶常ニ輻湊シテ繁華ヲ極ハム或ハ云フ世界第

一ノ良港タルヘシト現今英國ノ太平洋艦隊鎮守シ兵學校アリ堡壘アリ嚴然犯カスヘカラサルノ威力ヲ備ヘリ
 (モントリールヨリハリフォクスマテ七百五十八哩)

第四項 クエベック線路

市街記事

程ヨリモ
 時分

八〇(モントリール)

記事前ニ出ツ

九四

二二〇(スリーリバー)

人口一万餘セントモイレース河口ニアリ、歴史上著名ノ地ニシテ製鐵所及機械製造場ヲ以テ顯ハル、近時政府ハ巨万ノ金ヲ投シテモイレース河ノ浚渫ヲナシ堤防ヲ築キ大ニ水利ノ便ヲ計レリ、此地ヨリ年々出ス所ノ木材ハ實ニ莫大ニシテ悉ク歐洲諸國ニ輸送ス

三〇五〇

三三〇(クエベック)

人口八万餘、クエベック州ノ首府ニシテセントローレンス江ニ突出シタル阜丘ノ上ニアリ、千五百三十五年ノ頃歐洲ヨリ始メテ移住シタルモノ此地ニテ一冬ヲ越エタリト云フ、其後佛人來テ此地ヲ開キ土人ト獸皮ノ貿易ヲ始メテ近隣商業ノ中心トナリ、殊ニ佛人ハ城堡ヲ構ヘテ長ク北米殖民地ノ一要害タル都府トナセリ、千七百五十九年英國ノ版圖ニ屬シテヨリ復昔日ノ偉觀ナシト雖也、今日猶佛人ハ多數ヲ占メ佛語大ニ行ハシ佛字ノ新聞アリ、英國ノ治下ニ在テ佛文ノ法令ヲ發スルノ止ムヲ得サルモノアルナリ、又佛人カ信奉スル所ノ宗教ハ天主教ニシテ常ニ英人ト軋轢シ相親和セズ、隨テ地方自治ノ圓滑ヲ欠キ發達遲々タルヲ免レス、土地ハ農産物ニ富ミ材木ノ輸出最モ盛ナリ

(モン・トリールヨリクエベクマラ三千五十哩)

第四章 政體及政治ノ組織附財政

本州ノ政體ハ千八百六十七年英國立法院ニ於テ可決シ全年七月一日ノ勅令ヲ以テ公布シタル英領北亞米利加法ニ據リラシタリオクエベクノヴァスコシヤニニエーブランスワツクマニトバ英領開龍比亞ブリノスエドワツト島及北西地方ノ八州同盟政治ヲ爲セルモノナリ而シテ其政府ノ組織ハ英國ニ則トリ總知事及内閣長ヲ以テ支配ス今ノ政廳ハクエベク州ノラツタワリー市ニアリ

本州統治ノ大權ハ英國女皇陛下ニ屬シ女皇陛下ハ總知事ヲ親任シラ之ヲ派遣シ政治ヲ監理セシム總知事ノ任期ハ五ヶ年トス

總知事ハ各州ニ知事ヲ撰任シ又内閣員ヲ撰定スルノ權アリ女皇陛下ノ代理者トシテ無上ノ權力ヲ有スルニ似タシモ實際國務ヲ掌スルノ全權ハ内閣長ニ屬ス而シテ内閣員ハ加拿陀出生ノ人ニアラザルハ之ニ列スルコトヲ得ス故ニ加拿陀人獨立ノ權利ハ毫モ枉ケラル、所ナク總知事ハ唯空位ヲ守ル有名無實ノ推崇タルニ過キス其政廳ノ内閣員ハ左ノ職員ヨリ組成ス

- 内閣長 工商部卿 鐵道及水路卿
 - 税關卿 兵部卿 農務卿
 - 國稅卿 司法卿 大藏卿
 - 水務卿 郵務卿 内務卿
 - 國務卿
- 内閣ハ州議會ノ協贊ニ依リテ政治ヲ施シ州議會ハ上下兩院ヨリ成ル

而シテ上院議員ハ八十名ノ定員ニシテ法律ニ定ムル員數ニ從ヒ各州ヨリ總知事之ヲ撰任シ終身ノ任期トス之ニ應スルヲ得ル資格ハ加拿陀ノ人民ニシテ自己ノ撰任セラル、州内ニ住シ且ツ四千弗ニ値スベキ動不動産ヲ有スルヲ要ス下院議員ハ少クトモ人口二万人ニ對シ一人ヲ撰出スル規定ニシテ現今二百十五名アリ其撰舉ヲ得ヘキ資格ハ各州共ニ少差アリ其任期ヲ五ク年トシ人民之ヲ撰舉ス

各州ニ知事アリ知事ハ州會ノ同意ニ依リ州務ヲ行フ各州ノ州會モ亦分チテ上下兩院ト爲スト雖モケンタリオ、マニトバ及ヒ英領コロンビヤノ三州ハ唯下院ヲ設クルノミ

州ノ自治ハ十分ニ行ハレ隨テ州知事ノ權限ハ我府縣知事ノ如キ狹隘ナルモノニアラス荷モ事他州若クハ加拿陀全體ニ關セサル以上ハ州會ノ同意ニ依リ直ニ英國女皇陛下ノ名義ヲ以テ宣告スルコトヲ得故

ニ一州ハ恰モ一國獨立ノ軀裁ヲ爲シテ自治ノ名實ヲ備ヘ市ハ市ノ運動ヲ爲シ町村ハ町村ノ運動ヲ爲シテ中央政府ノ干涉ヲ受クルコト稀ナリ而シテ其人民ハ最モ進取ノ氣象ニ富ミ專ラ開拓ヲ事トシ且ツ土地ノ隆盛ヲ計ルニ必要ナル公共ノ事業ヲカム其進歩ノ速ナルコト駭々乎トシテ馴馬猶及ハサルノ觀アリ能ク自治ノ實ヲ舉クルモノト謂フヘシ其市町村制度ハ之ヲ我邦ノ制度ニ比スレハ極ハメテ簡單ノモノナントモ人口ノ稀少ニシテ面積ノ廣大ナル新開國ニ在リテハ勢然ラサルヲ得サルナルヘシ

加拿陀ノ各市ニ於テハ外國人ト雖モ支那人ヲ除クノ外ハ一ク年以上其市ニ住居シテ家屋稅ヲ納メタルモノハ市長及ヒ市參事會員ヲ撰舉スルノ權アリ我日本人モ固ヨリ此權ヲ有スルモノトス

加拿陀ノ財政ハ政廳之ヲ掌トリ少シクモ英國政府ニ關係スルコトヲ

シ千八百八十九年七月一日ヨリ千八百九十年六月三十日ニ終レル一會計年度ニ於ケル歳入ハ三千八百七十八万二千八百七十弗ニシテ其重要ナル課目ノ收入ハ次ノ如シ

海關稅 二三、七二六、七八四 動產稅 六、八八六、七三九

官業收入 三、六四二、五六九 郵便 二、二二〇、五〇四

貸金利子 一、三〇五、三九二

海關稅ハ加拿陀ニ於ケル實ニ最大ノ歳入ニシテ無數ノ輸入品ニ高稅ヲ課スルナリ又歳出ハ三千六百九十一万七千八百三十五弗ニシテ其重要ナル課目ノ支出ハ次ノ如シ

公債利子 一〇、一四八、九三二 徵稅費 八、八七三、三三九

公益事業 三、三九九、三三一 州補助費 四、〇五二、四二八

政廳費 一、九八二、八八四 國定資金 一、七三六、六四四

軍事費 一、三二三、五五二

歳出ノ最大ナルモノハ公債利子ニシテ千八百八十九年七月一日ノ調査ニ據ルハ其額二億八千七百七十二万二千六百三十三弗ナリ内千六百七十万四千八百六十三弗ハ無利子ナントモ其他ハ年三步三分ノ一ヨリ六歩迄ノ利子ヲ拂フモノトス此等ノ公債ハ概テ政府カ土地ヲ開クカケルニ費シタル所ナリ今其資本ヲ投入シタル重ナル費目ノ金額ヲ擧クニ左ノ如シ

鐵道 一〇、三二四、三九二 運河 三、二八四、七一八

造幣 三、二八四、七一八 四方地 五、三五六、〇三五

航海費 八、二八四、五八〇

以上掲クル所ニヨリ加拿陀政府並ニ人民カ鉅万ノ費用ヲ借マシテ土地ノ發達ヲ計ルノ熱心ヲ推知スルニ足ルヘシ

更ニ溯リテ既往ニ於ケル財政ノ如何ヲ考察スルニ内地ノ日々發達スルニ從ヒ稅源愈々廣大トナリ人民各個ノ負擔ヲ加ヘスシテ政府ハ事業費ニ莫大ノ資金ヲ投シ得タルナリ凡ソ國土開進ノタメニ要スル歲出ハ人民ノ負擔ヲ増加スルモノニアラスシテ反テ人民ノ收入ヲ増加スルニ至ルヘキハ財政上ノ原則ナリ余ハ加拿陀財政ノ已往ニ徴シテ益々其原則ノ誤ラサルヲ知レリ茲ニ既往九ケ年間ノ歲入歲出ヲ示セハ次ノ如シ

年	歲入	歲出	殘金	不足
一八八一年	二九,六三三,二九八	二九,〇五三,五五五	四,一三二,七四三	
一八八二年	三三,三三三,四五六	三三,〇六七,一〇四	六,三三六,三五二	
一八八三年	三三,七九四,六四九	三三,七三〇,一五七	七〇,六四四,九三	
一八八四年	一三,八六一,九六三	三三,一〇七,七〇六	七五四,二五六	
一八八五年	三三,七九七,〇〇一	三九,〇三三,〇六〇		二,二二〇,〇五九

一八八六年	三三,一七三,〇四〇	三九,〇二六,六一二		五,八四四,五七二
一八八七年	三五,七五四,九九三	三五,六五八,一六一	九六八,三三	
一八八八年	三五,九〇八,六六三	三六,七一八,九四四		八,一〇三,二八
一八八九年	五八,七八二,八七〇	五六,九七三,八三三	一,八〇九,〇三五	

右ノ表中千八百八十五年及千八百八十六年ハ北亞地方ニ於テ土民ノ一揆起リタルガ爲メニ其鎮撫費トシテ莫大ノ支出ヲ要シタルヲ以テ歲出超過トナレリ然リト雖ヒ斯ル不幸ニ遭逢セシニモ拘ハラズ以上九ケ年間ヲ通計スルトキハ一千一百万弗ノ剩餘ヲ國庫ニ存セルナリ斯ノ如ク剩餘ヲ生シ且ツ彼ノ如ク事業費ニ莫大ノ資金ヲ投スト雖ヒ加拿陀人民ノ負擔ハ一人ニ付僅ニ五弗六十七仙ニ當ルニ過キス之ヲ他英領住民ノ負擔ニ比スレハ大ニ輕シトス乃チ英本國ハ一人ニ付十弗五十仙濠州殖民地ハ十五弗十五仙喜望峯殖民地ハ七弗十二仙ニ相當ス亦以テ加拿陀ニ利源ノ多キヲ知ルニ至ルヘシ殊ニ其歲入ハ

別ニ新税ヲ設クス、又税率ヲ加ヘスシテ年々鉅万ノ増加アルヲ致ス以テ其開進ノ迅速ナルヲ徵スルニ足ルナリ

第五章 交通

泰西ノ文明史ヲ記スル者ハ則チ曰ク上古ニイフレイツタイグリスノ二大河ハ世界ニ文明ヲ流シタリト言ハ此二大河ハ共ニ交通ノ便好クシテ人民皆河流ニ沿ヒテ繁殖シ以テ今日文明ノ基ヲ創スルヲ指シテ大英國ノ繁榮ナルト否トハナラズ交通ノ便否ニ由ル然ラハ則チ國ヲ盛ナラシメント欲スレハ務メテ交通ヲ便ニスルモトヲ計ラザルベカラズ、近來加拿陀ノ順ニ繁榮ヲ加ヘ富裕ニ赴キシモノハ主トシテ其人カ拮据經營シテ交通ノ便ヲ計リ隣國ト交ヲ結ヒテ貿易ヲ爲シ外國

ヨリ多クノ移住民ヲ招集シタル結果ニ由ラスノバアラス抑加拿陀ハ天然ノ地理上湖水多クシテ自ラ内地ノ交通宜シク、又河流ノ航行ニ適スルモノ少ナラズ、加之政廳ハ公債ヲ發行シテ低利ノ資本ヲ其本國ナル英國ヨリ借リ入レ之ヲ鐵道運河築港等ノ事業ニ投セントスルヤ、彼英國民ハ爭フテ相應スルコト影ノ形ニ伴フカ如ク無數ノ資本忽集リテ事業一時ニ興起セリ、之ト共ニ人民ハ各自私設ノ團躰ヲ造リテ資本ヲ協合シ、到處ニ交通ノ便ヲ開ケリ元來此等ノ事業タルヤ目前ノ利益ヲ期スヘキニアラズシテ唯將來ノ發達ト共ニ永遠ノ收入ヲ得ベキモノナルニ政廳人民ノ意氣相投合シテ斯ノ如クナルハ其思慮ノ深遠ナル、其規模ノ廣大ナル眞ニ驚クニ堪ヘタリ、思フニ斯ク精神ノ確乎トシテ行爲ノ活潑ナルハサクソノ人種ノ特色ニシテ加拿陀今日ノ繁昌ヲ致セルハ固ヨリ偶然ニアラサルナリ、顧ミレハ我邦ノ如キハ二千五

百年ノ奮闘ニシテ、夙ニ開化ノ域ニ進ミタル邦土ナルニ交通未十分ト云テ、得テ又見ルベキ工事ノ稀ナルハ、豈恥ツル所ナキヲ得ヤ。而シテ資本家ト稱セラルル一族ハ、徒ニ巨額ノ財ヲ擁シテ一小天地ニ安シシ國家百年ノ後ヲ慮リテ、文明ノ大土木ヲ興サント欲スルカ如キ勇氣ハ、人トシテ有ルチキカ如シ。絶大長息ニ勝ヘサルナリ。

第一項 運河

加拿大ハ世界ノ湖氷國トモ稱ス。クシテ湖水ノ普及存在セルコトハ、大ニ能ク知ル所ナリ。此湖氷ノ利用シテ交通ノ便ヲ計ルコトハ、其人民ノ最も早ク注目セシメ、其志望ヲ達セシカ爲メニ開鑿セシ運河ハ、多クカチ、其最大ナル者ヲセシト、セントローレンス運河トナシ、チヨメ、府茂モシト、其市間並ニノ、大ニコシヤ州内ノ運河ハ之ニ

次ヲ著名ノモノアリ、今次ニセントローレンス運河ヲ詳記シテ、其廣大ナルコトヲ示サントス。

セントローレンス運河ハ其名ノ示ス如クセントローレンス河ニ據リテ成ルモノナリ、合衆國下界ヲ分ツ處ニ五大湖アリ、オンタリオ、エトロオン、ミチガンスウベリオト云テ、而シテスウベリオ最モ上ニアリ是ヨリ大西洋ニ向ヒテ土地次第ニ低ク六百呎ノ高低アリ、故ニオンタリオ湖ヨリ流ルベシセントローレンス河ハ急流ニシテ舟楫ニ便ナラス且ツ五湖連接スルニアラサレハ其間ヲ鑿チテ運河ヲ造リ五湖相通セシムルト共ニセントローレンスノ急流ニ開門ヲ設ケテ水勢ノ寛和ヲ許サレ、此一連ノ工事ヲ指シテセントローレンス運河ト云フ、其長サ七十二哩、ニシテ開門ヲ設ケルコト五十有四開門ノ長サ二百乃至二百七十呎、其幅四十五呎ニシテ、深サ九呎乃至十四呎ナリ。

此運河ニ據リ大西洋岸ベルアイルス瀬戸ヨリセントローレンス河ヲ
 遊リモントリオール市マテ七百哩、スウペリオ湖ノ西端アイサー港マテ
 二千二百六十哩ノ航行ヲ爲シ得ルナリ、是カ爲メニアイスハー港ハ加拿
 陀中部以西物産ノ集合地トナリ其繁榮日ヲ遂テ盛ナリ、又此運河ハミ
 チガシ湖ニ入り其南岸ノシカゴ府ニ航スヘク爲メニシカゴノ繁榮ハ
 遠ク他ノ市街ニ超エタリ、近來アイサー港及ヒシカゴ府ヨリ英國リバ
 ンプール並ニ倫敦ニ向テ直接ノ航路開ケ輸出入ノ貨物ハ直ニ運搬ス
 ルコトヲ得ルナリ、サレハ來往者ヲ招カント欲スル加拿陀ニハ、斯ク遠
 ク内地ニ進入スル航路ハ欠クヘカラス、而シテ東部ノ先ツ開ケタル所
 以ノモノハ、此運河ノ德澤ト謂ハサルヲ得ス、
 此運河ヲ通過スル所ノ貨物ハ實ニ莫大ノモノニシテ、スウペリオ湖ト
 ヒニトロノ湖トノ間ニ於ケル關門ニテ、千八百八十八年調査シタル所

ニ據レハ此地ヲ往來セシ船舶ニ搭載セル荷物ハ六百四十一万一千四
 百二十三噸ニシテ此價格九千三百万弗ナリ、目下一年内ニハ二百
 十日間ノ通行ヲ許スニ止マントモ若シ之ヲシテ一年ヲ通シテ通過セ
 シムルモノトスレハ恐ラクハスエス、運河ヲ通過スル荷物ノ額ニ多ク
 讓ラザラン、之ヲ既往ニ徴スルニ土地ノ發達ト共ニ年一年ヨリ通行貨
 物ノ額ヲ增加スルニ至レリ、
 此運河ハ政府ノ開通セシ所ニシテ其費シタル金額ハ五千二百五十万
 弗ナントモ、之ヨリ生スル毎年ノ收入ハ三十五万弗ニ達シ、資本ニ對シ
 年七分ノ利益ニ當ルナリ、

第二項 郵便

(1) 郵便ノ組織 郵便制度ノ整頓シテ安全ニ且ツ迅速ニ配達ヲ爲ス

モノハ世界各國孰レモ我邦ニ及フモノアルナシ、是レ吾人カ先年佛國
 巴里府ニ於テ開キタル万国郵便大會議ノ報告書ニ據テ見ル所ニシテ
 特ニ帝國ノ一大美事タリ然ルニ加拿陀ノ如キ新開地ノ十分ニ整頓セ
 ザル郵便組織ニアリテハ能ク其制度ヲ諳ンセザレハ一封ノ信書ヲモ
 發受スルコト能ハサルナリ
 重ナル市町村ニ於テハ郵便局ノ設ケアレントモ特ニ著名ノ大市街ニ非
 ラサレハ郵便配達夫ヲ置カサルナリ、現ニ晚香波港ノ如キスラ當時尙
 郵便配達夫ヲ置カス、サレハ各人自身ニ郵便局ニ至リ氏名ヲ通シテ書
 狀來着ノ有無ヲ尋テ之ヲ受取ルノ外ナシ、但毎月五十仙ヲ納ムレハ郵
 便局内ニ於テ書狀箱ヲ買取ルコトヲ得、然ルトキハ郵便局ニテハ
 二十五仙ノ代價ヲ以テ書狀箱ノ鍵ヲ拂下ク、番號ト氏名トヲ其箱ニ記
 入シ本人ニ宛テタル書狀ノ來着タルキハ一切其箱ニ投入シ置クナ

リ而シテ本人ハ時々鍵ヲ携ヘ行テ箱ヲ開キ其書狀ヲ受取リ得ル方法
 ナリ、斯クスルキハ姓名ヲ詐稱シテ書狀ヲ盜ミ去ラル、ノ憂アラザレ
 トモ極ハメテ煩冗ヲ免レス殊ニ山間僻地ニ住スルモノハ數里ヲ隔リ
 タル郵便局ニ來リテ書狀ヲ受取ラサルヲ得ス加拿陀ニ於ケル郵便ノ
 制度ハ實ニ不進歩極ハマレト謂フベシ殊ニ日曜日祭日等ニハ一切
 郵便物ヲ取扱ハサルカ故ニ至急ヲ要スル場合ニハ至大ノ差支ヘテ生
 シ、又郵稅先拂ノ方法備ハラサルヲ以テ誤テ郵券ヲ貼用セザリシ書狀
 ノ如キハ沒收箱ニ投入シテ之ヲ燒棄テ時トシテハ行違ヲ生スルコト
 アリ尤モ著名ノ市街ニテハ郵便配達夫ヲ置キ我邦ノ如ク迅速ニ送達
 スル所アリト雖モ概シテ土地廣ク人口稀ナル所ニ於テハ勞働賃錢高
 クシテ費用ノ爲メ其目的ヲ達スル能ハサルナラン
 加拿陀ニ於ケル郵便制度ノ不進歩ハ國民ニ執テ不便極レリト雖モ人

智ノ開發セルト此制度ノ實行ニ慣レタルトヲ以テ人民ハ巧ニ之ヲ利用ス書狀名宛主ノ住所番地不明瞭ナル時ハ之ヲ其地方ノ郵便局ニ向テテ送達スルヲ例トス然ルキハ名宛主ノ郵便局ヲ來訪シタル時ニ之ヲ渡シ得ルノ便アリ而シテ一定ノ期限内ハ必ス之ヲ預リ置キ若シ名宛主ノ來ラサルキハ或ハ沒收シ或ハ差出人ニ返致ス又郵便局ニハ早朝ヨリ書狀受取人群集シ殊ニ商業活潑ノ市街ニテハ其雜沓名狀スルカラス故ニ動モスレハ懶惰生ノ好遊歩場トナリ又私窩子ノ出沒シテ遊蕩家ヲ誘フ如キ惡弊無シトセザレトモ然レモ亦一種社交的ノ俱樂部トナリ知人ハ常ニ逢フカ故ニ必スシモ其家ヲ訪問スルヲ要セス且世上ノ新聞ヲ耳ニシ人氣風俗ヲ審ニシ併セテ物價ノ高低ヨリ鐵道汽船ノ發着時間等ヲ知ルニハ最モ好キ場所ナレハ其土地ニ住スルモノ、爲メニハ一種ノ便益ヲ與フルコト多シ

(2) 郵税 加拿陀内地及諸外國ニ發送スル郵税ハ次ノ如シ

國內及合衆國	一、チンスニ付	三仙	一仙
市内	全	一仙	一仙
日本及歐洲	半、チンスニ付	五仙	二仙

書留郵便ハ總テ二倍ノ郵税ヲ拂フモノナリ
新聞雜誌書物及商品見本類ハ外國共ニ、二チンスニ付一仙トス
小包郵便物ノ量目ハ國內ハ五封度(一、封度ハ我百廿外)ヲ限リ、日本及歐洲ニ發送スルハ物品ニ由リ四封度乃至五封度ヲ制トシ、其容積ハ長サ二尺幅一尺以内トス、而シテ其郵税ハ商品見本類ト同シク、二チンスニ付一仙トス
尤モ政府ヨリ發送スル公用書類ハ總テ無税ナリ

附記 日本ヨリ加拿陀ニ發送スル郵便物ハ兩國政府ノ條約ニ據リ、
前ニ掲載セシ加拿陀ヨリ日本ニ發送スルモノト同様ナリト
ス

(3) 貨幣送達法 貨幣ノ送達方法ニ三アリ郵便爲換銀行爲換及ヒ通
運送トス銀行爲換ノ如キハ時トシテ貨幣ノ相場ニ亂高下ヲ生シ殊
ニ海外ニ送ルニハ相場ノ模様ニヨリ損益ノ差ヲ生スルコト大ナリ故
ニ數百圓若クハ數千圓ノ大金ヲ送達スルニハ銀行爲換ニ依ラサルベ
カラサントモ然ラサル以上ハ郵便爲換又ハ通運送ニ依ルヲ便益ト
ス次ニ兩者ノ手續ヲ示スヘシ
郵便爲換ノ手續ハ敢テ本邦ト異ルナシ現金ヲ郵便局ニ差出シテ爲換
證書ヲ受取リ之ヲ爲換金受取人ニ送付スルナリ其手数料ノ割合ハ次
ノ如シ

國內		外國	
四弗以下	二仙	十弗以下	十仙
四弗以上十弗以下	五仙	十弗以上二十弗	二十仙
十弗以上二十弗	十仙	二十弗以上三十弗	三十仙
二十弗以上四十弗	二十仙	三十弗以上四十弗	四十仙
四十弗以上六十弗	三十仙	四十弗以上五十弗	五十仙
六十弗以上八十弗	四十仙	一人ニ付一日五十弗以上ノ	
八十弗以上百弗	五十仙	爲換ヲ組ムヲ禁ス	
一人ニ付一日百弗以上ノ爲換ヲ組ムヲ禁ス			

通運送ハ貨幣其物ヲ直ニ送致スルヲ目的トス其國內ニ於テスルモ

實際通運會社ノ内部ニテ爲換ヲ組ムト雖其海外ニ遞送スルカ如キハ委託人ノ差出シタル國ノ通貨並ニ其種類ノ貨幣ヲ必ス送り渡スナリサレハ金銀貨ノ相場ニ亂高下ヲ生シタル時他國ニ輸出シテ賣捌カントスルモノ又ハ加拿陀ノ如キ金貨國ヨリ日本ノ如キ銀貨國ニ金貨ヲ送り金貨ノ騰貴ヲ待テ賣却セントスルモノ若クハ加拿陀ニ出稼ヲ爲シ幾許ノ資産ヲ造リテ之ヲ其本國ニ持歸ラントスル人々ノ爲メニハ必要ナルノミナラス又日本ヨリ銀貨ヲ送り銀ノ相場ヲ見テ賣却セントスルモノニシテ航海中己自ラ現金ヲ所持スル時ハ紛失スルノ恐アリ且紛失スルモ船長其實ニ任セサレハ必スヤ通運ニ托シテ之ヲ送致セサルベカラス殊ニ通運ハ安全ニシテ手数料モ廉ナレハ本邦ヨリ渡行シ滞在中ノ費用ニ供セント欲スル金錢ハ之ニ托スルヲ良策トス横濱ニ加拿陀通運會社ノ支店アリテ常ニ此等ノ事ヲ掌トレリ次ニ其

手数料ノ割合ヲ示スヘシ

國	内	外	國
二十弗以下	十五仙	四十弗以下	二十仙
五十弗以下	二十五仙	七十弗以下	以下道ノ遠近ニ由リ 二十五仙以上三十仙
八十弗以下	二十五仙以上四十仙	百〇〇弗以下	二十五仙以上四十仙
百五十弗以下	二十五仙以上五十仙	百五十弗以下	二十五仙以上六十仙
百七十五弗以下	三十仙以上七十五仙	二百〇弗以下	三十仙以上八十五仙
三百二十五弗以下	三十五仙以上九十仙	二百五十弗以下	三十五仙以上一弗
三百〇〇弗以下	三十五仙以上一弗廿五仙		

加拿陀郵便ノ景况ヲ一言セシニ千八百八十九年六月三十日ニ於ケル現在郵便局數ハ七千八百三十八同日マテノ一年度間ニ取扱ヒタル郵

便物

書狀 九千二百六十六万八千

葉書 千九百三十五万五千

新聞紙 千二百二十六万九千

書籍類 千七百〇〇五万三千

小包郵便物 五十一万九千四百

新聞發行所ヨリ直ニ發送セルモノハ無稅ニシテ其數概算六千万ニ上
レリ郵便ノ收入ハ二百九十八万四千二百二十二弗ニシテ其支出ハ三
百七十四万六千四十弗ナリ又同年中取扱ヒタル郵便爲換ハ六十七万
三千八百十三件此金額千二百二十六万五千九百二十弗ナリトス

第三項 電信

電信之組織 電信ハ本邦ト異ナリテ概テ私立會社ノ架設營業ス
ル所ニシテ政府ノ架設ニ係ルモノハ僅ニクニエベツク及嶋嶼ニ數里ノ
官用線アルニ過キス此線ハ全ク氣象上ノ警報用ニ供スルノミニテ公
衆一般ノ使用ヲ許サズルナリ其他北亞地方荒漠ノ原野ニ一千哩ノ架
設アリテモ是政府カ該地方ヲ開拓シ人民ノ移住ヲ獎勵セン爲メノ目
的ヲ成ルタル者トス
私設電線ハ著名ナル都市概テ通セサル所ナシ其會社ノ最大ナル者ヲ
大北西會社トス此會社ハモントリル會社及殖民會社ヲ合併シタル
モノニシテ初メ三百五十万弗ノ資本ヲ以テ開始シタリシカ漸次隆盛
ニ赴キ遂ニ他ノ會社ヲ壓倒スルニ至レリ今ヨリ三年前ノ調査ニ據レ
ハ二千八千人ノ技術師ト三千五百人ノ工夫トヲ備シ電線ノ延長ハ三万二千
六百里ニ達セリ云々之ニ次ケルモノハ加拿陀太平洋鐵道會社ノ所

有線ニシテ一万五千哩ヲ超ニ鐵道ノ通セル諸停車場ニハ悉ク電信局
 ノ設クアラサルハナシ
 (2) 電信料 電信料ハ之ヲ此地ノ物價ニ比スレハ頗ル廉ナリ、加拿陀及
 合衆國ヲ通シテ百五十哩以内ハ十語ニ付二十五仙、十語以上ハ一語ニ
 付二仙ヲ増加ヲ爲ス、其他夜間ノ電信料ハ特別割引ヲ爲ス定メナリ、又
 發信人並ニ受信人ノ宿所氏名ハ總テ無料トス然レモ海底電線ニ賴リ
 テ海外諸國ニ通信スルモノハ宿所氏名共ニ總テ制規ノ電信料ヲ徴ス
 レハ成ル可ク簡單ニ書スルヲ良トス
 加拿陀ヨリ東洋諸國ニ通スルモノハ大西洋海底電線ニテ倫敦ニ達シ
 未ダ分レテ三線トナリ一ハ北方露國ニ入り西伯利ヲ通シテ浦鹽斯
 德ヲ徑テ本邦ニ達ス之ヲ露西亞線ト云ヒ又他ノ一ハ倫敦ヨリ歐洲大
 陸ヲ徑テ印度ヨリ香港ニ入リ本邦ニ通ス之ヲ印度線ト云フ印度線ハ

延長セテ處在ニテ取次ヲ爲スニ由リ露西亞線ニ比シテハ若信迅速ナ
 ズ未加之電信料廉ナリ故ニ往來復用ニハ必ズ露西亞線ニ
 據ルヲ良トス、今晚香港ヨリ各國首府ニ通スルハ語ニ電信料ヲ示スハ
 シテ西語ニテハ羅馬字ニテ十字以下ノ綴ヲニ成リタルモノヲ指シ十字
 以上ニ涉ルモノハ二語ニ算ス、然ルモ日本語ハ言葉ノ切リ目明瞭
 ナラザレハ之ヲ羅馬字ニ綴ル上ニ於テ大ニ便益アリ、例ヘハ生絲
 其相場ノ如キハ HIRIOSOPH 一綴ニ書スレハ十字ニテ一
 語ナリ、之ヲ生絲 HIRIO 及相場 OPH 二ツニ綴ルヲ要
 セザルナリ、諸外國ノ言葉ニテハ生絲相場ト一語ニ書スルノ便益
 ナシ

國名 府名 露西亞線 印度線

日本	東京	三、三八
支那	北京	二、一六
朝鮮	京城	二、九三
英吉利	倫敦	四、二
佛蘭西	巴黎	四、二
獨逸	柏林	四、二
普魯西	柏林	四、二
伊太利	羅馬	五、一
露西亞	聖彼得堡	六、〇

加拿陀現在ノ電線千八百八十九年六月五日ノ調査ニテ延長三万九千四百三十哩ヲ其内官線三万六千四百四十四哩止ニテ電報局三千四百五十六カ所ニテ同年度中ノ取扱通信數ハ概算五百三

万三千八百二十六件電話モ廣ク行ハ其局數三百二十五電話機一万余千四百四組ノ線ヲ延長十萬七千四百八十九哩ニ達ス

第四項 鐵道

(1) 鐵道ノ組織 英領殖民地ノ鐵道ハ多クハ政府ノ手ニ由テ敷設セラル者ナレトモ、加拿陀ニ限リ政府ノ手ニ成レルモノハ僅々ニシテ概テ人民ノ私設トス、初メ政府ハ内治上ノ便宜ヲ計リ鐵道敷設ニ着手ス、然レテ人民ノ發達速ニシテ政府ノ手ヲ要セサルヲ以テ政府ハ其事業ヲ舉テ人民ニ委スルニ至レリ、然レモ政府ハ全ク干渉セサルニテラス、絶エス土地ノ拂下及補助金ノ下附ヲ以テ之ヲ獎勵シ其發達ヲ促カセテ政府ハ鐵道ニ補助シタル金額ハ實ニ一億三千五百萬弗ニ達シ、其他ニ諸鐵道會社ニ貸付タル金額二千五百萬弗ニ及ブ

各州廳ニテ補助シタル金額亦二千三百萬弗ナリト云ヘリ、是加拿陀鐵道ノ一時ニ發達シタル所以ニシテ隨テ内地ノ進歩ヲ助ケタルコトハ甚少ニアラサルナリ

已ニ人民ノ手ニ委テ急速ノ發達ヲ計シ、其設置ハ概シテ簡單ニシテ軌道狹ク、停車場ノ如キモ完全ナラス、又複線ヲ設ケタル所稀ナリ、是殖民鐵道トシテ其已ヲ得タル所ニシテ以テ急速ノ必要ニ應ズ、ハキ所以、モホナリ、彼ノロツキ山車難處ノ工事アリシニ拘ハラズ、加拿陀中既成ノ鐵道敷設費ノ平均水レ、一哩五方七千二百五十四弗ニ過キスシテ、英本國ニ於テ平均ノ四分ノ一ニ止レルナリ

(2) 現今ノ鐵道 加拿陀ニ於ケル鐵道ハ千八百三十六年七月二十一日、（即チ前記ノ鐵道）及ク、（即チ前記ノ鐵道）間十六哩ヲ開通シ、初メトシテ、爾來千八百九十九年六月ニ至ルニ、敷設タル總線路延長ハ實ニ一萬三千三百

二十五哩ニシテ、之ニ投入セシ資本額ハ無慮七億三千万弗ニ達ス、而シテ其八分ハ三太會社ノ手ニ成レルモノナリ、乃チ加拿陀太平洋鐵道會社ハ五千哩、（即チ前記ノ鐵道）鐵道會社ハ三千哩、（即チ前記ノ鐵道）ニナル、鐵道會社ハ千三百哩ヲ有セリ、就中太平洋會社ハ最大ナルモノニシテ、其有テ線路ハ東部ニシテ、（即チ前記ノ鐵道）西部ハ、（即チ前記ノ鐵道）ニ達シ、加拿陀全州ヲ東西ニ貫テ、千八百九十九年末ニ於ケル拂込資本金額ハ、政廳ノ補助金一億五千九百九十三萬六千六百一十一弗ヲ合セテ七億六千五百七十七萬六千六百六十六弗ニ達セリ、同年中ニ運送セシ乘客ハ千二百十五萬五千零五十一人、貨物ハ千七百九十二萬八千六百二十六噸ニシテ、總收入金四千三百四十四萬九千六百十五弗、又支出ハ三千三百三十八萬四千四百五十五弗ニシテ、差引純益一千百一十一萬五千五百七十弗ナリ

現今ノ鐵道ハ、（即チ前記ノ鐵道）中心トシテ、夫ヨリ東西南北ニ貫通セリ、其

詳細ハ旅行記中ニ掲ケタレハ今復之ヲ贅セス然リト雖モ加拿陀内地ニシテ十分ニ發達スルニ至レハモントリルハ東部ニ偏セルヲ以テ中心點ハマニトバ州ノウイニベク市ニ變換スベシト云フ殊ニ該市ハ加拿陀太平洋鐵道ノ中央ニ當リ且ツ合衆國ノシカゴ府ニ通スベクハ後來遂ニ北亞米利加ノ中心トモナルヘシ

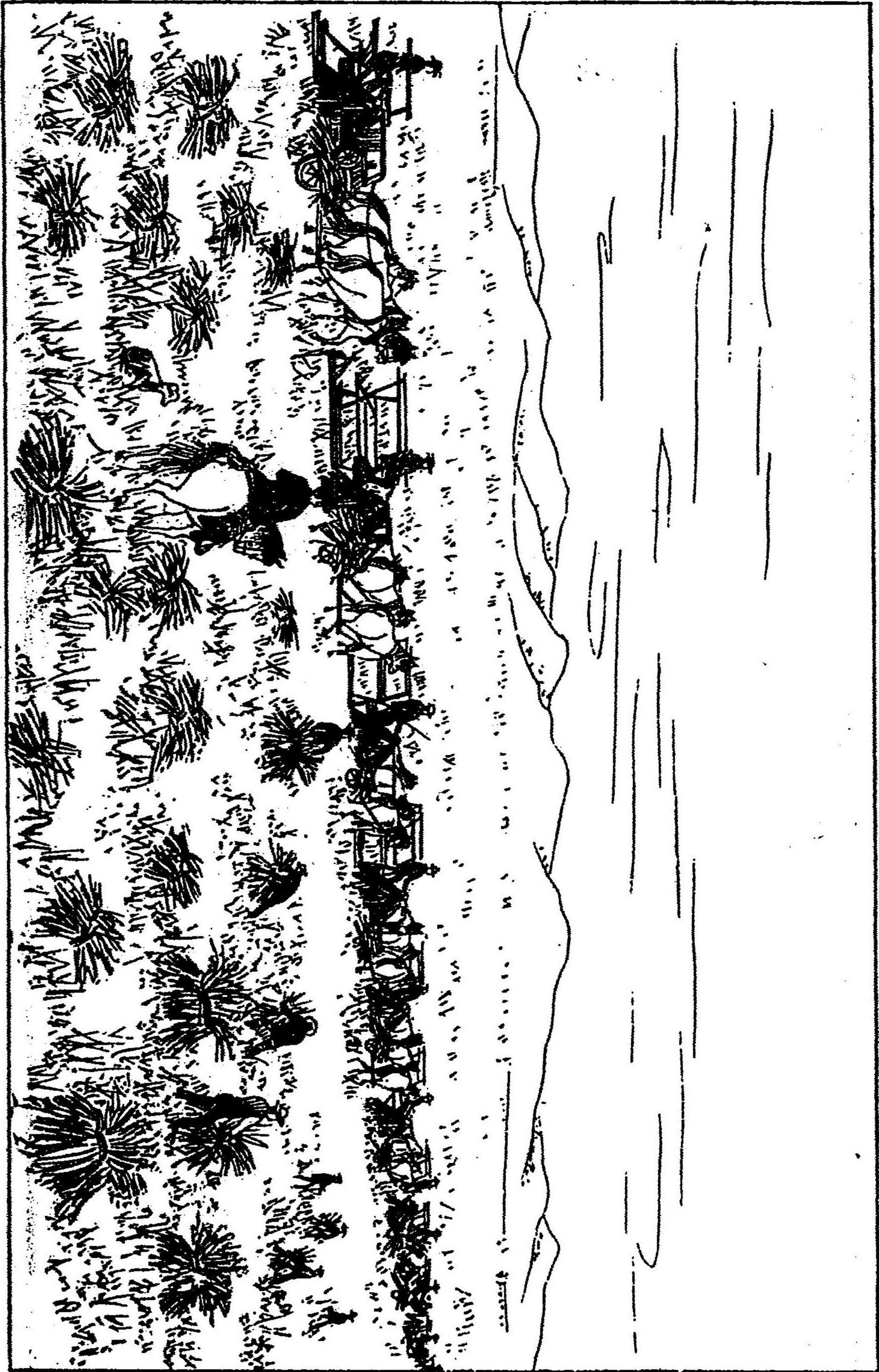
(3) 將來ノ鐵道 今ヲ距ル八年前加拿陀政廳ハ鐵道ノ發達ヲ促スノ目的ヲ以テ新設鐵道ノ有益ナルモノニテ一哩ニ付三千二百弗ヨリ六千四百弗ニ至ル迄ノ間ニ於テ補助費ヲ給與スルノ策ヲ執リシヨリ爾來此保護策ハ愈々擴張セラレ今日ニ至リテハ土地若クハ金錢ノ補助ヲ受ケル鐵道會社ノ數ハ百一社ニ及ヘリ此内五十八社ハ總計二千二百五十二哩ノ工事ヲ政廳ニ約シ政廳カ之ニ向テ補助スベキ金額ハ九百二十六万千七百七弗ニシテ五百七十八万三千四百七十五弗ハ已之

テ下附セリ又三十二社ハ七百十五哩ノ工事ヲ企テ之ニ對シテ政廳ノ補助スベキ金額ハ二百八十九万二千五百弗ナリ然レモ未工事ニ着手セス西北州ニテハ十一ノ會社アリ其延長二千七百十一哩ノ起工ヲ企テタル爲メ千九百七十八万七千七百四十四哩ノ土地ヲ下附シ又ウヰンベック及ボドソン灣間ノ鐵道會社ハ六百五十哩ヲ敷設スルニ付其補助トシテ六百八十八万哩ノ土地ヲ下附セリ

千八百八十九年中ニ計畫シ若クハ起工シタルモノ、數ハ少ナカラス其最モ緊要ナルハキニアツベル、ロングレーク及サスカチユワン鐵道ニシテ内百哩ハ已ニ竣成シタルハ千八百九十二年中ニハリシナ以上三百哩ノ開通ヲ見ルニ至ルヘシ

加拿陀將來ノ鐵道ニ於テ吾人ノ最モ着目スベキハ太平洋沿岸鐵道ニシテ千八百九十年哥龍比亞州會ニ於テ其敷設ヲ可決シタルモノ是ナ

リ該鐵道ハ晚香波ヨリ荒須賀地方ニ達スルモノニシテ竣功ノ上ハ桑
 港ヨリ荒須賀マテヲ貫通シ大ニ太平洋沿岸北方ノ殖産ヲ進ムヘシ豈
 唯殖産上ノミナランヤ商業上ニ及ホス効果ハ決シテ少カラサラン米
 國ト日本トハペーリソング海峽一葦帶水ヲ隔ツルノミナレハ此鐵道ニ
 依リペーリソング海峽ニ出ツルヲ得ハ之ニ據リテ本邦トノ交通ヲ爲シ
 得ルニ至ルコトアラシク然ルトキハ大ニ交通日數ヲ省キ得ルヲ以テ是
 ガタメニ兩國貿易上ニ與フニ利益ノ至大ナルコトハ猶彼ノ西伯利鐵
 道カ我ニ影響スルコトクナルヘシ宜シク最モ留意スヘキ所ノモノナ
 リ近時西伯利鐵道ノ問題ハ朝野ニ噴々タルニ此鐵道ニ注目スルモノ
 ナキハ何シヤ余ハ本邦ノ有志者カ眼ヲ開キテ廣ク宇内ノ形勢ヲ觀察
 蘇以コトヲ望ミヤ切ナリ



第六章 産業

第一項 農業

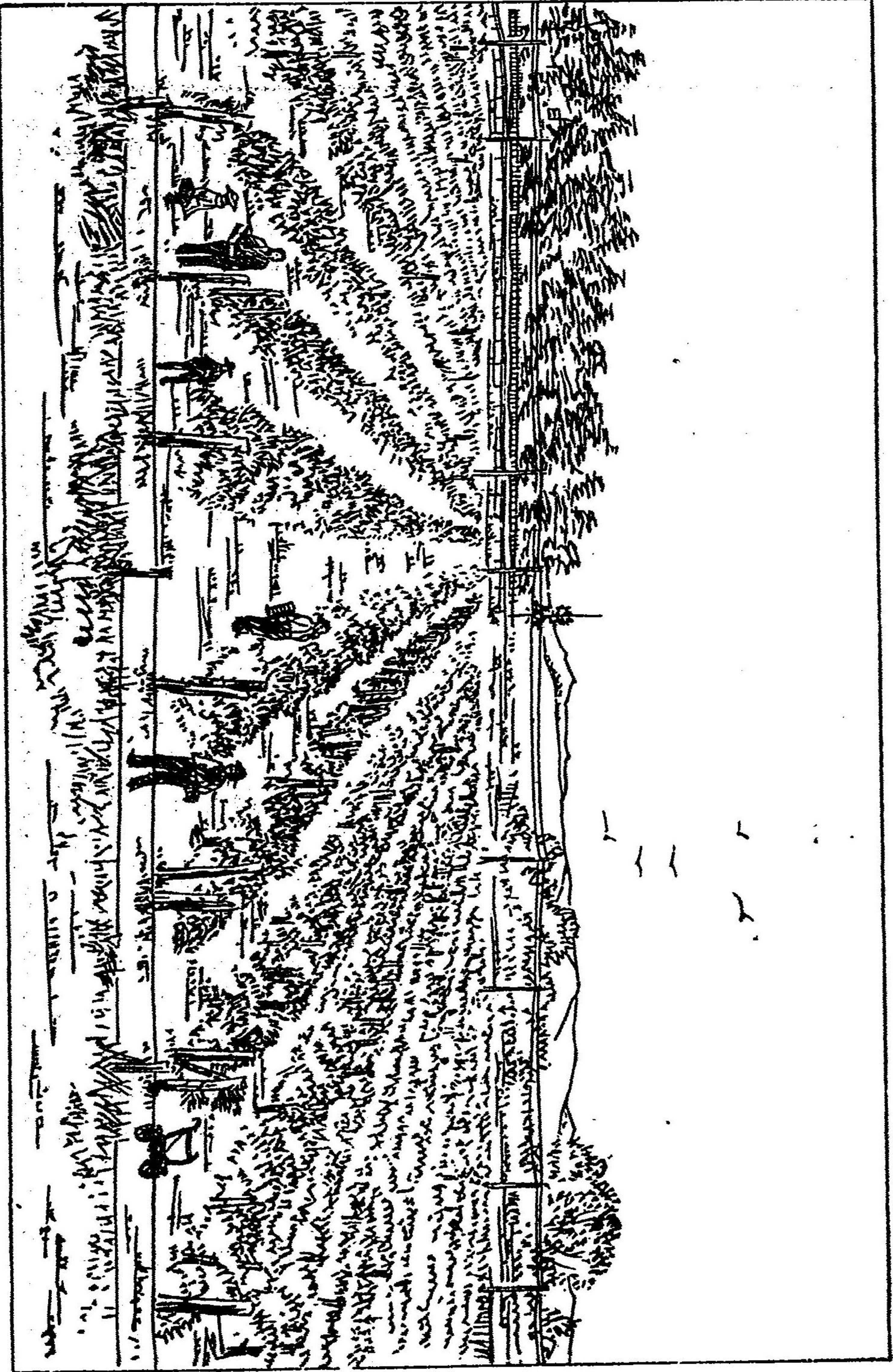
加拿陀は世界の大農産國ナリ、土地廣大ニシテ地味肥沃能ク各種ノ農産ニ適シ、且ツ地面平坦ナルヲ以テ機械使用ノ大農業ニ便ナリ、而シテ其農産ノ需要地トシテハ東ニ歐洲無限ノ市場ヲ控ヘ、西ハ日本及ヒ支那ニ向ツテ輸送シ得ルノ地勢ニ當リ、加フルニ鐵道ハ東西ヲ貫通シ湖水運河ノ航路ハ十分ニ整備シ、農業上生産貿易ノ利欠クル所ナキヲ以テ、近來屢々平下シテ其進歩ノ著ルシキハ刮目スベキモノアリ、唯惜ム所ノ者ハ氣候嚴寒ニシテ農時ヲ妨クルニアリ、然レモ土地ヲ得ルノ容易ニシテ且ツ地稅ノ低廉ナルハ、農家ノ日ニ富ミテ農業ノ發達ヲ爲ス所以ナリ。

政府カ農業ノ獎勵ニ汲々タル各處ニ農事試驗場ヲ設ケ、唯穀物ノ適否生長如何ヲ試驗スルノミナラス、農業ニ必要ナル經濟ノ點ヲ始メトシ肥料ノ効力、器械ノ用法、販路ノ狀況ニ至ルマテ精密ニ調査シテ月報ヲ刊行シ、廣ク農家ニ配付シテ其參考ニ供セリ、其他農學校、農談會ノ如キハ其設ケ甚タ多シ、特ニ農業獎勵ノ上ニ著シク偉功ヲ奏シタルハ農産共進會ニアリ、共進會、品評會ハ各處ニ開設シ農産物ノ優劣ヲ比較シ、又其適否ヲ世人ニ知ラシム、殊ニ毎年一回ノ農産博覽會アリテ各地ノ産物ヲ陳列シ、此時ニ當リテハ加拿陀一般ニ特ニ馬車、鐵道及ヒ宿泊料ノ割引ヲ爲シテ廣ク衆民ヲ招集ス、故ニ其効果ハ一層著シキモノアルナリ、加拿陀ノ農業ハ悉ク大農ノ組織ニシテ、孰レモ單一耕作法ヲ施スノミ故ニ各種ノ植物ニ應ジテ箇々精密ナル農理ヲ應用スルハ寧ロ他國ニ及ハスト雖、大農ナルカ故ニ器械ノ使用ハ盛ニシテ多ク、人力ヲ省キ

一人一家ニテ數十町ヲ耕作スル狀態、本邦小農ノ一町前後ヲ耕作スルモノト日ヲ同フシテ、語ルベキニアラス、サレバ彼ノ農家ノ富裕ニシテ高尚ノ生計ヲ營メルハ我農家ノ貧困ニシテ劣等ノ生計ヲ爲セルモノト、天淵月窟ノ差モ嘗テナラザルハ固ヨリ怪ムニ足ラサルナリ、加拿陀ノ農民ハ地主多クシテ小作人少ク、土地ヲ得ルコト容易ナルカ故ニ孰レモ相應ノ耕作地ヲ所有シ、地稅廉ニシテ農産物ノ販路宜シキニ由リ初メ小農タルモ忽チニシテ大農トナルコト敢テ難カラサルナリ、彼ノ歐洲ヨリ移住スル者ヲ見ルニ其本國ニテ生存ノ競爭ニ敗シ無資産ノ身トナリ、快々トシテ樂マサルノ餘リ、遂ニ故郷ヲ後ニシテ始メテ此地ニ着スルヤ、顔色憔悴、復人間界ノモノニアラス、然ルニ彼等カ筋力ヲ勞スルコト數年ナラスシテ大耕地ヲ有シ、壯觀ナル邸宅ヲ築キ、出ツルニ馬車アリ、意氣揚々トシテ富榮ヲ極ハムル者比々皆是ナリ、想フニ我

農民ノ農業ニ勤勉ナル之ヲシテ移住セシメハ其功績ノ大ニ見ルヘキ
モノアラム。左レハ此地ヲ歴遊シテ移住ノ方法開墾ノ狀況等ヲ觀察ス
ルハ必スシモ無用ノ事ニアラサルヘシ
加拿陀ハ新開國ナリ特ニ中央部以西ハ新開ノ最モ新開ナルモノニシ
テ、太平洋鐵道開通以來漸ク開拓ニ從事シタルモノト云フモ失言ニア
ラス、サレハ僅々五六十年ヲ經タルニ過キサレトモ、其開拓進歩ノ迅速
ナル實ニ東洋人ノ眼ヲ驚カスニ足ルモノアリ想フニ今後十年間ノ進
歩ハ世界ノ農産國ヲシテ隨若クアラシムルモノアラム、特ニ今日ヨリ着
目スヘキハ中央大平原ノ開拓ニシテ、ロツキー山以東一面ノ草海ハ茫
々トシテ岸涯ナク、之ヲ貫テ鐵道ハ汽車ノ駛行スル事ト三晝夜ニシ
テ始メテ通過スルヲ得ヘシ以テ其廣濶ナルヲ知ルニ足レリ、汽車ニテ
夜間此地ヲ駛行スルニ方リ、殆ンド滿面ノ火焰ヲ認ムルコトアリ是即チ

開拓の進展



秋季之際、移住民ノ水ヲ枯草ニ放テ開墾ノ準備ヲナスモノナリ、其法
 至テ簡易ニシテ利益多シ、火ヲ放テタル跡ハ翌春之ヲ鋤キ返シ、直ニ播
 種器ヲ以テ種子ヲ撒布スルハ、其年無ク十分ノ收穫ヲ見ル、況ヤ該地方ハ
 土地膏腴ナルヲ故ニ別ニ肥料ヲ要セス、又灌水ノ必要ナク、殊ニ他ノ地
 方ニ反シテ樹木ヲ伐採シ、樹根ヲ掘出スルノ勞ナク、唯種子ヲ播シテ收穫
 ヲ得ルニ過スサシク、且ルニ自然的ノ農業ヲ以テスルモ不可ナシ、而
 シテ土地ノ廣大ナルコト、日本四千万ノ人口ヲ移シテ各自ニ一町歩ノ
 耕地ヲ所有スルノ農民ヲラシムルヲ得、今由ハ住民猶甚ク少ナク、
 シテ未タ巨額ノ産出ヲ見ルヲ得サレドモ、他日移住者大ニ増加シ、此草
 海ヲ變シテ一面ノ穀野ヲラシメ、ハ其所産ハ亞細亞全洲ノ人口ヲ養フ
 ニ於テ敢テ欠乏ヲ訴ヘサルベキナリ、今ヤ此地方ノ穀産日ヲ進ブテ倍
 從ス將來盛ニ之ヲ太平洋岸ニ出シ、以テ東洋諸國ニ販賣スルニ至ラハ

日本ノ農業ニ影響スル蓋シ鮮少ナラスシテ恐ラクハ我農業ノ耕面ヲ一變セシムヘキモノアラム故ニ加拿陀ノ將來ハ吾人ノ最モ注目スヘキ所ナリ

千八百八十一年ノ調査ニ據レハ加拿陀ニ於ケル既成ノ開拓地ハ全面積五十分之一即チ四千五百三十五万八千四百四十一「エーカー」ニ止マリシカ其後大ニ増加シテ千八百八十九年ノ調査ニ據レハ爾後増加シタル地ノ宅地六十九万五千五百五十「エーカー」又先買條例ニ據リ處分シタルモノ三十一万二千六百五十二「エーカー」賣却シタルモノ十七万七千九百三十三「エーカー」合計百八万五千七百九十三「エーカー」ナリ

千八百八十一年ニハ各種ノ所有地面積二十五万八千九百十五「エーカー」ナリ其地域ノ廣サハ五十「エーカー」乃至二百「エーカー」ナリ又同年使用地ノ面積二千九百九十九万九千八百八十「エーカー」ハ改良地ニ屬スル

モシテ内千五百一十一万二千二百八十四「エーカー」ハ作付地六百三十八万五千五百六十二「エーカー」ハ牧場ナリ同年中ノ穀物收穫高ハ一億五千万「ブツセル」ニシテ其重ナルモノハ燕麥、小麥、裸麥、大麥、玉蜀黍及豆類ナリ加拿陀全般ニ關シテノ完全ナル農業報告ハアラサルモ千八百八十一年ニ於ケル小麥ノ收穫總高ハ三千三百万「ブツセル」ノ概算ニシテ内輸出高ハ八百八十九万九千六百六十九「ブツセル」ナリ

千八百八十三年ヨリ全八十九年ニ至ル七年間ヲシテオ州ニ於テ調査シタル各種穀物「エーカー」ノ平均産額ハ左ノ如シ

秋小麥	一九四	裸麥	一六四
春小麥	二五七	豌豆	二〇四
大麥	三六一	玉蜀黍	六四九
燕麥	三五三	馬鈴薯	二五七

菓樹ハ概シテ南方温暖地方ノ如クニ多クラス其質亦劣レリト雖モ特ニ葡萄、苹果、プラムノ三種ハ能ク土地ニ適シ産額多ク隨テ價格低廉ニナルカ故貧者ト雖モ其食卓上常ニ之ヲ欠クコトナシ

牧畜ハ合衆國ノ如クニ盛ナラスト雖モ其將來ニ望ミアルコト鮮少ナラス殊ニロッキン山麓ハ多年名馬ノ産ヲ以テ著ハレ英國政府ハ將來ノ軍用馬ヲ悉ク此地ニ於テ育養スルノ目的ヲ以テ千八百八十九年特ニ三名ヲ出官ヲ派遣シ牧場ヲ實況ヲ視察セシメタリ氣候ハ寧ロ寒冷ニ過ケレドモ其空氣乾燥ニシテ家畜ノ健康ニ最モ適セリ故ニ該地方ノ馬牛羊豕ハ將來英國ノ市場ニテ他産ヲ壓倒スルニ至ラン從前ハ英國百畜類ヲ輸入ヲ見シカ近年ニ至リ反テ英國ニ輸出スルモノ頗ル多シ千八百八十八年ノ調査ニ據ルハ英國及合衆國ニ輸出スル重ナル畜類ハ次ノ如ク

英國

合衆國

牛 五〇一、七四二 三九、四八一 三二、九〇〇 四六三、八四八 一〇、四六七 一九六

羊 三〇、四二二 二二一、八八一 三五三、九九九 一〇、二七四 一〇

馬 二一〇、八五三 一三三、一三七 七五七

千八百八十一年ノ調査ニ據ルハ加拿陀ニ現在スル畜類ハ牛三百五十一万四千九百八十九頭、羊三百四万八千六百七十八頭、豚百二十万七千六百十九頭ナリシカ、千八百八十八年ニハ牛三百七十九万一千九百八頭、馬百九万九千二百七十九頭アリ、其他ハ未詳ナレトモ莫大ノ増加ヲ爲セシヤ疑ヒナシ

近來牛酪乾酪ノ製造著シク發達シ、千八百八十一年ニ於ケル乾酪ノ輸出ハ八千三百三十二万三千八百四十二斤此價格八百八十三万四千九百九十七弗ニ上レリ、殊ニ精良ノ評高ク倫敦市場ニテ最モ高價ヲ占メ

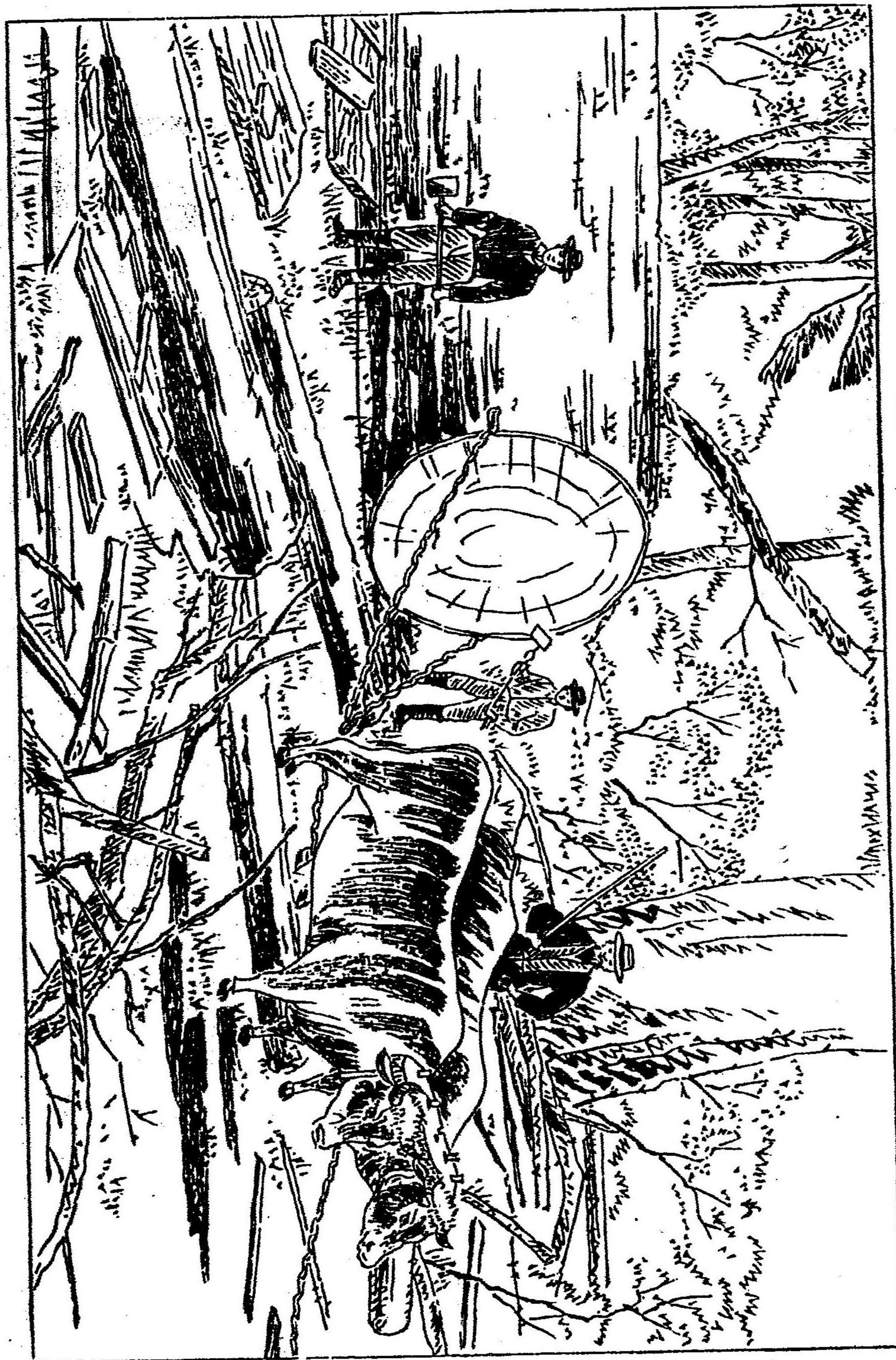
タリト云フ、

家禽飼養ハ未盛大ナルニ至ラス、是隣邦合衆國ト競争スル能ハザル事情アレハナリ、然レモ年々外國ニ輸出スルモノハ千四百万打ニ至リ其代價十二万七千弗ニ達ス、但シ西方ナル哥倫比亞州ニテハ家禽ノ業幼稚ニシテ年々ノ輸入少ナカラス
蜜蜂ハ州中到處ニテ飼養シ年々ノ産額少ナカラズ且ツ其質善良ニシテ價格貴ク飼養ノ利益特ニ多シ

第二項 山林

加拿陀ハ土地ノ開拓未完タカラスシテ天産物ノ未入ノ採收ヲ經サルモノニ富ム、故ニ勞力ヲ費スモノアレハ資本ヲ要セスシテ鉅万ノ産ヲ起スハ敢テ難カラサルナリ、樹林ノ如キハ則チ其一ニシテ有用ノ良材

卑ノ木伐林山湖ヤロノロロ



鬱蒼トシテ千里ニ亘リ、近來此一大利源ノ採收ニ着手シテ比々機械
 木挽ノ工場ヲ興スモノアルニ至リ抑機械木挽ノ便ヤ數百歲ヲ經テ
 ル大樹モ一タリ其裝置セル大鋸ニ上レハ立トコロニ一寸板トナリ又
 ハ四角柱トナルナリ其運用ノ自在ニシテ且ツ迅速ナル今日山林ニ蒼
 々タル大樹モ明日ハ變シテ移住人ノ家屋トナルナリ而シテ新地開拓
 ト木挽業トハ是相須ツコト猶輔車ノコトクニシテ加拿陀ノ開拓駭々
 トシテ其歩ヲ進ムルハ木挽工場ノ大ニ起レルナリテ移住民ノ便益ヲ
 助クルニ由ラズンハアラサルナリ
 加拿陀ニ生スル樹木ニシテ造船造家ノ材ヨリ家具若クハ室内裝飾ノ
 用途ニ充ツヘキモノ九十五種アリ而シテ其多キ産地ハ次ノ如シ
 テンタリオ州 六十五種 クエベック州 五十二種
 スウペリオ湖邊 六十四種 哥倫比亞州 三十四種

哥倫比亞州三十四種ノ内主トシテ外國ニ輸出スル木材ヲ選ビ量目重量彎曲裂折壓碎等ノ硬度ヲ試験シタルモノアリ即チ左表ノ如シ
 土地氣候ノ異ナルト共ニ大ニ木質ヲ異ニスルハ是植物ノ原理ナリ加
 拿陀ノ如キハ土地寒冷ニシテ加フルニ地味肥沃ナルハ大樹良材ニ乏
 シカラスト雖モ概シテ木質柔軟ニシテ我南海温暖ノ地ニ於ケルガ如
 キ硬剛ノ木材ハ之ヲ見ルヲ得サルナリ隨テ家具機械用並ニ彫刻用ニ
 ハ適スルモノ少クザンハ兩國木材ノ交換モ將來其途ヲ開クニ至ル
 ベシ右九十餘種ノ木材中最モ有名ナルハトグラス所謂亞米利加松ニ
 シテ太平洋ノ沿岸ヨリ太平洋ノ沿岸ニ至ルマテ繁茂セサル所ナシ其
 長キモノハ三百五十呎ニ達シ又其大ナルモノハ地上九十呎ノ處ニテ
 直徑四十五吋根本ニテ直徑十五呎乃至十八呎ナルモノニ乏シカラス
 以テ其喬大ナルヲ證スルニ足ルヘシ通常ノモノト雖モ百五六呎ノ高

樹木ノ種類	一立方寸量目	重量	二百封
榛樹類 (科木)	三三・一六	五二・五八	〇九二
Alder	三三・一六	五二・五八	〇九二
常盤木	三三・一六	五二・五八	〇九二
Arbutus	三三・一六	五二・五八	〇九二
樺	三三・一六	五二・五八	〇九二
Birch	三三・一六	五二・五八	〇九二
ヒノキ類 (科松)	三三・一六	五二・五八	〇九二
Cedar	三三・一六	五二・五八	〇九二
ヒノノ類 (科松)	三三・一六	五二・五八	〇九二
Crab Apple	三三・一六	五二・五八	〇九二
ヒノノ類 (科松)	三三・一六	五二・五八	〇九二
Cypress Yellow	三三・一六	五二・五八	〇九二
アメリカ松	三三・一六	五二・五八	〇九二
Fir, Rea	三三・一六	五二・五八	〇九二
フガ (科松)	三三・一六	五二・五八	〇九二
Hemlock	三三・一六	五二・五八	〇九二
紅葉 (科松)	三三・一六	五二・五八	〇九二
Maple	三三・一六	五二・五八	〇九二
紅葉 (科松)	三三・一六	五二・五八	〇九二
Oak	三三・一六	五二・五八	〇九二
朝鮮松ノ類 (科松)	三三・一六	五二・五八	〇九二
Pin, White	三三・一六	五二・五八	〇九二
朝鮮松ノ類 (科松)	三三・一六	五二・五八	〇九二
Spruce	三三・一六	五二・五八	〇九二
蝦夷松ノ類 (科松)	三三・一六	五二・五八	〇九二
White	三三・一六	五二・五八	〇九二
ササノ類 (科松)	三三・一六	五二・五八	〇九二
White	三三・一六	五二・五八	〇九二
イチビノ類 (科松)	三三・一六	五二・五八	〇九二
Yew.	三三・一六	五二・五八	〇九二

○備考

横徑強弱ノ試験ハ長サ一呎幅一吋ノ木
 ハ長一吋一呎ノ四角形ヲ成シタル木柱
 中位ノ木ニテ節目又ハ割罫ナキ其部公

サニ長シ殊ニ節下ノ長キハ百五十呎ニ至レルモノ往々ニシテ有リ其
 挺然トシテ直立セル状態ハ人ヲシテ驚天ヲ支フルモノナリカト疑ハ
 れタリ其節下ノ長キハ成長ノ速チル證ニシテ地味氣候善ク適シタル
 ナ推スニ足ルナリ殊ニ此樹ノ繁茂セル地方ハ大風ノ吹クコトアラザ
 レハ隨テ其高ク生長スルヲ妨ケサルナリ此樹ハ造船築港ノ用材ト爲
 スニ宜シク海外輸出ノ額特ニ多シ本邦ニテ後來造船業ノ盛ナルニ至
 ラム恐多ク其用材ハ加拿陀ヲ舍テ他ニ之ヲ求ムル地ナクハム
 加拿陀ノ林産物輸出額年々増加ヲ傾キ強ク千八百八十九年ノ如キハ
 二千百万弗ニ上レリ同年ニ於ケル林産物輸出額ノ類別ヲ上クレハ次
 ノ如シ

木	二五九〇二六	木	二四六五六八
薪	一六三三八〇〇二	皮	三九〇八五九

材 木	一六一七六〇九七	屋根葺板	三二二、一九三
鐵道枕木	五一九、九一八	桶 板	一一八、七〇一
四角柱	二三八四、〇三七	其他雜種	四一五、一五七
合計	二、一三〇、二八一四弗		

今日山林ノ收利ハ材木ノミニ止マリ未副産物ノ如何ヲ問フニ至ラス、是人日稀少ナルニ由リ、本邦ヨリ彼地ニ移住スル者後來山林ノ遺利ニ注目セハ、益シ其利益ハ少カラサル可シ

第三項 鑛業

加拿陀ノ鑛業ハ未十分ニ發達セリト謂フヲ得大、近來鑛脈ノ發見多シ、雖未探掘ニ着手セサル處アリ、是加拿陀ノ如キ人跡稀疎ノ地ニテハ、往々運輸交通ノ便ヲ欠キ其搬出ノ容易ヲササルニ由リ、想テニ他

日鐵道ノ縱横ニ通スルニ至ラハ驚クヘキ産額ヲ見ルナラソ、現時探掘スル重ナル鑛物ハ石炭、金、銀、銅、鐵、石膏、石綿、大理石、磷酸、石灰、安質母、石油、石鹽等ニシテ千八百八十八年ニ於ケル鑛物總産額ハ千六百五十万弗ニ達セリ其内重要ナルモノ、産額ハ次ノ如シ

石 炭	五、二五九、八三二	銅	六六七、五四三
鐵	一、五九二、九三一	建築用 石材	六四一、七一二
金	一、〇九八、六一〇	銀	三九五、三七七
石 油	七五五、五七一	石 灰	三三九、九五二

爰ニ其重要ナル鑛物ニ就テ緊要ノ事件ヲ擧ケン

金 屬 金ハ哥倫比亞州ヲ以テ産出ノ最モ多キ處トス、過去十八年間ノ産ハ三千九百九十五万三千六百十八弗ニシテ、人口一人ニ付平均六百六十三弗ノ採取ニ當ルナリ、鐵ハオタワリ州ニ最モ多ク、其他各地

方ニモ亦之ヲ産シ其産善良ヲ以テ著ハレ價格特ニ貴シ銅ハクニベツ
 ク州及チンタリオ州ヲ最多シトス
 非金屬 加拿陀ノ鑛物中特ニ多産且ツ良質ヲ以テ世界ニ有名ナルハ
 石炭ナリ現今盛ニ探掘スルハノバスコシヤ州及哥倫比亞州ナレトモ
 北西地方ニハ炭脈六万五千哩ニ亘リ加フルニ其質善良ナルカ故ニ若
 シ十分ノ資本ヲ以テ之ヲ探掘スルニ至ラハ南北米ハ勿論世界ノ各市
 場ニ供給セラルルニ至ルナルヘシ彼ノロツキー山中ニアルアンストラ
 サイト及カンセーニスノ炭坑ハ無烟炭ヲ産出シ其質甚ク善良ナルニ由
 リ桑港現時ノ相場一斤十三弗乃至十四弗ノ間ニアリ嘗テ本邦石炭ノ
 賣捌所ナシテ一大利益ヲ與ハタル桑港ニ於テハ近來北米諸地方ノ出
 荷多クシテ我石炭ハ輸出額減退スルニ至リ增加スルノ望ナキモノトナレ
 リ而シテ加拿陀如キモ桑港ニ輸出スルニ地方ニシテ其額年々十四

五萬噸ニ下ラヌ況ンヤ加拿陀ノ産出ハ千八百九十年ニハ五十四萬八
 千五百三噸多クニ上レテ漸ル勢ナリ以テ我石炭ハ管ニ輸額増加
 シ望ナキモノナラス遂ニ加拿陀産シ爲メニ全ク販路ヲ奪ハルニ至
 ルニ亦未知ルカカラサルナリ
 磷酸石灰ハチツタワ溪及クエズツ地方ニ其推積セルモノ多ク農家
 ニ於テハ其肥料ニ製シタルモノヲ需用スルコト近來頓ニ増加シ爲メ
 ニ石灰肥料ノ製造盛ナリ時トシテハ破碎シタルノミノ磷酸石灰ヲ用
 フルコトアリ其質善良ニシテ百分ノ内七十乃至七十五ノ肥料分アリ
 ト云フ目下倫敦市場ニテ一噸二十五弗前後ナリ又肥料トシテ廣ク用
 レラレシ海外ニモ輸出スルハ石膏ニシテニユウラシスウ井シクンバ
 スニシヤ及チンタリオノ三州ニ産ス
 石油ハチンタリオ州ヲ主トシロツキー山及ヤニトス廣野ニ産ス然レ

漁業ハ將來一大民業トナルヘキノ望ミアルヲ以テ、加拿陀政廳ハ嘗テ十五萬弗ノ賞金ヲ懸ケテ捕魚ノ術及漁船ノ構造法ニ就テ其改良案ヲ求メヨリ且ツ從來政府カ漁業ヲ爲メニ堤防ヲ築キ或ハ港灣ヲ修メテ其便利ト安全トヲ與ヘシ工事ニ消費シタル金額ハ實ニ七百萬弗ノ多キニ及ヘリ以テ其獎勵ニ熱心ナルヲ知ルニ足レリ目下加拿陀ニハ十二ノ養魚場アリテ專ラ魚類ノ繁殖ヲ計リ、又水産調査所アリテ水族ヲ調査シ水産物ノ保護及販路ヲ擴張ヲ期セリ漁業ノ次第ニ發達スルハ其故ヲシトス、今次ニ漁民及漁具ニ係ル各州ノ統計ヲ掲ケテ其一斑ヲ窺フニ便ナラシム

各州漁民及漁具統計 (千八百八十八年調)

州名	漁民		船		噸數		代價	
	數	代價	數	代價	數	代價	數	代價
ノバス、コシヤ	三、八〇七	一、三三四	三、〇九七	六、九〇	二、九二五	一、九三三	三、八二九	六、七三三
ノバ、コシヤ	三、八〇七	一、三三四	三、〇九七	六、九〇	二、九二五	一、九三三	三、八二九	六、七三三

ニュウブラン	九、八四〇	四、七〇〇	一、七七七〇	一、五〇	二、七五九	八、二九〇	三、四六三	三、一五五
スウィツク	四、三三九	一、二四七	四、〇三〇	七〇	二、五〇五	七、七〇〇	七、四八五	五、三九七
ドワード島	九、四三三	五、三三五	一、六一三	一、一五	五、五五〇	二、四二〇	三、六六六	一、六七二
クエベック	三、三〇三	一、四七三	九、九七三	五七	一、一四二	一、三五〇	九、三三七	三、二二一
オタワガ	五、九四〇	一、三三七	七、一〇二	五二	二、一六六	一、八四〇	二、三〇六	一、五八三
英領コロ	六、一〇一	二、七三三	八、五九三	一、一三七	四、三二七	二、〇七七	五、五八五	一、五九四
合計	六、一〇一	二、七三三	八、五九三	一、一三七	四、三二七	二、〇七七	五、五八五	一、五九四

右ノ表ニ據レハ東沿岸一帯ハ漁業大ニ開クタリト雖、西沿岸哥倫比亞州ハ長ク太平洋ニ沿ハルニモ拘ハラズ漁業最モ進歩セズ然レモ加拿陀太平洋鐵道ノ一タヒ開通シテヨリ此地ノ交通上ニ便ヲ加ヘ隨テ歐洲殊ニ英國ノ大資本流入シテ此業ヲ起スモノ日一日ヨリ多ク我漁民ノ漁獵ニ巧ナルモノハ大ニ重用セラル、ノ傾キアルナリ、サレハ本邦人ニシテ此地方ニ漁業ヲ企ツレハ決シテ難キニアラス、因テ次ニ特ニ哥倫比亞州ノ漁況ヲ記シ以テ有志者ノ參考ニ供セントス

第二 哥倫比亞州ノ漁業附日本出稼漁夫

哥倫比亞州ノ魚類ニ富メルコトハ人ノ能ク知レル所ナリ然レトモ其漁民ニ至テハ極ハメテ幼稚ニシテ未大洋漁獵ノ術ヲ知ラス隨テ捕獲スル所ノ魚族モ僅ニ四五種ニ止マレリ千八百八十八年ノ調査ニ據レハピクトリヤ府ノミヨリ輸出セシ魚類ハ一百十五萬九千五百四弗ニ上リ之ニ加フルニ州内人民ノ食料ニ供セシ者凡ソ四百萬弗内外ナル可ケンハ察スルニ毎年五百萬弗以上ノ漁獵アルナラハ然レドモ之ヲ水産ノ富源ニ比スレハ五百萬弗ノ收入ハ極ハメテ些々タル者ト謂ハサルヲ得ス畢竟斯ク漁獵ノ少ナキ所以ノモノハ從來交通ノ便乏シクシテ販路ノ狹隘ナリシト漁業資本家及漁夫ノ不足ナリシトニ因ラズノハアラズ近來大鐵道ノ敷設アリシ爲メ五日ヲ出ラスシテ東部人口稠密ノ諸市街ニ達スヘク更ニ又歐洲諸國ノ大市場ニモ容易ニ交通ス

ルヲ得ルニ至リテ以テ魚類ノ販路自ラ廣マリタルハ資本家續々入來リテ從來放棄セル天與ノ富源ヲ探取セント欲シ漁業日ヲ逐フテ盛ナラムトス此時ニ當リ第一需要ノ急ナルモノハ漁夫ニシテ漁夫ニ最モ適シタル性質ヲ云ヘハ日本海濱ノ漁夫ニ超エタルモノハナシ余曾テ之ヲ哥倫比亞ノ某船長ニ聞ク漁獵ノ術ニ巧ミナルト漁夫タルニ適セル性質トハ世界中日本人ノ右ニ出ツル者ナカル可シト元來日本ハ島國ニシテ海ニ濱スル處多ク數千年來漁業ニ慣シタルハ其捕魚ニ敏捷ナルト巧ニ風浪ヲ凌クトハ特有ノ長所ナリ是ヲ以テ哥倫比亞州ニ於テ最モ能ク魚類ヲ捕獲スルハ我日本ノ漁夫ニシテ漁期來レハ四方ヨリ群集シ帶ニ百名以上ニ達ス但我漁夫ハ英國漁夫ノ如ク器械ノ使用ニ熟達セスト雖モ一タヒ其方法ヲ示セハ直ニ解得シテ容易ニ之ヲ使用シ得ルナリ此等ノ漁夫ハ漁期ニ際シ十分ナル賃銀ヲ得テ頗ル

多額ノ所得アルモノナレド、漁期已ニ終レハ各繁華ノ地ニ四散シテ無職無爲唯飲食逸遊ニ耽ルノミ、サレハ年々得ル所ハ年々費シ未嘗テ一厘ノ貯財タニ爲シタルモノハアラスシテ言ハ、遠ク米國ニ寄食スルノミ、本國ノ爲メニハ何ノ益タモ爲サ、ルナリ、想フニ哥倫比亞州ノ如キハ日本漁夫立脚ノ餘地十分ナルヘケンハ、貧困ナル漁民ヲ移シテ善ク之ヲ指揮監督シ其勞働シテ得タル所ヲ貯ヘシムルノ方法ヲ立ツルハ必ラス其目的ヲ貫キ國家ノ益ヲナスコト蓋シ鮮少ニアラサルヘシ、哥倫比亞州ニ産スル水族ハ鮭、鱒、主トシ平身魚、鰻、コチ、ヒラメ、蝶、鰻、鱈、鱈、香魚、ヒシマ、マナバシ、牡蠣、小蝦、蝦、淡菜等ニシテ其他鯨、鰩、豚、鰐、虎等ノ海獸亦多シ、其内最モ漁獲ノ盛ナルヲ鮭トシ、チヤノ、黒鱈、海獸等之ニ次ク今次ニ此等漁業ノ概況ヲ記述スヘシ

鮭

州内太平洋ニ朝スル諸河ノ流末殊ニ其注口ニハ季節ニ至レハ鮭ノ群集甚シク人跡ノ稀ナル處ニ鮭ヲ以テ河身ヲ充タシ、水動物ハ其背土ヲ陥ミテ向岸ニ渡ルヘシト云フモ、決シテ虚言ニアラサルナリ、斯ク鮭ノ群集スル處ナレハ之ヲ捕ヘテ罐詰ニ製シ輸出スル額ハ實六夥シ、今次ニ千八百九十年中ニ於ケル鮭罐詰ノ景況ヲ略記スヘシ、六〇八トシ、鮭ノ罐詰ハ哥倫比亞州ノ輸出品中第一位ヲ占ムルモ、其額ハ其輸出額ハ一年二百萬弗以上ニ達スルコトアリ、殊ニ千八百九十九年ニハ非常ノ多獲ニシテ其製造額ハ平年ノ二倍若クハ三倍ニ達セシカハ、忽チ其影響ヲ價格ニ及ボシ、凡ソ其額乃至三割ノ下落ヲ來セリ、因テ其翌年ハ各製造者協議シテ價格ヲ回復セシコトヲ計リ、漁期半ニ至リ一旦製造ヲ中止シ、タレントモ猶其製造額ハ四十一萬九千四百六十四箱ノ多キニ達セリ、而シテ千八百九十年ハ前年ノ多産ヨリ減セ

シユトハ僅ニ四千八百三十箱ニ過キスト云ヘハ其前年ニ讓ラサル
多獲ナリシヤ知ル可シ、

漁場ノ數ハ凡ソ八ヶ所ニシテフレンジー河ヲ主トシスキナ河、
スイソソツト及ナス河等之ニ次ク、其餘ハ孰レモ少額ナリ今江河
就テ漁獲シタル其製造額ヲ算出スレハ次ノ如シ、

フレンジー河 二四一、八八九 スキナ河 九〇、九九五

ソバリス、イ 三二、九六一 ナス河 二三、九〇六

ソレツト、イ 七、二八〇 ロウインソト 六〇、八七

フリート、イ 三、七一九 プニツト、イ 二、六二七

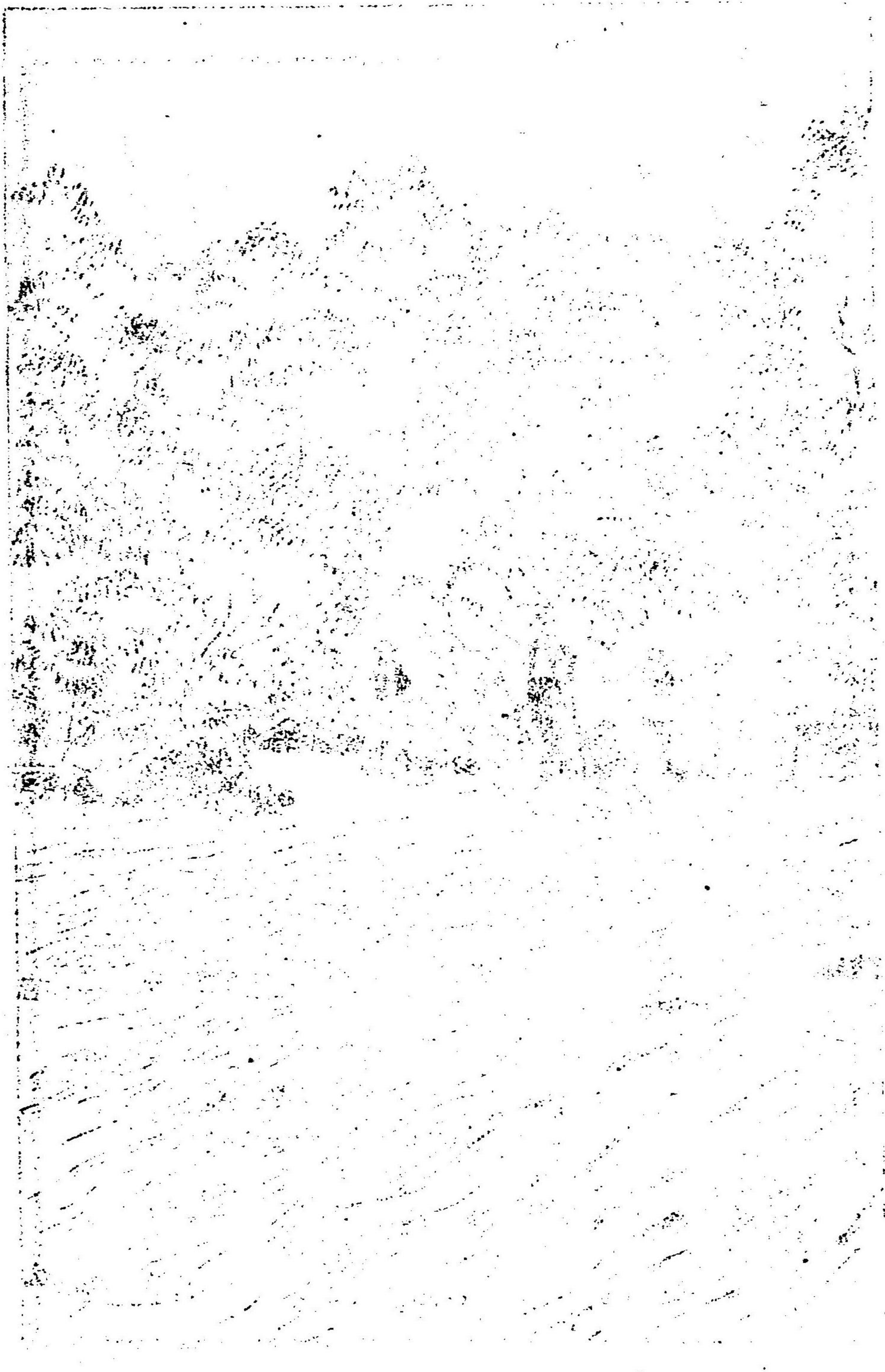
カージナース河 四〇、九四六

合計 四〇九、四六四

右諸ノ輸出先ハ第一英國ニシテ全輸出額ノ三分ノ二ヲ占メ次ハ
加拿陀内地ニシテ又其次ハ漢洲ナリ茲ニ千八百八十九年及全九十

節季漁鮭川イザレフ





年ニ於ケル輸出額及其國名ヲ左ニ示スヘシ

	一八九〇年	一八八九年
英吉利	二六五、〇八二	三三八、四四七
濠洲	二九、一六二	二四、〇三一
加拿陀東部	七八、五六六	四二、二六一
合衆國	五〇	
智利		四〇〇
地元賣捌高	三六、六〇四	九、一五五
合計	四〇九、四六四	四一四、二九四

右英國ニ向テノ輸出額千八百九十年ニ於テ其前年ヨリ減セルハ前年ニ於テ輸出シ越シタルニ因リ、又加拿陀東部並ニ地元賣捌額ノ增加セシハ人口ノ増加ニ因ルヲテム

千八百九十年ノ價格ハ一時一箱四ダース入最低四弗マテニ至リタルコトアリシカ其後回復シテ平均四弗七十五仙前後ノ價格ヲ維持シタリ、今假ニ前記ノ箱數ニ四弗七十五仙ヲ乘ズルトキハ同年ノ產出價格ハ實ニ百九十四万餘弗ニ相當スルナリ

右ニ示ス如ク鮭ハ哥倫比亞州ノ一大物産ナルヲ以テ政府ニ於テモ其漁獵及製造上ニ關シテ之カ保護ヲ怠ラス規則ヲ設ケテ濫漁ヲ制限シ以テ捕獲ト繁殖トノ權衡ヲ失ハシメス、又濫製造ノ弊ヲ防キテ以テ價格ノ低落ヲ豫防スル等ノ事ヲ至ルニテ備ハラサルナリ、左ニ英領哥倫比亞州漁業規則第一節鮭漁ノ規定ヲ抄出シテ讀者ノ參考ニ供セン

一 免狀又ハ借區證ヲクシテ漁網若クハ其他ノ漁具ヲ以テ漁獲スルコトヲ禁ス

但土人ハ自家食用ノ爲メ引網或ハ漁籠ヲ用ヒテ漁獲スルコトヲ

得

一 鮭漁ニ使用スル網ノ目ハ引延シタル所ニテ五吋三分ノ三以上タルベシ

一 引網ハ潮水ニ限ルベシ真水ニ引網ヲ使用スルコトヲ許サズ

引網ハ河流ノ三分ノ一以上ヲ遮斷スルヲ許ルサズ

一 土曜日ノ午後六時ヨリ月曜日ノ午前六時マテハ鮭漁ヲ爲スコトヲ許サズ

右停漁ノ間ハ網又ハ他漁具ハ魚類ノ游行ヲ妨阻スヘキヲ以テ之ヲ使用スヘカラス若シ之ヲ使用シタルトキハ其總ラノ漁網及一切ノ漁具ハ犯則ト看做サルベシ而シテ右犯則者ハ漁具ヲ沒收セラレタル上ニ持主又ハ使用者ハ漁業規則ニ據テ罰金ヲ課シ裁判費用ヲ徴セラルベシ

一 漁業セントスル者ハ漁舟漁具並ニ漁業地ヲ記載シテ免狀ヲ受クヘシ

若シ無免狀ニテ漁業シ又ハ前項記載ノ事項ニ違背シタル者ハ其使用ニ係ル漁舟漁具等ヲ沒收セラレタル上ニ罰金ヲ課シ裁判費用ヲ徴セラレヘシ

一 漁務長官ハ時々英領哥倫比亞州ニ於テ漁業スル漁舟大小網及漁具ノ數ヲ定ムヘシ

一 フレザー河ノ免狀總數ハ五百枚ヲ限リトス

當年ノ漁期ニハ其内三百五十枚ヲ同河ニ於ケル鐘詰所ニ分賦スヘシ右ハ舊鐘詰所ニテハ前三年ノ平均產出箱數ニ準シ新鐘詰所ニテハ相當ト認メラル、資格ニ準シ之ヲ割渡スヘシ

免狀ノ數二十枚マテハ毎二十弗ノ手數料ヲ徴シ二十枚以上ヲ受ク

ル者ハ其以上ノ分ニ對シ毎箇五弗ノ手數料ヲ徴スヘシ

三百五十枚ノ内餘剩アルトキハ鐘詰所ノ分限ニ應シ一枚ニ付五十弗ニテ割渡スヲ得若シ定數ニテ不充分ト認ムル場合ニ於テハ漁業監督官ノ相當ト認ムル數ヲ發行スルヲ得而シテ其手數料ハ五十弗トス

餘レル百五十枚ノ免狀ハ五弗ノ手數料ニテ河岸地ニ於ケル鐘詰所ノ持主及漁業者ニ下付スヘシ但一人ニテ二枚以上ヲ受クルヲ得ス

「チラチヤン」

「チラチヤン」ハ鱒ニ似テ稍々小ナリ、其脂肪ニ富メルコト大ナルヲ以テ能ク之ヲ乾燥スルハ蠟燭ノ如クニ燃ユ、故ニ「蠟燭魚(Candle Fish)」ト稱ス、此魚ハナス河及フレザー河ニ於テ專ラ漁獲スル者ニシテ毎年三四月頃ヨリ群ヲ爲シテ河水ヲ溯リ五六月ニ至レハ次第ニ成長ス此時期

ヨリシテ漁獲ヲ始ムルナリ、其鮮肉ハ頗ル美味ニシテ一タム之ヲ口ニ
 スルハ寒地ニ住スル者ヲシテ一日モ其味ヲ忘ル能ハサラシム近來其
 熏製或ハ醃藏品ヲ海外ニ輸出スルモノアルニ至レリ殊ニ此魚ヲ貴ツ
 所以ハ其富メル油ニシテ鱈油ヨリモ上等ナリ恐ラクハ各魚油中品位
 善良ナルハ之ニ及フモノナカラム、其色白ク殆ント「ラード」(豕油)ニ似テ
 味淡泊ナリ、ナス河近傍ノ土人ハ丸木ト袋網トヲ以テ巧ニ捕獲シ河岸
 ニ堆積シ置キ、漁シ終レハ鐵ノ板ニ敷キ、大桶恰モ我五右衛
 門風呂ニ似タルモノ、中ニ投入シ之ヲ竈ノ上ニ置キ、烈火ヲ以テ凡ソ
 四五時煎詰メ然ル後柳子ヲ以テ造リタル籠ヲ掬ヒ、油ヲ擲テ上ニ
 載セテ其油ヲ滴下スルナリ、斯クシテ得タル油ハ貯テ秋冬ノ食料
 供ス其之ヲ貴重視スルヤ貨幣ト同様にシテ物品ノ交換ヲ媒介スル
 料ニ充ツ目下此漁魚ハ土人ト租捕ナル製造ニ放任スルトモ人口次第

ニ増加スルニ及ビ白哲人種ノ智識ト機械トニ富メル者ニシテ其精製
 ナ企ツルニ至ラハ著シク其産額ヲ増加スルヤ必セリ、現ニ土人ノ魚ヲ
 養ルニ用フル桶ハ石ヲ以テ其底ヲセシカ、近來之ニ換フルニ鐵板ヲ
 以テスルノ方法ヲ白哲人ヨリ授ケラレ大ニ便益ヲ加ヘ産額ヲ増スニ
 至リタリト云フ

「スギル」ハ鱈ニ類シテ其色黒シ故ニ之ヲ黒鱈トモ稱ス、陸地ヲ隔テハ
 ト二三町ノ海中ニ群集スト雖、然レトモ深サ百五十乃至二百尋ノ處
 ニアラサレハ居ラスサレハ哥倫比亞州ノ如キ漁業ノ未發達セサル土
 地ニテハ盛ニ之ヲ捕獲スルモノナシ、此魚ハ脂肪ニ富ミ其搾取シタル
 油ハ尋常ノ鱈油ニ優リ精製品ニテ常ニ三割餘ノ其價ヲ有シ、且テ
 ス、肉亦美味ナルヲ以テ後來販路ノ伸長スルヲ望ミ、哥倫比亞州

テハ脂肪ニ富ミタル魚類多クシテ、ドックフィニシ、如キ現今機械用油トシテ特ニ高評ヲ博セルモノナリ、故ニ魚油ハ後來ノ一大富源ナルヘシト云フ

海獸

漁業未發達セサレハ隨テ海獸獵ノ幼稚ナルハ固ヨリ言テ俟タズト雖モ特ニ臘肭臍獺虎ノ獵ハ二三十年前ヨリ行ハシ、毎年ノ捕獲ニ三十万弗ニ下ラスシテ獵夫ハ大ナル利益ヲ占ムルト云フ
鯨ハ八九月頃ヨリ翌年二三月頃マテ哥倫比亞州ノ近海ヲ游泳スル者アリトモ州内ノ漁夫ニシテ嘗テ之ヲ獵スルモノナク、唯北洋ニ出ツル各國ノ遠洋漁船ノ捕獲スルニ一任スルノミ

第五項 製造

加拿陀ハ新開ノ土地ナルヲ以テ農産國ニシテ製造國ニ非サルナリ、然レトモ人民ノ冀望政廳ノ政略ハ十分ニ製造業ヲ興起シ其發達ヲ計ラントスルニアルモノ、如シ例ハ諸外國特ニ合衆國ヨリ輸入スル製造品ニハ重稅ヲ課シ以テ内地ノ製造品ヲ保護シ、彼ノ壓倒スル所トナラザラシコトヲ務メ又幼稚ナル製造業ニ對シテハ特別補助金ヲ附與シテ以テ其發達ヲ翼成スルカ如キ其目的ノ存スル所ヲ知ルニ足レリ、加拿陀ノ製造業ニ就テ余ハ未最近十年間進歩ノ統計ヲ得サルヲ以テ姑ク千八百七十一年及同八十一年ニ於ケル製造諸會社ノ統計ヲ掲ク、以テ其進歩ノ一斑ヲ窺ハシメントス

	千八百七十一年	千八百八十一年
諸會社資本拂込額	七七,九六四,〇二〇	一六五,三〇二,六二三
製造用原料代價	一二四,九〇七,八四六	一七九,九一八,五九三

製造品價額 二二二、六一七、七七三 三〇九、六七六、〇六八
 職人ノ賃金 四〇、八五一、〇〇九 五八、四二九、〇〇三
 職人ノ數 一八七、九四二人 二五、六九三、五人
 一人ニ付平均賃金 二一七、弗三、六仙 二二三、弗一、一仙
 加拿陀ニテ最モ盛大ナル製造業ハ其豐饒ナル農産物ニ人工ヲ加ヘテ
 以テ精製品トナスニアリ、是ヲ以テ穀粉製造ヲ始メ、木材ノ機械挽
 割及硝皮ハ此地ノ三太製造業トシテ其組織廣大ナリ、又近時砂糖ノ製
 造業大ニ發達シ境内入所ノ製糖場ニテ四千五百有餘ノ職工ヲ使役
 ス、之ニ次テ紡績事業モ亦近時ノ勃興ニ係ル、唯モ現今三十餘ノ工場
 アリテ其職工ニ給スル賃金一ノ年百三十萬弗ヲ下ラス、以テ少シ諸製造
 品ハ已ニ内地ノ需要ヲ充タシ進テ海外ニ輸出ヲ開キ、加拿陀富源ノ重
 要ナルモノナリ、今如何ナル製造業ガ最モ廣大ナルヤヲ知ラシメシカ

爲メ、次ニ千八百八十一年ノ調査ニ係ル百萬弗以上ノ資本ヲ有スル諸
 製造業ノ資本額ト産出額トヲ表示スヘシ

業種	資本額	産出額
農業機械	三、九九五、七八二	四、四〇五、三九七
靴	六、四九一、〇四二	一、七八九、五九〇
室内道具	三、九四三、四一九	五、四七一、七四二
涼車	一、六三〇、五九八	三、九五六、三六二
乾酪	一、〇二一、四三五	五、四六四、四五四
紡績	三、四七六、五〇〇	三、七六〇、〇〇〇
製鐵	九、四七三、八〇八	一、一五四、八〇八
穀粉	一、三八五、七九二	四、一七二、三三七
鋸鐵場	二、一七二、一〇〇	一、〇九七、五七四

精油	一八一二七〇〇	四〇五〇〇〇〇
釘	一二四五五〇〇	一六八九四五〇
製紙	二二三七九五〇	二四四六七〇〇
鐘詰	一二二二五五八	二六八五八六一
馬具	一三二三八四五	三三三三九七三
戸障子	一九九六八五八	四八七三三六二
機械木挽	二五四八七二三三	三八五四一七五二
造船	一五七〇九一六	三五五七二五八
精製糖	二一五〇〇〇〇	九六二七〇〇〇
銀具	一九九三〇六四	三七三八二四六
革	六三八六三二二	一五一四四五三五
烟草	一八二九四二〇	三〇六〇三〇〇

羊毛

五、二七二、三七六

八、一一三、〇五五

蒸氣機關

一、〇〇〇、〇〇〇

二、四〇五、〇〇〇

帽子

一、九三四、八六二

三、三五二、九六二

右ハ十年以前ノ統計ニシテ今日ニ在テハ少クトモ三倍以上ノ資本ヲ増シ、又之ニ準シテ其産出ヲ加ヘタルヤ疑ヒナシ、殊ニ精製糖、紡績、羊毛ノ三業ハ一大進歩ヲ顯ハセリト云フ

往時自由貿易ノ說專ラ行ハン各國亦自由ノ政畧ヲ取ルモノ鮮ナカヲザリシカ是カ爲メニ一國ノ産業ヲ破壊シ國民ノ零落ヲ招キタルコト少ナリトセス、故ニ最近五十餘年間ノ經歷ハ各國政府ヲ以テ弱ノ強ニ對シ小ノ大ニ敵スルニハ保護ノ外ニ策ナキコトヲ會得セシメタリ、實力ノ優劣ヲ以テ國家ノ盛衰存亡ヲ決スヘキ今日ニ在テハ、空理徒論ハ世ニ用フル所ナキナリ、英國學派經濟ノ說先入主ト

ナリタル我邦ノ書生輩ニシテ國勢ノ如何ヲ顧みず濫ニ自由貿易ヲ以テ得タリトナスモノハ之ヲ日本現時ノ形勢ヲ知ラサル者ト謂フベキニシ、我産業ノ幼稚ナル十分ニ之ヲ保護スルニ必要ナク、須タスレテ明ナリ現ニ加拿陀ノ如キ自由貿易ノ根據地英國統治ノ下ニ在テ而モ英民ノ住居セル處ナルニ拘ハラズ、保護貿易ヲ實行セル者甚シキヲ見ハ彼輩ヲシテ其迷夢ヲ覺醒セシムベキナリ、其貿易ノ上ニ保護ト直接ト補助トヲ以テ全土ノ製造業ヲ進歩セシムルノ結果ハ止ニ示ス如ク著シキモノアリテ將ニ第三ノ英國形勢ヲ進歩セシムルニシテ、我ノ英國タテニキリテ期スルニハ深ク鑒前所大波ルベシトラス、若シ今日ノ如クシテ在再經過センニハ遂ニ國勢大ニ新スル時期ナカルヘシ聊感スル所アルヲ以テ爰ニ之ヲ附証ス。

第一項 日加貿易ノ必要

第七章 商業

第一項 日加貿易ノ必要

國家ノ富ヲ致サント欲セハ外國貿易ノ擴張ヲ計ラサル可カラス、外國貿易ヲ以テ富ヲ致サント欲セハ彼我共ニ貿易スルニ利益甚ク大ニハシ、近時本邦有爲ノ士ハ勉メテ其好ヲ貿易地ヲ撰ハズ、欲則各外國ヲ觀察シテ其事情ヲ研究スルモノ一日ヨリ多シ、國家ノタメニ祝賀セザルヲ得ズ、願ミレハ世界ノ文明ハ我々ノ南緯ヲ發達シ、漸次將ニ北方ニ進化セリトス、而シテ文化ノ未洽チカラサル處ニ貿易ノ遺利多キハ世人ノ認ムル所ナリ、乃チ加拿陀ノ如キハ北方ニ位シ、今後將ニ進化シ實ヲ擧クントス、故ニ貿易地トシテハ十分ニ望ミアルアリ、余親シク彼地ニ入りテ商業ノ情態ヲ觀察シ、殊ニ日加貿易ノ利益アリ

ルベキヲ感シタリ左ニ余カ感シタル所ノ理由ヲ列擧セシメ、

第一 加拿陀ハ合衆國ト言語風俗ヲ同フシ、大ニ日本品ヲ愛用スル傾向アルノミナラス、面積合衆國ヨリモ廣クシテ天産物ニ富ミ、國民ノ購買力隨テ大ナルコト、

第二 加拿陀ノ商人ハ桑港商人ト異ナリ、日本商人ト直接貿易ヲ企圖スル志望強キコト、

第三 加拿陀商人ニシテ未タ日本商人ト取組ヲ成セルモ、アラスカ所謂先シスルハ人ヲ制スルノ警ハニテ日本商人ヨリ取組ヲ爲セ、能ク加拿陀商人ヲ籠絡シ得ルニ至ルベキコト、

第四 加拿陀ノ銀行及豪商ト取組ヲ開クニ、實ニ容易ナリ、彼地有名ナル商人ニシテ日本ト通商ヲ開カンコトヲ渴望シ、彼地日本領事館ニ來ルテ其手續キヲ問合スルモノ現ニ頗ル多キノミナラス、英領

倫比亞州銀行頭取ノ如キハ日加貿易ニ關シテ如何様ニモ便利ヲ計リ助力セント明言シ居ルハ、

第五 合衆國ニ比較スルニ加拿陀ハ輸入税金廉且、貨物ノ税關ヲ通過スルニ容易ナルコト、

第六 千八百九十二年ヨリ晚香波ヲ經テアラスカニ達スル鐵道線功スルニ至ラハ日加ノ交通最モ便利トナリ、大ニ貿易上ノ利益ヲ與フベキコト、

第七 加拿陀ハ勞働賃金貴ク日本ハ低ク、土地ノ如クモ彼地ハ廣大ノ新國ニシテ我ハ狹隘ノ古國ナレバ、互ニ貿易シテ利益アルハ自然ノ理ナルコト、

第八 日本加拿陀間ノ航路ハ日本桑港間ノ航路ヨリ短キ、且、本百哩且ツ寒帯ヲ通過スル故ニ貨物ノ腐敗ヲ招クニ至ラズ、

第九 白哲人種ノ殖民國中加拿陀ハ日本國ニ最モ接近セル國ナルカ故ニ將來通商上ノ關係ハ之ヲ自然ニ放任スルモ益々繁榮ニ赴クコト現ニ統計表ニ據ンハ千八百九十年ハ千八百九十九年ヨリ十萬弗ノ貿易額ヲ増加シタルコト

第十 加拿陀汽船會社ハ大ニ政府ノ補助ヲ受テ勉勵シテ貨物ヲ運搬ヲナシ、桑港汽船會社ト競争ノ位置ニ立ツモノナレハ我商人ノ爲メニハ非常ノ好都合アリ、況マ今度新造ノ三大汽船ハ各一百萬弗以上ノ費額ヲ要シテ構造シタルハ、速力ト云ヒ堅牢ト云ヒ、大平洋中他ニ比スヘキモノナキ勢ナレハ、今後ノ日加貿易ニ至大ノ便益ヲ與フルモノナリ、其他加拿陀大平洋鐵道會社ハ荷物運搬上ノ取扱極メテ丁寧ニシテ、且ツ冬期ト雖モ有名ナルロッキン山ヲ往來スルニ曾テ積雪或ハ危險等ノ爲メト列車ノ停止セラルルハ、トテテテテ、其

運搬甚ク迅速ナルコト

第十一 加拿陀ハ開龍世界大博覽會ヲ開設スヘキニ、前市先接近シテ、故ニ將來我邦物産ノ新販路ヲ開クニ至ルニ、開龍博覽會ノ所以ニ急務ノ所ナリ、備ノ條件ハ大平洋加貿易ヲ旺盛トシ、以テハ、以テモノナリ、サレハ人々未先ニモサルニ、彼地方ニ確實ニ商業ヲ開クハ、繁實期ヲ待ツヘク、以テ我國益々進歩シ、一大功業ヲ舉グヲ得可シ、今日外國貿易上利益ノ我ニ少ナキモノハ、職トシテ直接貿易ノ道開クナルニ由ラサルハ、ナリ、直接貿易ヲ開カテ、我ニ巨大ノ利益ヲ收メ、ト欲スルニ、加拿陀ノ如キ將來望ミアルノ地ヨリ始ムルニ若クハ、ナリ、

試ミ、思ヘ、明治廿三年、本邦貿易額ハ無慮一億三千萬圓ノ巨額ニ上リ、然レ、此額ノ大部分ハ果シテ日本人ノ手ニ由リテ營業シタルニ

之ヲ思ヘハ吾人轉々慷慨ノ念ヲ能ハズ我國入シ海外ニ出テ、商業ヲ營ムモフナシトセズ、然レ其入能ク幾多ノ資本ヲ有ルルカ、或能ク海外ノ事情ニ通曉シテ商賣ニ經驗アルカ、親シク海外ニ出テ、其實際ヲ見シハ殆シト慚悔ニ堪ヘサルモノアリ、蓋シ此等海外ニ出テ、商業ヲ營ム日本人ハ一二ノモノヲ除クノ外、悉ク日本商品ヲ代表スル招牌タルニ過キス、日本商品ト雖、其實際ノ商賣權ハ日本人ニ非ズ、歐米人若クハ支那人ニ存スルナリ、此日本商品以招牌タル其趣キ、日本商人スラ猶寥々トシテ其乏シキコト晨星モ當テサシキナリ、現、暹羅駐在帝國領事ノ報告ニ據シハ、現今佛蘭西全國中到處ニ日本人ノ本商品ヲ販賣スルモノ、一戸タカシテ見ス、然ルニ佛國ニ輸出スル商品本年々五千万圓ニ下ラズ、此巨額ノ商品ハ主トシテ佛國商人等ニ販賣スルヲ以テシテ、而シテ佛國商人ハ本邦ニ代理店ヲ置キ貨物ヲ廉

價ニ購入シテ本國ノ機會ニ投ズルガ故ニ其年々利ズル處蓋シ數萬ヲ以テ數フベシ、本邦商人ハ其間ニ一言ヲ容ル、テ得ズ、唯佛國商人ヲ指示セル注文品ヲ媒介スルニ止マシ、自ラ工夫シテ我商品ノ販路ヲ擴張スルモノハ絶エテアルナシト稱スルモ、取テ失言ニアラザルナリ、若シ本邦人ニシテ奮テ直接貿易ヲ營ミ、外入壟斷ノ巨利ヲ我ニ收メ得ルノミナラス、必ズ大ニ我商品ノ需要ヲ喚起シテ貿易ヲ増進セリ、ナルノ偉功ヲ立ツルヲ得ベシ、一、明治三十四年度本邦貿易年報ヲ見ルニ輸出價格ハ七千九百五十二萬七千二百七十二圓餘ニシテ、内日本商人ノ手ニテ輸出シタルハ僅ニ八百七十七萬〇七百六十四圓餘ニ過キス、其餘ノ七千〇七十五萬六千五百〇八圓餘ハ外人ノ手ニ由テ輸出シタル者ニシテ、即チ凡ソ輸出貿易ノ十分ノ九ハ外人ノ掌握スル所ナリ、所謂ハザルヲ得ズ、又同年

ノ輸入ハ六千二百九十二萬七千二百六十八圓餘ニシテ内日本商人ノ手
 ニテ輸入セシハ僅ニ一千四百二十七萬六千三百八十圓餘ニ止リ其
 餘ノ四千八百六十五萬〇八百八十八圓余ハ外人ノ手ニ由テ輸入サレ
 タルモノニシテ即チ凡ソ輸入貿易ノ五分ノ四ハ外人ノ掌握スル所ナ
 リト謂ハザルヲ得ス今外商ノ輸出入上ニ於テ得ル利益ヲ推算スルニ
 彼等カ己自ノ營業ノ輸出入總額一億一千萬圓ニ五分ノ手數料ヲ得ルモ
 ソトスルモ五百五十萬圓又八千萬圓ノ輸出品外ノ輸入品後地ニ於テ賣
 捌ク旧錢ニ割トスルモ其額ニ千六百萬圓ニ達ス果シテ然ラバ存
 計三千五百五十萬圓ノ利得ヲ看スルニ外商ニ占有セラレタルナリ貿易
 全權ヲ我ニ收メテコトハ縱令能ク其半ヲ收メルニ雖モ直接貿易
 圓ノ利得ヲ増スルニ貿易ヲ以テ國富ヲ計ラント欲スルニ直接貿易
 經營點トシテ最大急務ニシテ之ヲ以テ外商ノ跋扈ヲ防クニ至ラザル

斷シテ其望ヲ達スベカラサルナリ
 直接貿易ヲ開クニ必要タル以上ニ陳スル所ヲ以テ知ル所得ス然ル
 ニ外國ニ出テ盛ニ直接ノ商業ヲ營マントスルニ十分ナル資本
 未有ク身體強壯ニシテ精神活潑能ク外國語ヲ通シ商賣ノ經驗ヲ有
 タラザルベカラズ斯ノ如ク全備タルモノハ之ヲ本邦ニ現今ニ求ム
 ルヲ得スシテ今日ノ實況ニテ資本家ノ才識ニ富マズ才識ニ富マズ
 ノハ資本ニ乏シキヲ常トス故ニ直接貿易ヲ起スニ至大ニ困難ナ
 リ然レドモ唯ニ強ク人物ヲシテ且其會社ノ方法組織モ太ニ發達シ
 タレハ大會社ヲ結ビテ資本ヲ集合シテ才識アリ人土ヲ撰ビテ之ニ當
 リ且其目的ヲ達スルカニサレテ其會社ヲ起テ資本ニ富ミ
 且其主動者其人ヲ得ルカニハ一通ノ郵便一語ノ電報ヲ以テ幾千萬圓
 ノ貨物ヲ運轉セシムル能ハルモ爲メ得ベシ而シテ確實ナル會社ハ貿易

ノ擴張ヲ計ル唯一ノ根據タルヲ想フニ商法發布ノ期モ近キニ在リ
 ハ結社取引ノ法モ漸々流行スルニ至ラン
 從來海外ノ商人ニシテ我商人ト直接取引ヲ行ハント欲スルモノ多シ
 然レモ本邦ニハ信用ノ確實ナル會社若クハ大商店ニ乏シキカ爲メ遂
 ニ其志望ヲ達スルヲ得ズシテ在留外國商人ノ手ヲ假ルヲ常トスルヲ
 リ故ニ我商人ニ在テ確實ナル會社ヲ結立シ海外ニ支店ヲ置キ又ハ外
 情ニ通スル者ヲ派遣シテ外商ト直接取引ノ便ヲ開クハ大ニ我貿易
 ヲ擴張シテ巨利ヲ收メ得ヘキナリ
 外國貿易ヲ振興セシムル爲メニ大會社ヲ設立スルニ必要ニ前ニ述
 タル如ク如シ之ト共ニ必要ナル船舶ノ増加ニアリ自國船ヲ自國
 產物ヲ運搬スルノ利益ハ今更ニ喋々ヲ要セス諸外國ノ實際ヲ考ル
 ニ貿易ト船舶トハ相比例スヘキ度ヲ有テリ本邦ニ於テモ近來船舶ノ

増加ヲ計ルニ汲々タリト雖モ未タ見ルヘキノ成績アラス汽船帆船共
 ニ欠クベカラズト雖モ今日ノ國力ニ通シ而モ我商業ノ擴張ニ必要ナ
 ルハ帆船ニ若クハナシ帆船ハ之ヲ構造スルニ費額廉シシテ且我產
 物ノ如キ容積ノ大ナルモノヲ運搬スルニハ費用少ナシ之ヲ汽船ニ比
 スルハ運搬遅々タリト雖モ運賃廉ナルニ由リ至急ヲ要セサル荷物
 之ニ依ルニ如カサルナリ想フニ太平洋ノ航海船舶ハ猶未十分ナ
 南洋諸島ヨリ南北亞米利加ニ達スル間ニ於ケル貨物ノ運搬ヲ爲スニ
 帆船ノ必要今日ニ迫リ故ニ我日本ハ速ニ帆船ヲ構造シテ此間ノ貨
 物運搬ニ從事スルノ得策ナルコトハ論ヲ待タザルナリ
 今ヤ日加間ノ貿易ヲ盛シニセント欲スルニ於テ美亦然リ現今ニ於テ
 ハ加拿陀ノ三大汽船ハ運賃廉ナリト云フヲ得ズ從テ容積ノ大ナル物
 品ヲ貿易行ハシサルナリ故ニ帆船ヲ造リテ此間ニ航路ヲ開キ

物ノ運搬ニ從事スレハ日本ノ茶、米、蘭、麻、境、綬、通等、加、拿、陀、ノ、材、木、農、產、物、
皮、革、肥、料、品、等、ハ、大、ニ、相、互、ノ、貿、易、ヲ、増、加、ス、ヘ、キ、ナ、リ、日、加、貿、易、ノ、主、人、ト、
シ、テ、欲、ス、ル、ニ、ハ、帆、船、ヲ、構、造、ス、ル、ヨ、リ、急、ナ、ル、ハ、莫、シ、ク、

第三項 輸出入ノ手續

我邦ノ產物ヲ輸出スルニハ居留地外國商人ニ販賣スルニ直輸出スル
上ノ二途アリ海外ノ事情甚不案内非レモ居留地外國商人取引ス
ルハ已テ得ルニハ將來我邦商業ヲ發達シ計リ利益ヲ永遠ニ占メント
欲スルモハ直輸出ヲ營ムルニ如カザルニ如ク我邦ノ商館取引
商館取引ニ居留地外國商人ニ我產物ヲ販賣スルニ必スヤ取引商開
港場ニ於テ本邦ノ仲買商ヲ請フニ手ヲ經ザルニテ我邦ノ商館取引
商館商人ハ商館ト直ニ取引ヲ開カズトスルハ易キニ似テ其實甚難

シ、サレハ勢取引商ノ手ヲ經サル能ハス然ルテ若シ強テ商館ト直接談
判ヲ爲サントスレハ取引止ノ事情慣例ニ情キカ爲メ不測ノ損失ヲ被
ルルニシテ保無ス情キ主商館取引商ニ貨物ノ販賣ヲ委託スル
ハ大ニハ豫メ代金受取方割引商品ノ嗜好等ヲ問合セタル上ニテ約
定ヲ結ビ荷物送狀ニ番號數量物名ヲ記シ荷物ト共ニ之ヲ運送スレハ
取引商ハ之ヲ受取りテ後荷着案内書ヲ荷主ニ送付スルニ其節送荷ニ
對シ苦情ナクシテ荷主ハ先安心シテ可シルモ我邦ノ商館取引商
取引商ハ見本ヲ勘ヘテ居留地商館ニ持廻リ又商館取引商ノ注文ヲ待テ
見本ヲ示シタル上相談纏マレハ之ヲ手合ト稱フ手合出來タル上ハ荷
物ヲ商館ニ運ヒ見本ト現品ヲ異同ヲ檢定シ若シ現品ニシテ見本ト異
ナルハハ商館ニ於テハ代金ノ割引ヲ請求スルカ或ハ取引ノ破談ヲ申
出ルルコトアリ又商館ニ由テハ實際見本ト現品トノ相違ナキモ倉庫ニ

需ムベシ(信用ヲ保證狀トシテ英語ニテ Letter of Credit ト云ヒ注文ヨリ荷主)而シテ注文ヲ得タル上ハ先方ノ指圖ニ從ヒ見本ニ優ルモ劣ラザル現品ヲ取揃ヘ期日ニ後レサル様ニ回送シ殊ニ初回ハ先方ノ信用ヲ得ル可キ專一ニ務ム可シ信用ハ金ニシテ不信用ハ商賣ノ途ヲ杜ガクモノト知ルベシ

荷物船積ヲナスニハ居留地海漕會社ニ往キ輸出スベキ貨物ノ數量番號届先荷主ノ姓名等ヲ告クレハ會社ヨリ船積命令書及船積證幾枚ヲモ需メニ應ジテ渡ス(加拿陀合衆國ニ送荷セシト欲スルモノハ横濱神戸ニ於テハマンザリ海漕會社ニ往キ其手續ヲ問フベシ)

船積命令書(Shipping order)トハ海漕會社ヨリ荷物積込船ニ宛テ其荷物ヲ積込ムベシトノ命令書ニシテ荷主ハ其命令書ニ品名番號數量届先送人ノ姓名ヲ記シ同時ニ荷物ノ税關ノ手續ヲ經テ積込船ニ送リ船

取締人ニ渡セハ取締人ハ命令書ト較ヘ品名數量番號ヲ取調ヘ相違ナクレハ他ノ命令書ニ其品名數量番號ノ要件ヲ捺印シ折半シ其一片ハ船ニ止メ他ノ一片ハ荷主ニ渡ス之ヲ船員受取書ト云フ荷主ハ船積證書三枚ニ品名數量番號届先送人ノ姓名ヲ記入シ船員受取書ト共ニ直ニ之ヲ海漕會社ニ差出スベシ會社ニ於テ事實相違ナシト認ムル時ハ其内二通ノ證書ニ運賃ヲ記入シ船長ノ姓名調印ヲ得テ之ヲ荷主ニ渡ス他ノ證書ハ船員受取書ト共ニ會社ニ取置ク者ナリ此荷物ヲ荷爲換ニスルニハ(荷爲換トハ遠ク隔リタル商人賣品ヲ抵當トシテ銀行ニ入レ未貨物ノ荷受人ニ到着セザル前幾分ノ代金ヲ前借スル方法ナリ)注文主ヨリ回送シタル信用保證書ト船積證書荷物保險狀送荷仕切書等ヲ取揃ヘテ取組銀行ニ差出セハ此書類ニ據テ荷爲換ヲ承諾シ送荷代價ノ六分乃至七分ヲ其場ニ於テ貸主ニ渡スヲ例トス日加貿易上信用

スベキ荷爲換取組銀行ハ日本ニ於テハ香港上海銀行加拿陀ニ於テハ英領銀行トス

送荷仕切書トハ(Invoice)荷主ガ荷受人ニ差出ス勘定送狀ニシテ(買主ヨリ云ヘハ仕入書ナリ)任切書ニハ荷物ノ品位數量番號代價ハ勿論荷造船積諸掛リ保険料手數料其他搭載船名届先荷主ノ姓名等ヲ詳細ニ記載シ荷物ト共ニ荷受人ニ郵送スベシ通常之ヲ三通ニ認メ一通ハ荷主ノ控トシテ自家ニ存シ一通ハ先方ニ送り他ノ一道ハ次回ノ船便ニ托シテ送附スベシ

送荷仕切書式ハ大要一定シタルモノナレド荷物ト届先ノ異ナルトニ由リ幾分カ異ナルモノナリ左ニ日加貿易ニ用ユル簡易ナル書式ヲ示サシ

書式譯文

イソブレス、テフマヤパン 積込晚香波行

雜貨四函、ペン、ヘイ、マト、氏ノ注文ニ由リ山下商店ノ

船積荷物

送荷仕切書

◇印 四函

第一函 備前燒茶器十二人前五十組

此原價七十五圓 一組ニ付壹圓五拾錢

第二函 婦人用絹ハンクチー二十打

此原價六十圓 一打ニ付三圓

全 紀州漆器盆百個

此原價二十五圓 一組ニ付二十五錢

第三函 竹ノ杖 百本

此原價十圓 一本ニ付十錢

第四函 白花廷 三捲(一捲四十ヤード)

此原價十五圓 一捲ニ付五圓

合計百八十五圓也

諸掛リ

金三圓也 荷造費及箱代

金壹圓也 車及埠頭料

金壹圓三十五錢 金額二百圓ニ對スル海上保

險料 但百分 $\frac{3}{4}$ ヨリ一割引

金十三圓〇六錢 口錢

原價及諸掛合計金額百九十二圓三十五錢ノ七分五厘

金十六圓 運賃二噸分一噸八圓ノ割

總計二百十九圓四十一錢也

右之通相違無御座候也

明治二十五年五月二十日 横濱 山下商會

ヲツベンヘイマー商會御中

左ニ荷物仕切書ノ英文式ヲ掲ケ參考ニ供セン

Invoice of 4 packages Curios per Empress of Japan for Vancouver B. C. Shipped
by order and for account of Geo. D. Openheimer Esq. Vancouver B. C.
By K. YAMASHITA & Co., Yokohama, Japan.

MARK	Pkgs.	PRICE	Yen.	Cent.	Yen.	Cent.
A VANCOUVER	1	50 Sets Bishu tea Set for 12 Persons.	75	00	00	00
	2	20 Dz. Dadies Embroidered Handkerchiefs.	60	00	00	00
	3	100 Pis Kishu Lard. Troys	25	00	00	00
	4	100 Pis Bamboo Canes.	10	00	00	00
		4—3 Rolls (40 yds.) White Matting	15	00	00	00
— CHARGES —						
		Packing Cases, Packing Labor & Material.	3	00	00	35
		Carriage & Wharfage.	1	00	00	35
		Marine Insurance Yen 200.00 @ 1/4% Less 10%.			5	35
		Commission 100.35 Yen @ 7 1/4%	100	35	100	35
		Freight prepaid on 2 tons @ Yen 8.00 = 16 Yen.	16	00	16	00
CERTIFIED CORRECT.						
Yokohama 20th May 1891.						
K. YAMASHITA & Co.						
					219	41

仕切書ニ記載ノ荷物代金ハ通例銀貨ヲ以テ現ハシ諸入費保險料運賃
等ヲ加ヘタルモノナリ荷受人トノ約束ニ由リ保險料運賃ハ荷受人ニ
拂ハシムルコトアリ度量衡ハ加拿陀ノモノヲ用ヒ其國ノ稅則ニ因テ
計算シ易キ様注意スルヲ其トス即チ噸封度ブツシエル呎吋等ヲ用フ
ベシ

諸掛リハ荷物ノ種類ト届先ノ國トニ因リ多少異ナリ假令ハ領事證明
書ヲ要スル國ト否ラサル國アリ加拿陀ノ如キハ荷受人ノ信不信ニ因
リ領事ノ證明ヲ要スルモノト否ラサルモノアリ又郵便電信料拜見料
杯ハ殊更記載セサルコトスリ船積證書(Bill of Lading)トハ船長或ハ會
社ヨリ荷主ニ交附スヘキ貨物船積書ニシテ日本ニ於テハ船長ノ捺印
シタル上會社ノ手ヲ經テ荷主ニ渡ス例ナントモ加拿陀ヨリ日本ニ貨
物ヲ運送スルニハ船長ノ捺印ヲ用ヒス會社ヨリ直ニ荷主ニ受取書ヲ

渡スヲ常トス
 船積證書ハ荷主ノ書スベキモノナレトモ船長或ハ會社身ヲ船員受取
 書ニ據テ船積證書ヲ造リ運賃ヲ記入シ船長或ハ會社記名捺印シテ荷
 主ニ渡スニトアリ其孰レヲ以テスルヲ問ハス品名數量届先荷受人等
 ノ記載ニ相違ナキ様注意スヘシ而シテ一通ハ船長ニ渡シ一通ハ荷主
 之ヲ所持シ餘ノ二通ハ二便ニ之ヲ荷受人ニ送付スヘキモノナリ若シ
 荷爲換ヲ取組ム時ハ五通ヲ要ス即チ右ノ外一通ハ銀行ニ預クベキモ
 ノナリ又船積證書ニ荷受人ノ姓名ヲ裏書セサル時ハ手形同様ニ使用
 シ之ヲ賣買讓與スルコトヲ得ベシ此場合ニハ命令者ニ此荷物ヲ渡スヘ
 シト裏書スルナリ
 海上保險 (Marine insurance) トハ航海中船舶貨物其他人畜等危險ニ由テ
 起ル所ノ損害ヲ僅微ノ保險料ヲ以テ保險スルノ謂ナリ我邦ニテハ古

來外國ト貿易セサルニハアラサレトモ其隆盛ヲ來シタルハ實ニ近年
 ノ事ナリ此際ニ當リ輸出入貨物ノ安全ヲ求メ一敗地ニ塗ルノ不幸ヲ
 取ラサルヤウ安全ニ安全ヲ計ルハ最モ緊要ノ件タリ然ルニ我邦ノ商
 人ニシテ海上保險會社ニ加入セルモノ甚タ稀ナルハ商業社會ノ爲メ
 大ニ歎スヘキコトナレトモ思フニ是レ其手續方法ヲ知ラサルノ致ス
 所ナルヘシ因テ左ニ保險上ノ概畧ヲ示サン
 (1) 加拿陀ニ輸出セントスル荷物ニ對シ保險ヲ附セント欲スレハ既ニ
 記載シタル如ク保險スヘキ貨物ノ金額ヲ記シ保險ノ範圍ヲ定メ會社
 ニ往テ契約スヘシ手續不案内ナレハ信任スヘキ周旋人ニ委託スルヲ
 莫トス保險ヲ附スヘキ金額ハ送荷仕切書ニ記載シタル貨物ノ原價ニ
 諸手数料ヲ加ヘタル上尙ホ二割許ノ入費ヲ加ヘタル金額ヲ申込ムベ
 シ然レトモ餘リ實價ヨリ相離レタル價值ヲ附スルモ萬一貨物ノ破損

シタル際ニハ評價人立會價格ヲ定メ評價人ノ鑒定ト大ニ齟齬スルト
キハ會社ハ實際損失ノ外辨償スルノ義務ナキヲ以テ格外ナル金額ヲ
附スルモ益ナシ

(2) 保險會社ト被保險人トノ契約外ニ生シタル事件ニ就テハ多年ノ習
慣ヲ以テ之ヲ判定スルト雖モ往々法廷ヲ煩スコトナシトモ故ニ環
細ノ事ニテモ豫メ之ヲ保險狀ニ記載シ置クヲ良トス又保險狀ニ記入
シタル條件ニテモ實際ト相違スルトキハ會社ハ其義務ヲ負フノ責任
ナシ例ヘハ契約狀ニ五月十日出帆晚香波直行印度女皇號ニ搭載ノ荷
物ト記載シ置キ其船ニ積込マス又出帆日ヲ延引シ或ハ他ノ汽船ニ若
クハ帆前船ニ搭載スルカ如キコトアレハ其契約ハ勿論無効ニ屬スル
モノト知ルベシ又横濱ヨリ晚香波ニ直行スヘキモノナルニ途中海漕
會社ノ用向ニテ函館或ハホノル、港等ニ立寄リタル時モ同シク無効

タルヘシサレドモ船長カ隨意ニ進行ヲ變更シタルモノハ其罪船長ニ
在リト雖モ其責任ハ保險會社ノ負擔スヘキモノナリ

(3) 保險料 保險料ハ金額ノ多寡物品ノ種類船舶ノ堅脆時候ノ寒暖航
海ノ難易等ニ因リ一様ナラスト雖モ普通一般ニ郵便船ニ對スル規則
即チ横濱及晚香波間ノ保險料ハ左ノ如シ

雜貨米等	特擔 保險金額百分ノ $\frac{1}{4}$ 即チ百圓ニ付壹圓二十五錢
	共擔 保險金額百分ノ $\frac{3}{4}$ 即チ百圓ニ付 七十五錢
茶、生絲等	特擔 保險金額百分ノ $\frac{5}{8}$ 即チ百圓ニ付 六十二錢五厘
	共擔 保險金額百分ノ $\frac{1}{2}$ 即チ百圓ニ付 五十錢

右ハ規則面ノ保險料ナントモ通常一割ノ割引ヲナスベシ即チ千圓ノ
保險料ヲ一分トスレハ十圓ナリ其一割ナル一圓ヲ差引クハ九圓ノ保
險料ニ相當スル理ナリ

前表中特擔共擔トアルハ航海中船舶及貨物ノ危険ニ遭遇シ損失シタル際賠償スヘキ約束ノ方法ニシテ特擔トハ航海中自然遁ルベカラザル災難ニ遭逢シ貨物及船舶ノ破損シタルトキ保險附ナレハ保險會社ニテ悉皆之ヲ賠償スヘキ約束ナリ故ニ保險料モ隨テ其割合高シ共擔トハ天災ニ非ラスシテ寧ロ人爲上ニ由リ避クベカラサル場合ニ起リタル損失ニシテ船舶ノ破損ナリ貨物ノ損失ナリ保險會社ト其責任ヲ分擔シ其損害ヲ共償スヘキ約束ナリ故ニ保險料ノ割合隨テ低シ(4)保險狀ハ印刷ニ付シタルモノニシテ會社ニ備置キ何時ニテモ保險申込人ニ配付ス被保險人ハ之ニ貨物ノ品名數量商標番號保險金額共擔特擔別搭載ノ船名出帆月日船積地届先貨主貨受人立寄ノ港積換ノ般船等ヲ記入シ捺印シテ會社ニ申込メハ會社ハ之ヲ檢シテ引受クヘキモノナレハ保險シ否ラサルモノハ附絶シ或ハ更正セシムルコト

アリ而シテ會社之ヲ承諾スレハ保險料ト引換ニ保險狀ヲ渡シテ契約ノ證トナス
 稅關 (Custom house) 貨物ノ輸出入ハ必ス稅關ノ手續ヲ經サルベカラズ稅關ハ實ニ貨物出入ノ關所ニシテ此關所ヲ通過セシムルニハ一定ノ手續ヲ要スル者ナリ乃チ輸出品ナレハ願書ニ貨物品名金額數量番號ヲ記入シテ檢査課ニ差出スヘシ然ルトキ諸課ヲ經テ檢査シ其手續ヲ終リテ從價品ナレハ貨物ノ價格ニ對シテ又定價品ナレハ其數量ニ從テ各稅ヲ課シ若又無稅品ナレハ輸出免狀ニ無稅ト記入シテ貨主ニ返附ス故ニ有稅ナレハ金庫出張所ニ往キ税金ヲ納メ上屋掛ニ示セハ上屋掛ハ輸出免狀ニ記載スル所ト貨物トヲ對照シテ捺印ヲ捺シ船積ヲ許ス是ニ於テカ貨物ヲ小舟ニ積ミ本船ニ送リテ輸出免狀ヲ船員ニ示セハ船員ハ現品ト對照シ相違ナキニ於テハ船積ヲ諾ス是レ手續ノ

大畧ナリ輸出ニ就キ特ニ注意スベキハ

(1) 金銀地金ノ如キ輸出禁制品ヲ輸出スルトキハ其貨物ハ盡ク没收セラル、モノト知ルヘシ

(2) 酒醬油煙草等ノ如キモノヲ輸出スルトキハ内國稅ノ割引免除ヲ請フコトヲ得

(3) 旅客ノ手荷物船員ノ食料等商品ニ非ラサルモノハ總テ無稅タルヘシ

輸入 外國品ヲ輸入スル商人ヲ取引商ト云フ取引ニ直取引ト商館取引トノ二様アリ直取引ヲナス商人ハ甚タ稀ニシテ多クハ居留地外國商人ヨリ貨物買入ヲナスモノナリ居留地商館ト取引スルニハ從來如何ナル方法ニ由リシモノナルヤト云フニ貨物ニ因テ異ナレトモ先ツ商館手代ノ携帯スル見本ニ就テ手合ヲナスヲ常トス取引商ハ地方商

人ノ依頼ニ由リ見本ト適意スルモノアレハ注文シ唯手数料ニ由テ周旋スルモノナレトモ時トシテハ需要供給ヲ考ヘ物價ノ上下ヲ觀察シ所謂見込買ヲナスコトアリ其孰レニ論ナク取引約定ニハ二様アリ一ハ現ニ商館ノ倉庫ニ在ル貨物ニ就テ約定スルト又一ハ未到着セサル貨物ヲ豫想シテ買込ムトアリ而シテ買入約定ヲ爲スニハ取引商ヨリ買附約定書ナルモノヲ商館ニ差入ルヲ例トス其證書ニハ買入物品數量種類代價引取月日姓名宿所ヲ記入調印スルモノナリ取引期限ハ物品ト商館トニ由リ一定セス通常ハ三十日乃至六十日間ナリ未到着セサル貨物ハ入荷後何日間ニ引取ルベシトノ約定ヲ結フヲ常トス斯テ期限ニ至レハ商館ニ往キ正金ト引換ニ貨物ヲ受取ルコトナルカ其時約定證書ト貨物ト對照シテ相違アレハ十分苦情ヲ申立ツヘシサレトモ既ニ代金拂渡ノ後ナレハ往々日本人ノ敗ニ歸スルコト多シ地方商

人ノ注文ニ應シテ買入タル品ハ商館ノ倉庫内ニ於テ各届先ニ送付スル様荷物ノ上包ニ記名シ直ニ汽車或ハ汽船ニ積込ムヘシ
直輸入即チ居留地商館ノ手ヲ經スシテ外國ヨリ直接貨物ヲ引取ント欲セハ先ツ外國ニ支店ヲ設クルカ或ハ代理店ヲ置キ又或ハ彼地製造會社ト連絡ヲ付セサルベカラス而シテ取引約定ヲ取結フニハ第一代金拂渡ハ一覽後何日荷爲換ハ何銀行ト取結ベキヤ電信暗號ハ何々運賃保險料ハ誰ノ負擔ニ附スヘキヤ等ヲ取極ハメ電信或ハ郵便ニテ直ニ貨物ノ船積ヲナシ得ル様仕組ヲ立ツルコト緊要ナリトス
輸出ノ部ニ於テ記載シタル如ク代金ハ香港、上海銀行ノ手ヲ經テ加拿陀英領銀行ニ宛テ拂フベシ注文書ハ英文ヲ以テ記シ先方ヨリ送り越シタル見本ニ依テ物品ノ種類數量代價等ヲ記入シ一通ハ先方ニ送り一通ヲ控トシテ之ヲ所持スヘシ電信ヲ以テ注文スル場合ニハ豫メ品

名數量其他要件ヲ通知シ置キ臨時必要ト認メタル時發信スヘキナリ注文書ニ對スル代價ハ時ニ先方ヨリノ電信ニ由リ取極ハメタル時ノ相場ニ由ルモノナントモ時トシテハ見本ヲ添ヘ送付シ來リタル代價表ニ由ルコトモアルナリ
海外代理店或ハ製造會社ヨリ貨物輸入スルニハ其諸入費ハ先方ニ於テ受持ツモノナントモ運賃ハ引取人ニ於テ拂フテ慣例トス然レトモ約束ニ由リテハ諸入費手数料運賃保險等一切先方ニ於テ立換置クコトアルベシ
日加貿易取引上ノ利益ハ双方互ニ折半スルコトアリ又豫メ口錢分配ノ割合ヲ定ムルコトアリ又是等ノ事ハ互ニ自由ニ任スルコトモアリ
貨物引取ノ手續ハ船舶到着シテ貨物ヲ税關上屋ニ陸揚シタル後荷受人ハ荷揚願書及仕入書ヲ税關検査課ニ差出スベシサレハ制規ノ順序

ヲ經テ課税スヘキモノハ從價從量ノ別ヲ調査シ其元價ヲ本邦ノ通貨ニ計算シテ税額ヲ算定シ以テ貨主ニ渡ス貨主ハ金庫派出員ニ貨金ヲ納メ領收書ヲ得テ之ヲ上屋掛ニ示セハ上屋掛ハ輸入免狀ニ記入ノ物品番號等ヲ對照シ疑點ナキトキハ捺印ノ上貨主ニ交附シ何時ニテモ貨物引取ヲ許スモノナリ若又無税品ナレハ輸入免狀ニ無税品ト記入セラルベシ

右手續ニ就テ注意スヘキコトハ下ニ記スル諸件ナリトス(1)貨物ト願書及仕入書ノ事實相違アルベカラズ又不當ノ價格ヲ貨物ニ附スベカラズ(2)禁制品ヲ輸入スル等不正ノ行爲アルベカラズ(3)貨物ノ破損ハ減税ヲ請フコトヲ得又帝室ノ御用品外交官ニ屬スル貨物ハ無税ノ取扱ヲ爲スモノナリ(4)仕入書ナキ貨物ハ假ニ税金上納スヘキ旨ノ書面ヲ差出スヘシ(5)一度輸出シタル酒醬油等ヲ積戻ストキハ屢ニ免税シ

タル内國税ヲ再ヒ上納スヘシ(6)總テ船客ノ携帶品ハ監査シタル後通過ヲ許ス若シ其内ニ有税ト認ムル品アレハ税ヲ課スレドモ日用使用スル品ニシテ商品ニアラサルモノハ大抵無税ト認メラルヘシ

第三項 日加貿易上ノ手續

第一 荷造 荷造ノ方法ハ其物ニヨリ各相異ナレド何レモ破損或ハ水ノ滲入スルヲ防ク工夫緊要ナルベシ假令外部鞏固ナルモ内部ニ於テ物品互ニ摩擦スルカ如キコトアラバ必ス多少ノ損失ヲ免レズサレバ數千里ノ長路ヲ無難ニ送附セントスルニハ鋸屑、葉、稗、餡屑、鋸屑等ヲ以テ其内ニ填充シ動搖セザル様注意スルハ勿論茶烟草ノ如キ濡リ易キモノハ箱入ニテシ鐵葉ノ内張ヲナスベシ又アソベラ包ニスルモノスリ要スルニ其何タルヲ論セス外部ハ必ス一寸板ヲ以テ堅固ナル箱